授 業 計 画

平成 24 年度

Syllabus 2012

健康科学部 健康システム学科

健康科学部

健康システム学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー（AP）

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3 つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1．自ら学ぼうとする意欲のある人
2．自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3．多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー（CP）

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3 つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

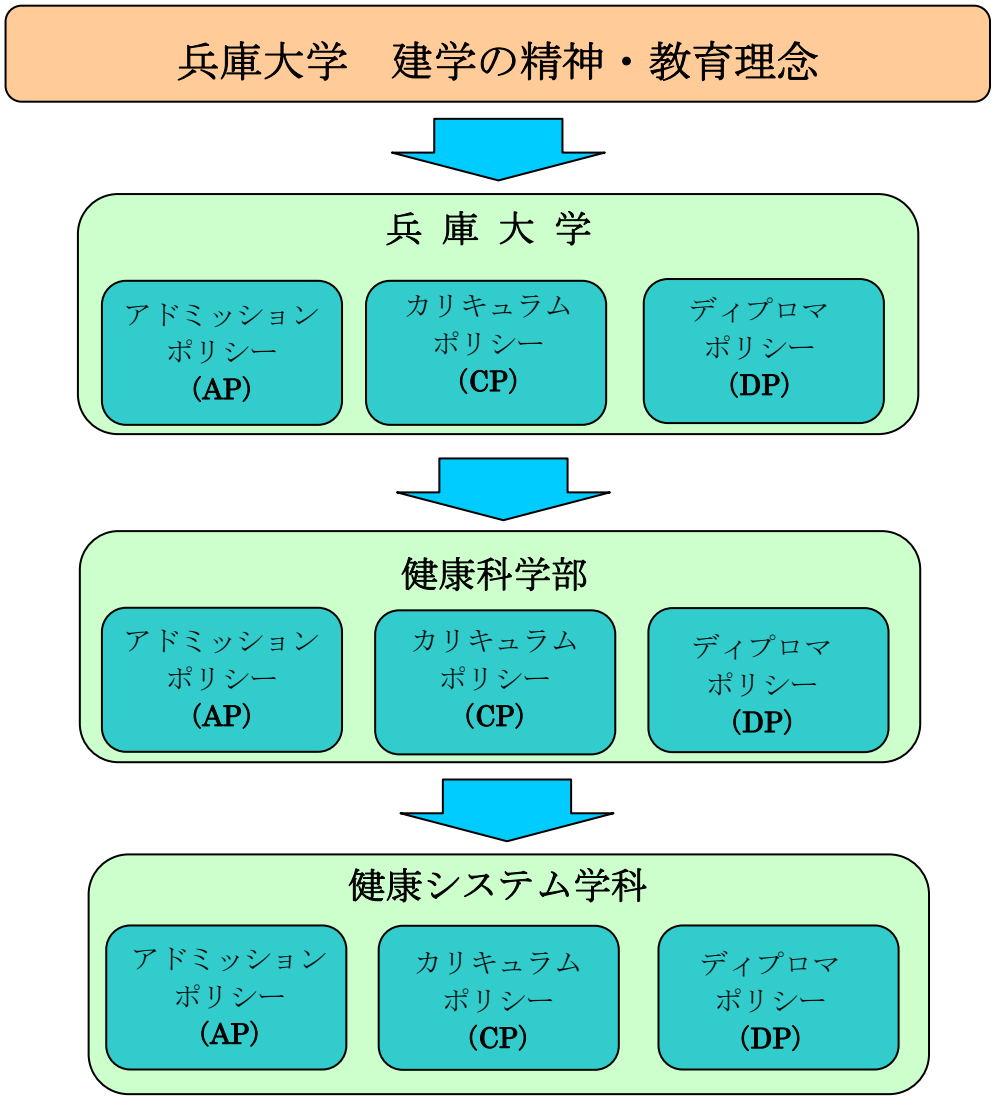
1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

ディプロマポリシー（DP）

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力



みなさんは、

AP に基づいて入学し、

CP に沿って学び

DP に定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。	・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。	・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

--◇--

３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー
・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。

カリキュラムポリシー
・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。

ディプロマポリシー
・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

健康システム学科ポリシー

健康システム学科は、学部ポリシーに基づき、学生の心と体の健康な発達を支援するとともに、学生が健康を科学的に捉えるための基礎的学力と、健康づくりに関する実践的指導力を身につけ、社会に貢献できる人となることを目指します。

アドミッションポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 健康の保持増進に関心をもち、健康な生活を科学的に探究しようとする強い熱意のある人
2. 健康づくりの実践者として、あらゆる人々の健康と生活の質の向上に貢献しようとする人
3. 自主的に勉学に取り組む強い意志や学業に対する強い意欲のある人

カリキュラムポリシー

・健康システム学科のディプロマポリシーに示された３つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 高校までの教育から大学での教育に円滑に移行できるよう、大学教育における学習の方法を身につける
2. 幅広い学問分野の基礎的知識を習得し、運動やスポーツ、養護や保健に関する高度の知識やすぐれた技術を身につける
3. 健康に関する課題の発見や情報収集の力をつけ、科学的な根拠に基づく実践力と応用力を身につける
4. 健康教育の指導者として、課題解決力や情報発信力を養うとともに、総合的に判断する力を身につける
5. 学内外における体験的学習を通して実践力を養うとともに、社会とのかかわりの中で学習を継続していく力を身につける

ディプロマポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士(健康科学)の学位を授与します。

1. 社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力
2. 運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力
3. 幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心をもち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		授業科目名	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○											
			健康システム学科ディプロマポリシー											
			1			2					3			
			社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心をもち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力			
			1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4
			社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）	科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）	複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）	構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）	人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）	効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）	課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）
基礎科目		日本語（読解と表現）	◎								○	○		
		英語	○	○				○				◎		
		コンピュータ演習	○	○	◎							○		
		生物基礎	◎	○			○							
		化学基礎	◎	○			○							
教養科目		宗教と人生	○				◎		○		○			
		生命倫理学	○	○			◎				○			
		哲学	○	○			○	○	○		◎			
		文学	○				○		○		◎			
		芸術	◎	○			○				○			
		色彩とデザイン	○	○			◎							
		心理学		○			○		○		◎		○	
		仏教と現代社会	○				◎			○	○			
		国際理解と文化Ⅰ（キリスト教）	◎	○	○				○		○			
		国際理解と文化Ⅱ（イスラム教）	◎	○	○				○		○			
		法と社会	◎				○			○	○		○	
		日本国憲法	◎				○		○		○			
		人権の歴史	◎		○		○				○		○	
		政治学	○				○		○	◎	○			
		社会学	○	○			◎		○		○			
		経済学	○	○			◎				○			
		化学	◎	○			○		○		○			
		生物学	◎	○			○		○		○			
		食と健康	○			◎	○		○		○			
		常用英語(初級)	○						○		○	◎		
		常用英語(中級)	○						○		○	◎		
		中国語(初級)	○						○		○	◎		
		中国語(中級)	○						○		○	◎		
		韓国語(初級)	○						○		○	◎		
		韓国語(中級)	○						○		○	◎		
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	◎	○		○				○	○			
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	◎			○		○		○		○		
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	◎			○		○		○		○		
		私のためのキャリア設計	○	◎	○					○				○
専門教育科目	専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	◎	○		○					○	○		
		基礎ゼミⅡ	○	○	◎				○					
		健康科学序論	◎	○		○	○	○						
		健康科学	◎	○		○	○	○						
		情報科学	○		◎					○				
		基礎生物学	○				◎				○			
		解剖学	◎	○	○	○	○							
		生理学	◎	○	○	○	○							
		微生物学	◎		○					○				○
		生化学	◎	○			○			○				
		栄養学			○		◎			○				
		食品学	◎			○								
		栄養指導論	○	○		◎			○					
		衛生学	◎						○					
		公衆衛生学	◎			○	○				○			
		医学概論	◎				○			○	○			
		認知心理学	◎	○			○							
		健康心理学	◎	○		○		○						
		生涯発達心理学	○							○	◎			
		臨床心理学						○	○		◎	○		○
		人間関係論					○		○			○	◎	
		外書購読Ⅰ	◎	○							○			
		外書購読Ⅱ	◎	○							○			
		教育特論Ⅰ	○						◎	○		○		
		教育特論Ⅱ	○				○		○			◎	○	
		教育特論Ⅲ			○		○	◎				○	○	
		地域活動演習Ⅰ						◎	○		○	○	○	
		地域活動演習Ⅱ						◎	○		○	○	○	

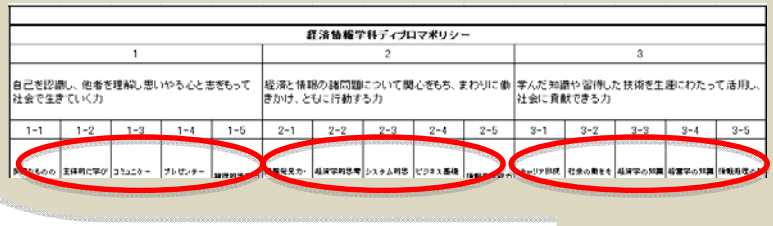
授業科目の区分		授業科目名	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○											
			健康システム学科ディプロマポリシー											
			1			2					3			
			社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心をもち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力			
			1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4
			社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）	科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）	複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）	構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）	人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）	効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）	課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）
専門教育科目	Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）	体育原理		◎		○	○		○					
		運動の基礎	◎	○		○	○			○				
		運動生理学				◎	○	○	○	○				
		運動生理学演習		○		○		◎	○	○				
		運動栄養学				◎	○	○	○	○				
		子ども運動学	○	◎		○	○						○	
		子ども運動学演習	○					◎		○			○	○
		スポーツ医学概論			○		◎	○	○	○				
		スポーツ心理学		○		◎	○				○	○		
		障害者スポーツ論				◎		○			○		○	
		スポーツ史（体育史を含む）		○		○	◎		○					
		スポーツ科学Ⅰ				◎	○	○		○				○
		スポーツ科学Ⅱ				◎	○	○		○				○
		トレーニング科学Ⅰ				○	○	○		○				◎
		トレーニング科学Ⅱ				○	○	○		○				◎
		体力測定と評価		◎	○	○					○			
		スポーツ実践Ⅰ	○			◎	○	○			○			
		スポーツ実践Ⅱ	○			○		◎	○			○		
		健康・体力づくり実践Ⅰ	○				○		◎	○			○	
		健康・体力づくり実践Ⅱ	○	○					○	◎				○
		スポーツ指導法Ⅰ			○		○			○	○			◎
		スポーツ指導法Ⅱ			○			○		○	○			◎
		健康・体力づくり指導法Ⅰ						○	○	○		○		◎
		健康・体力づくり指導法Ⅱ						○	○	○			○	◎
		運動処方論				○	◎	○		○				○
		運動処方演習		◎	○		○		○	○				
		レクリエーション（野外活動を含む）						○		◎	○	○	○	
専門教育科目	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	病理学概論		○		○	◎	○						
		薬理学	○				○	◎		○	○			
		養護概説Ⅰ		○		○	○		◎		○			
		養護概説Ⅱ			○	○	○		○		◎			
		養護活動演習		○		○	◎				○	○		
		養護活動実習			○			◎	○				○	○
		学校保健Ⅰ（小児保健・学校安全を含む）	◎	○						○	○			
		学校保健Ⅱ				○	○	◎			○	○		
		学校保健Ⅲ				○			○		◎		○	○
		精神保健		○			○			○	◎			
		健康行動論				○		◎	○		○			
		健康統計学		◎		○		○			○			
		健康相談活動の理論と実践					○	◎			○	○		○
		基礎看護学	○	◎		○	○					○		
		看護学Ⅰ			○		○	○			◎		○	
		看護学Ⅱ			○		○	○			◎		○	
		臨床看護実習	○						○		○	◎	○	
		救急看護（救急処置を含む）		○	○	○		◎			○			
	卒業研究	卒業研究Ⅰ		◎			○				○			○
		卒業研究Ⅱ			◎		○			○	○			○

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには５つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは５つ以上記載されている科目もあります。



科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

科目名							
担当者氏名							
授業方法		単位		選択区分		開講年次	
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-4 ビジネス 基礎力 ○ 3-1 キャリア 形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用						

《授業の概要》

《テキスト》

《参考図書》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ　（全角22文字）	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15 回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

健康科学部健康システム学科
【卒業要件単位数】

■平成 24(2012)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	8 単位	4 科目
	Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）	6 単位	—	—
	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	6 単位	—	—
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位	—	—
合計		124 単位	24 単位	11 科目

■平成 23～21(2011～2009)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		30 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	8 単位	8 単位	4 科目
	Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）	6 単位	—	—
	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	6 単位	—	—
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		68 単位	—	—
合計		124 単位	24 単位	11 科目

平成 24（2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成24年度（2012年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2							2								［安井］･［辻本］･［野田］	13
	英語	演習	2							2								平本 幸治	14
	英語	演習	2				○	△	□	2								［小泉 毅］	15
	英語	演習	2							2								［Michael. H. FOX］	16
	コンピュータ演習	演習	2				○	△	□	2								河野 稔	17
	生物基礎	講義		※2						2								［池内 敢、他］	18
	化学基礎	講義								2								［中本 捷八朗、他］	19
教養科目	宗教と人生	講義	2								2							（本多 彩）	20
	生命倫理学	講義		2							②		②		②		②	［浅沼 光樹］	21
	哲学	講義		2							②		②		②		②	［三浦 摩美］	22
	文学	講義		2						②		②		②		②		［安井 重雄］	23
	芸術	講義		2							②		②		②		②	［柳楽 節子］	24
	芸術	講義		2							②		②		②		②	［岩見 健二］	25
	心理学	講義		2						②		②		②		②		（北島 律之）	26
	仏教と現代社会	講義		2							②		②		②		②	（本多 彩）	27
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2						②		②		②		②		［穂積 修司］	28
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2							②		②		②		②	［重親 知左子］	29
	色彩とデザイン	講義		2						②		②		②		②		（浜島 成嘉）･（稲冨 恭）	30
	法と社会	講義		2							②		②		②		②	［國友 順市］	31
	日本国憲法	講義		2			○	△	□	②		②		②		②		［笹田 哲男］	32
	人権の歴史	講義		2						②		②		②		②		西脇 修	33
	政治学	講義		2						②		②		②		②		（斎藤 正寿）	34
	社会学	講義		2						②		②		②		②		（吉原 惠子）	35
	経済学	講義		2						②		②		②		②		（石原 敬子）	36
	化学	講義		2						②		②		②		②		［岡本 一彦］	37
	生物学	講義		2						②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	38
	食と健康	講義		2							②		②		②		②	（亀谷 小枝）	39
	実用英語（初級）	演習		2							②		②		②		②	［加藤 恭子］	40
	実用英語（中級）	演習		2								②		②		②			
	中国語（初級）	演習		2						②		②		②		②		［佟 曉寧］	41
	中国語（中級）	演習		2							②		②		②		②	［佟 曉寧］	42
	韓国語（初級）	演習		2						②		②		②		②		［李 知妍］	43
	韓国語（中級）	演習		2							②		②		②		②	［李 知妍］	44
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2							②		②		②		②	三宅 一郎	45
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2			○	△	□		②		②		②		②	徳田 泰伸	46
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2						②		②		②		②		三宅･徳田･樽本･矢野	47
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2							②		②		②		②	三宅･徳田･樽本･矢野	48
	私のためのキャリア設計	講義		2						②		②		②		②		［有働 壽恵］	49

▽は健康運動指導士養成科目
◇は健康運動実践指導者養成科目
○は養護教諭免許必修科目
△は保健体育免許必修科目
□は保健免許必修科目
※　基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎科目》

科目名	日本語（読解と表現）				
担当者氏名	安井 重雄、辻本 恭子、野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
授業内容は、大学での学習、日常生活、社会生活で活用する、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などである。毎回問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、辞書を引きながら問題を解いていく。

《授業の到達目標》
漢字、慣用表現を適切に使用し、読解できる。主語と述語をしっかりと呼応して用いることができる。助詞を適切に使用できる。敬語を適切に使用できる。

《成績評価の方法》
授業回数の3分の2（10回）以上出席しなければ単位を与えない。授業時に複数回実施する小テスト（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考文献》
授業時に、指示する。

《授業時間外学習》
当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《備考》
毎回、設問を解くので、必ず国語辞典を持参すること。電子辞書も可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	漢字には同じ音を持つものがたくさんあり、それらの意味による使い分けを学ぶ。
3	四字熟語	四字熟語には多くの種類があり、それらを理解する。それによって、日本文化の理解や、日常のコミュニケーションの理解に繋げる。
4	慣用表現・ことわざ	慣用表現は永く使い慣らされてきた表現。ことわざは教訓や生活の知恵を簡単に覚えることができる。
5	慣用表現・故事成語	故事成語は昔の出来事や書物を出典とする慣用表現。日常生活の知識として有効である。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
7	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の違い、「に」と「へ」の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	主語と述語、助詞の用法について復習する	主語と述語、助詞などについて復習し、発展問題を解く。
11	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	敬語についてまとめを行う。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテクストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
『TOEIC Test Fundamentals』
クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テクストを精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》
英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて→話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《成績評価の方法》
英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

《テキスト》
プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy Engolish〕（長崎出版）

《参考文献》
NHKラジオの「新基礎英語Ⅰ」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業時間外学習》
毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までする。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》
1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検５級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検５級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）①英検４級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）②英検４級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）①英検３級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）②英検３級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習① 英検５級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習② 英検５級（全体）
10	～しましょうか？ ～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent E）① 英検４級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent E）② 英検３級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）① 英検準２級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）② 英検５、４級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習① 英検３級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習② 英検準２級総復習

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ◎　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力を修得します。
ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報モラルなど、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》
○パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
○目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
○ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》
○実習での提出課題（80%）と情報モラルに関するレポート等の提出物（20%）で評価します。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《テキスト》
○毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
○配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考文献》
矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社.
情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2011)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2011』実教出版.
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》
この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。
とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では、3回の授業ごとにまとめ課題があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》
学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。
また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／授業前アンケートの実施
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	情報モラル
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト（図やイラストの利用）
8	文書作成(3)	まとめ課題
9	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
10	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
11	プレゼンテーション(3)	まとめ課題
12	プレゼンテーション(4)	まとめ課題の発表／相互評価
13	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
14	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用
15	データ処理(3)／まとめ	まとめ課題／授業全体のふり返り

《基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	池内 敢、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合）				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト７０％、平常点３０％）

《テキスト》

「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分－管理栄養士・栄養士のために」
五明紀春他著（技報堂出版）

「細胞の分子生物学」アルバーツ他著（ニュートンプレス社）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいらない呼吸もある？
5	生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝Ⅱ 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫　体を外敵から守るしくみ
14	生態系と人間	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎科目》

科目名	化学基礎				
担当者氏名	中本 捷八朗、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

授業期間の２/３を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の
１/３の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があってこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉学が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト７０％、平常点３０％）

《テキスト》

「食を中心とした化学」　北原・塚本・野中・水崎著
（東京教学社）

《参考文献》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎　化学入門コース１」　竹内敬人著（岩波書店）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合　イオン・共有・配位・水素結合
3	化学反応式	$CH_4 + 2O_2 \rightarrow CO_2 + 2H_2O$ の意味
4	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
5	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
6	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？
7	溶解・浸透圧	ナメクジに塩をかけると・・・
8	酸と塩基	酸味の原因
9	コロイド	豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
10	有機化学Ⅰ　有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学Ⅱ　官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学Ⅲ　糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学Ⅳ　タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に自ら取り組む力を養う。
兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》
われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。
さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、宗教やスピリチュアル・ケアという視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約20%
定期テスト　約50%　　この3項目で評価する。
講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
　定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～
　宗教セミナー
　宗教ツアー
　花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の類型	分布や性格によって分けられる宗教の類型を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る①	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る②	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る①	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《授業の到達目標》
・生命倫理学とは何か説明できる。
・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《成績評価の方法》
毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《テキスト》
市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》
『生命倫理学入門［第3版］』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業時間外学習》
授業で試聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《備考》
自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がりに努めてみよう。
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力）				

《授業の概要》
言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《授業の到達目標》
文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《成績評価の方法》
授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》
身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》
日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》
各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》
レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から －1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から －2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から －3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拝 神道 仏教
6	仏教美術 －1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 －2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 －1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 －2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 －3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 －4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 －5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 －6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 －7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》
授業中に随時紹介

《授業の到達目標》
1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》
毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》
・授業には、１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
・課題レポート（100%）

《備考》
特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》

人間を理解すること，とりわけ「心」について理解することは，社会において適応的な生活を行う上でとても重要です．本授業では，心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき，これまでにわかっている知見を整理し，人間の心の多様性を理解します．プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに，簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い，視覚的，体験的理解を重視します．

《授業の到達目標》

○「心理学」にはどのような領域があるか類別できる．
○種々のデータを基に，心を科学的な視点から説明できる．
○心に関する共通的な性質と個人差を説明できる．

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%
レポート・小テストなど10%
受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』無藤隆，森敏昭，遠藤由美，玉瀬耕治/有斐閣
（より深く勉強したい人向き）
『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
（内容が難しすぎると感じる人向き）

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています．読んでおくようにしてください．この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません．前もって内容を意識することが大切です．
・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください．

《備考》

・心理学を学ぶには，日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説．《序章§1～9》
2	情報，入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ．《第1章§1～2，§6～7》
3	覚えているって，どういうこと？(記憶)	記憶のプロセス，記憶にまつわるいくつかの事象．《第3章§4》
4	どうやって，学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方．条件づけなど．《第3章§1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方．《第2章§5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅰ	私たちが欲するものを分類．《第2章§1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅱ	欲求の階層．思うようにいかないときの行動．《第2章§2～4》
8	君って，どんな人？(性格)	性格という，分かっているようで分からないものに対する心理学の見方．《第4章§1，第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観．《第4章§2～3》
10	あの人って，きっとこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質．《第6章§1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果．《第6章§4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷．《第6章§2》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論．心理療法にも言及．《第5章§4，第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり．
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解．

《教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》
※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
※現代仏教についての理解をめざす
※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約30%
定期テスト　約40%　　この3項目で評価する。
講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
　定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～　思惟館
　宗教セミナー
　宗教ツアー
　花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

＊キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

＊キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち　初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

＊日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。

＊配布する資料が散在しないように整理しておく。

＊新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

＊私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》
・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》
・授業終了後に課すレポート(50%）と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%）で評価する。
・レポートの提出遅れについては減点する。
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》
臼杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか 』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》
・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目》

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲冨 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

本授業は色彩とデザインの両分野について取り上げる。前者においては色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。後者においては、身の回りの様々なデザインと価値感との関連について多面的に考察する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解できるようにする。またデザイン一般に関する基礎知識を身につけるとともに、デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード１２９a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考文献》

・『生活と色彩』(朝倉書店)
・『カラーコディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
・『世界デザイン史』(美術出版社)
・『近代椅子学事始』(ワールドフォトプレス)
・『北欧デザイン(1)～(3)』（プチグラパブリッシング)
・『20 世紀ファッションの文化史』(河出書房新社)

《授業時間外学習》

・予習の方法 シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
・復習の方法 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
・学期末レポート 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11 週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めない。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。(担当:浜島)
2	色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
3	色の感情効果	赤、橙、黄、青など、それぞれの色相がもっている、色の感情効果について。 色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。(担当:浜島)
4	色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。(担当:浜島)
5	配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それに従ってに配色を考えれば良い。メージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
6	デザインの概念	実用品、贅沢品、芸術作品という観点からデザインを理解する。(担当:稲冨)
7	ギリシア・ローマ期からゴシックの様式	クラシックなデザインの系譜 について理解する。(デザインの歴史(1))(担当:稲冨)
8	ルネサンスから新古典の様式	科学技術の発展を背景としたデザインの変化について理解する。(デザインの歴史(2))(担当:稲冨)
9	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムの様式	社会の変化とデザインの関わりについて理解する。(デザインの歴史(3))(担当:稲冨)
10	建築とインテリア	建築・椅子のデザインを通じて、材料・技術の発展について理解する。(担当:稲冨)
11	ファッションデザイン	20 世紀ファッションの系譜と大衆化現象の関わりについて理解する。(担当:稲冨)
12	和風のデザイン	懐石料理と茶室の背景を理解し、和風デザインの系譜について学ぶ。 (担当:稲冨)
13	映像デザイン	映画・ドラマを通じて、映像作品の構造と文法を理解する。(担当:稲冨)
14	プロダクトデザイン	アメリカ・イタリア・北欧のプロダクトデザインと社会の関連について理解する。(担当:稲冨)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲冨)

《教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》
目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》
適宜指示する

《授業の到達目標》
リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》
予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》
講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道徳、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下の平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《授業の到達目標》
１．「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
２．日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
３．日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《成績評価の方法》
第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『改訂 現代の法学ー法学・憲法ー』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》
『憲法学教室 全訂第２版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第３版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》
法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（１）	①前文の「平和主義」関係部分、第９条の内容について説明することができる。②第９条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（２）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（１）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（２）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（１）	①「法の下の平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（２）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（３）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（４）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（５）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（１）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（２）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（３）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》
様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》
定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》
テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》
共生教育のすすめ 仲田 直
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聰
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聰

《授業時間外学習》
配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》
出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくらたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

○政治学のボキャブラリーを使用して、現実に起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
○現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースを関心をもって接すること。
（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の３側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の３局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞄、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

(1) 社会学的ものの見方ができるようになる
(2) 社会を理解するために、社会学的道具を使うことができるようになる
(3)みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
○ 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴惠（2007, 有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類〈社会的カテゴリー〉
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域〈公的領域〉、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	（適宜指示を行う）
15	学習の総まとめ(2)	（適宜指示を行う）

《教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》
・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》
平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》
特に指定しません。
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》
授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》
・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう（1）	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう（2）	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割（1）	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割（2）	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう（1）	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう（2）	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう（3）	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方を用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①．１０問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。 ②．10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。 ①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせ、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E.F.Neuzil著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J.E.Brady、G.E.Humiston著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」 東京化学同人。（1991）J.N.Spencer、G.M.Bodner、L.H.Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造Ⅰ	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造Ⅱ	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造Ⅲ	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造Ⅳ	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造Ⅴ	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造Ⅰ	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造Ⅱ	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造Ⅲ	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態Ⅰ	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態Ⅱ	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液Ⅰ	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液Ⅱ	溶液の性質の続き。
13	化学反応Ⅰ	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応Ⅱ	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応Ⅲ	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期、Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつくられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》
生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》
ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。
全回出席が原則。

《テキスト》
使わない。　図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》
授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。　『細胞の分子生物学』　アルバーツ他著、
『生命と地球の歴史』　丸山茂徳・磯崎行雄著、
『「共生」とは何か』　松田裕之著、

《授業時間外学習》
ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》
いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつくられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたら細胞は死ぬ。　組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的増加（指数関数）の増加のものすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きているだけであるのに、主体性があって、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長いが細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナップスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的にふるまってもできてしまう関係である。

《教養科目》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》
・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》
「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編 （朝倉書店）

《参考文献》
「食生活論」 遠藤金次他編 （南江堂）
「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編 （学文社）
「私たちの食と健康」 吉田勉監修 （三共出版）

《授業時間外学習》
・毎回、テキストをしっかり読んで勉強してくること。
・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》
・授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《授業の到達目標》
TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《成績評価の方法》
平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《テキスト》
"Ultimate Solution to the TOEIC Test" by Tatsuo Kimura and David Coulson. Macmillan Languagehouse

《参考文献》

《授業時間外学習》
次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《備考》
毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の 演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1〜UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を軸に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》
・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》
・予習の方法
①CDを聞くこと
②新出単語をチェックすること
・復習の方法
①CDを聞くこと
②会話文を暗誦すること

《備考》
・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは　発音1	挨拶の言葉1　中国語の音節　声調　ドリル　（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日　　発音2	挨拶の言葉2　単母音　復母音　ドリル　（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう　発音3	挨拶の言葉3　子音1　ドリル　（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり　発音4	挨拶の言葉4　子音2　鼻音　ドリル　（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
7	第6課 動詞　・　助詞	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第７・８課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ◎　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《授業の到達目標》

○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。
○中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》

・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課　文法	①数の言い方　・　お金の言い方　②形容詞の文
2	第10課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課　文法	①年月日、曜日の言い方　②年齢の言い方
4	第11課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課　文法	①量詞（ものの数え方）　②動詞の重ね方
6	第12課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課　文法	①時刻の言い方　②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課　文法	①時間量の言い方　②完了の「了」の使い方
10	第14課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課　文法	①前置詞「給」　②助動詞「可以」「能」
12	第15課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課　文法	①現在進行形の言い方　②助動詞「会」
14	第16課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目》

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子　朝日出版社

《参考文献》
『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利　他編著　小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲　監修・熊谷明泰編集　白水社、2011年
『韓国語を学ぶⅡ』
韓在熙・岡山善一郎　白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
テキストに付いているＣＤを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音＋母音の後に来る子音、支えると意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第１課　私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は(助詞）ついて学習する。
8	第２課　お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요体）、～が(助詞）について学習する。
9	第３課　ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第３課まで復習、練習問題を通じて確認する。　自己紹介の練習を行う。
11	第４課　近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第５課　学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所＋에서)を学習する。
13	第６課　私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第６課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》
油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』白水社、2011年
韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第７課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞）ついて学習する。
3	第８課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第９課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review ３	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目（2）：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review ４	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで３時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　(知識・理解) ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　(情報収集力) ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　(専門的技術力) ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　(生涯学習力) ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　(コミュニケーション力)				

《授業の概要》
体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》
価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）
受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）
学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他（杏林書院）
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
　下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞
　学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》
この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その１）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その２）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) ○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) ○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院） ○『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》
毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	１年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自１日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	１０週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しあう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
　実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球　等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク　等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール　等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、（1）自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。 （2）長期に亘るキャリアについて考える。 （3）経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》
（1）家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。 （2）ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。（3）生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。 （4）収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》
（1）筆記試験 50%
（2）課題提出物 30%
（3）授業への取組姿勢 20%

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》
（1）大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 （2）矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 （3）最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 （4）スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》
（1）次回のプリントを読んでおくこと
（2）「読む力」の課題をしておくこと
（3）新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》
（1）毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える（1）	生活経営とは何か
2	生活を考える（2）	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活（1）	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活（2）	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択(1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択(2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択(3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択(4)	職業の選択とライフロール（映画の場面から考える）
9	キャリア発達理論（1）	職業キャリアからライフキャリアへ（スーパー）
10	キャリア発達理論（2）	組織におけるキャリア発達（シャイン）
11	キャリア発達理論（3）	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶことの大切さ（クランボルツ）
12	キャリア発達理論（4）	転機へのアプローチ（シュロスバーグ）、視点の変化（ハンセン）
13	生涯学習の必要性（1）	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性（1）	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

平成 23～21（2011～2009）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成23年度（2011年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目		日本語（読解と表現）	演習	2						2									
		英語	演習	2			○	△	□	2									
		コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2									
		生物基礎	講義		※2					2									
		化学基礎	講義							2									
教養科目	人文系	宗教と人生	講義	2							2								
		生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	［浅沼 光樹］	55
		生涯発達心理学	講義		2						②		②		②		②	森田 義宏	56
		哲学	講義		2						②		②		②		②	［三浦 摩美］	57
		文学	講義		2					②		②		②		②		［安井 重雄］	58
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［柳楽 節子］	59
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［岩見 健二］	60
		心理学	講義		2					②		②		②		②		（北島 律之）	61
		宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2						②		②		②		②	（本多 彩）	62
		宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		［穂積 修司］	63
		宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	［重親 知左子］	64
		生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		（稲冨 恭）	65
		色彩学	講義		2					②		②		②		②		（浜島 成嘉）	66
		音楽表現	演習		2					②		②		②		②		［大串 和久］	67
		アメリカ文学	講義		2						②		②		②		②	平本 幸治	68
		論説と評論	講義		2						②		②		②		②	［安井 重雄］	69
		歴史学	講義		2					②		②		②		②		（金子 哲）	70
		日本語表現法	演習		2						②		②		②		②	［野田 直恵］	71
	社会系	法と社会	講義		2						②		②		②		②	［國友 順市］	72
		日本国憲法	講義		2		○	△	□	②		②		②		②		［笹田 哲男］	73
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		西脇 修	74
		政治学	講義		2					②		②		②		②		（斎藤 正寿）	75
		国際関係論	講義		2						②		②		②		②	（斎藤 正寿）	76
		社会学	講義		2					②		②		②		②		（吉原 惠子）	77
		ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	（吉原 惠子）	78
		経済学	講義		2					②		②		②		②		（石原 敬子）	79
	自然系	数学	講義		2						②		②		②		②	（山本 真弓）	80
		物理学	講義		2					②		②		②		②		（湯瀬 晶文）	81
		化学	講義		2					②		②		②		②		［岡本 一彦］	82
		生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	83
		食と健康	講義		2						②		②		②		②	（亀谷 小枝）	84
	語学系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	［Michael. H. FOX］	85
		英語Ⅱ	演習		2							②		②		②		［Michael. H. FOX］	86
		英語Ⅲ	演習		2								②		②		②	［Michael. H. FOX］	87
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［本多 雄一郎］	88
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［本多 雄一郎］	89
		ドイツ語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［竹内 節］	90
		ドイツ語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［竹内 節］	91
		中国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［佟 曉寧］	92
		中国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［佟 曉寧］	93
		韓国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［李 知妍］	94
		韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［李 知妍］	95
	体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2		○	△	□		②		②		②		②	三宅 一郎	96
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	徳田 泰伸	97
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	98
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	三宅一・徳田・樽本・矢野	99
	キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
		私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		［有働 壽恵］	100
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	［山本 清美］	101
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		［山本 清美］	102
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	［山本 清美］	103

◇は健康運動実践指導者養成科目
○は養護教諭免許必修科目
△は保健体育免許必修科目
□は保健免許必修科目
※　基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成22年度（2010年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目		日本語（読解と表現）	演習	2						2									
		英語	演習	2			○	△	□	2									
		コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2									
		生物基礎	講義		※2					2									
		化学基礎	講義							2									
教養科目	人文系	宗教と人生	講義	2						2									
		生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	［浅沼 光樹］	55
		哲学	講義		2						②		②		②		②	［三浦 摩美］	57
		文学	講義		2					②		②		②		②		［安井 重雄］	58
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［柳楽 節子］	59
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［岩見 健二］	60
		心理学	講義		2					②		②		②		②		（北島 律之）	61
		宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2						②		②		②		②	（本多 彩）	62
		宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		［穂積 修司］	63
		宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	［重親 知左子］	64
		生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		（稲冨 恭）	65
		色彩学	講義		2					②		②		②		②		（浜島 成嘉）	66
		音楽表現	演習		2					②		②		②		②		［大串 和久］	67
		アメリカ文学	講義		2						②		②		②		②	平本 幸治	68
		論説と評論	講義		2						②		②		②		②	［安井 重雄］	69
		歴史学	講義		2					②		②		②		②		（金子 哲）	70
		日本語表現法	演習		2						②		②		②		②	［野田 直恵］	71
	社会系	法と社会	講義		2						②		②		②		②	［國友 順市］	72
		日本国憲法	講義		2		○	△	□	②		②		②		②		［笹田 哲男］	73
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		西脇 修	74
		政治学	講義		2					②		②		②		②		（斎藤 正寿）	75
		国際関係論	講義		2						②		②		②		②	（斎藤 正寿）	76
		社会学	講義		2					②		②		②		②		（吉原 惠子）	77
		ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	（吉原 惠子）	78
		経済学	講義		2					②		②		②		②		（石原 敬子）	79
	自然系	数学	講義		2						②		②		②		②	（山本 真弓）	80
		物理学	講義		2					②		②		②		②		（湯瀬 晶文）	81
		化学	講義		2					②		②		②		②		［岡本 一彦］	82
		生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	83
		食と健康	講義		2						②		②		②		②	（亀谷 小枝）	84
	語学系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	［Michael. H. FOX］	85
		英語Ⅱ	演習		2							②		②		②		［Michael. H. FOX］	86
		英語Ⅲ	演習		2								②		②		②	［Michael. H. FOX］	87
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［本多 雄一郎］	88
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［本多 雄一郎］	89
		ドイツ語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［竹内 節］	90
		ドイツ語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［竹内 節］	91
		中国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［佟 曉寧］	92
		中国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［佟 曉寧］	93
		韓国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［李 知妍］	94
		韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［李 知妍］	95
	体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2		○	△	□		②		②		②		②	三宅 一郎	96
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	徳田 泰伸	97
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	98
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	三宅一・徳田・樽本・矢野	99
	キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
		私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		［有働 壽恵］	100
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	［山本 清美］	101
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		［山本 清美］	102
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	［山本 清美］	103

◇は健康運動実践指導者養成科目
○は養護教諭免許必修科目
△は保健体育免許必修科目
□は保健免許必修科目
※　基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成21年度（2009年度）入学者対象
（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目		日本語（読解と表現）	演習	2						2									
		英語	演習	2			○	△	□	2									
		コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2									
		生物基礎	講義		※2					2									
		化学基礎	講義							2									
教養科目	人文系	宗教と人生	講義	2						2									
		生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	[浅沼 光樹]	
		哲学	講義		2						②		②		②		②	[三浦 摩美]	57
		文学	講義		2					②		②		②		②		[安井 重雄]	58
		芸術	講義		2						②		②		②		②	[柳楽 節子]	59
		芸術	講義		2						②		②		②		②	[岩見 健二]	60
		心理学	講義		2					②		②		②		②		(北島 律之)	61
		宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2						②		②		②		②	(本多 彩)	62
		宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		[穂積 修司]	63
		宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	[重親 知左子]	64
		生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		(稲冨 恭)	65
		色彩学	講義		2					②		②		②		②		(浜島 成嘉)	66
		音楽表現	演習		2					②		②		②		②		[大串 和久]	67
		アメリカ文学	講義		2						②		②		②		②	平本 幸治	68
		論説と評論	講義		2						②		②		②		②	[安井 重雄]	69
		歴史学	講義		2					②		②		②		②		(金子 哲)	70
		日本語表現法	演習		2						②		②		②		②	[野田 直恵]	71
	社会系	法と社会	講義		2						②		②		②		②	[國友 順市]	72
		日本国憲法	講義		2		○	△	□	②		②		②		②		[笹田 哲男]	73
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		西脇 修	74
		政治学	講義		2					②		②		②		②		(斎藤 正寿)	75
		国際関係論	講義		2						②		②		②		②	(斎藤 正寿)	76
		社会学	講義		2					②		②		②		②		(吉原 惠子)	77
		ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	(吉原 惠子)	78
		経済学	講義		2					②		②		②		②		(石原 敬子)	79
	自然系	数学	講義		2						②		②		②		②	(山本 真弓)	80
		物理学	講義		2					②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	81
		化学	講義		2					②		②		②		②		[岡本 一彦]	82
		生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	(本多 久夫)	83
		食と健康	講義		2						②		②		②		②	(亀谷 小枝)	84
	語学系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	85
		英語Ⅱ	演習		2							②		②		②		[Michael. H. FOX]	86
		英語Ⅲ	演習		2								②		②		②	[Michael. H. FOX]	87
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[本多 雄一郎]	88
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	[本多 雄一郎]	89
		ドイツ語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[竹内 節]	90
		ドイツ語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	[竹内 節]	91
		中国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	92
		中国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	[佟 曉寧]	93
		韓国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[李 知妍]	94
		韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	[李 知妍]	95
	体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	三宅 一郎	96
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	徳田 泰伸	97
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2		○	△	□	②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	98
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	三宅一・徳田・樽本・矢野	99
	キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
		私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	100
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	[山本 清美]	101
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	102
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	[山本 清美]	103

◇は健康運動実践指導者養成科目
○は養護教諭免許必修科目
△は保健体育免許必修科目
□は保健免許必修科目
※　基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《教養科目 人文系》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《授業の到達目標》
・生命倫理学とは何か説明できる。
・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《成績評価の方法》
毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《テキスト》
市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》
『生命倫理学入門［第3版］』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業時間外学習》
授業で試聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《備考》
自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目 人文系》

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解）				

《授業の概要》
発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要さについて学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中随時紹介する

《授業の到達目標》
＊発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
＊発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
＊発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》
授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》
試験１００％

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 生涯発達心理学とは	オリエンテーション　発達の概念　発達の原理　　発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境　野生児の記録　　家系研究　　双生児研究　　親の養育態度
3	乳児期の心理１	乳児期の認知　感覚運動的知能　脱馴化　愛着　基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理１	幼児の認知　前概念思考期　直観的思考期　象徴機能　3項関係　心の理論 ことばの獲得
5	幼児期の心理２	社会性の発達　　遊びの発達　　自律性／恥・疑惑　　主導性／罪悪感
6	児童期の心理１	児童期の認知発達　具体操作期　クラスの概念　脱中心化　勤勉性／劣等感
7	児童期の心理２	ギャング集団　　道徳性の発達　向社会的行動の発達　学校ストレス　　心身症
8	青年期の心理１	過渡期　文化相対論　自我の覚醒　自主自律の要求　異議申し立て　精神的離乳
9	青年期の心理２	第2反抗期　　脱衛星化　　感情の論理　　理想主義　　自己主張・自己顕示
10	青年期の心理３ 成人期の心理１	自我同一性の確立　再衛星化　職業への準備　恋愛と結婚　青年から成人へ 仕事と家庭
11	成人期の心理２	一家を構える　親意識　仕事における自己拡大　仕事と家庭　親密性/孤立　愛
12	中年期の心理１	個性化　第2の人生　生活の再構造化　体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理２	生殖性／停滞　世話　更年期　自殺　夫婦の危機　子どもの成長と独立
14	老年期の心理１	加齢と老化　統合性／絶望　　英知　　高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理２ まとめ	引退の危機　健康の危機　死の危機　サクセスフルエイジング

《教養科目 人文系》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》
哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》
平常のレポートにて評価する。

《テキスト》
適宜資料を配付する。

《参考文献》
そのつど紹介する。

《授業時間外学習》
哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がりに努めてみよう。
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目 人文系》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力）				

《授業の概要》
言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《授業の到達目標》
文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《成績評価の方法》
授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》
身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》
日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》
各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》
レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から －1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から －2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から －3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拝 神道 仏教
6	仏教美術 －1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 －2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 －1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 －2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 －3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 －4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 －5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 －6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 －7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》
授業中に随時紹介

《授業の到達目標》
1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》
毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》
・授業には、１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
・課題レポート（100%）

《備考》
特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目 人文系》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》

人間を理解すること，とりわけ「心」について理解することは，社会において適応的な生活を行う上でとても重要です．本授業では，心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき，これまでにわかっている知見を整理し，人間の心の多様性を理解します．プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに，簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い，視覚的，体験的理解を重視します．

《授業の到達目標》

○「心理学」にはどのような領域があるか類別できる．
○種々のデータを基に，心を科学的な視点から説明できる．
○心に関する共通的な性質と個人差を説明できる．

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%
レポート・小テストなど10%
受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』無藤隆，森敏昭，遠藤由美，玉瀬耕治/有斐閣
（より深く勉強したい人向き）
『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
（内容が難しすぎると感じる人向き）

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています．読んでおくようにしてください．この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません．前もって内容を意識することが大切です．
・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください．

《備考》

・心理学を学ぶには，日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説．《序章§1～9》
2	情報，入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ．《第1章§1～2，§6～7》
3	覚えているって，どういうこと？(記憶)	記憶のプロセス，記憶にまつわるいくつかの事象．《第3章§4》
4	どうやって，学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方．条件づけなど．《第3章§1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方．《第2章§5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅰ	私たちが欲するものを分類．《第2章§1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅱ	欲求の階層．思うようにいかないときの行動．《第2章§2～4》
8	君って，どんな人？(性格)	性格という，分かっているようで分からないものに対する心理学の見方．《第4章§1，第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観．《第4章§2～3》
10	あの人って，きっとこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質．《第6章§1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果．《第6章§4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷．《第6章§2》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論．心理療法にも言及．《第5章§4，第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり．
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解．

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化Ⅰ（仏教）				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》
※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
※現代仏教についての理解をめざす
※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》
受講態度 約30%
小テスト・レポート 約30%
定期テスト 約40% この3項目で評価する。
講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

＊キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

＊キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち　初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

＊日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。

＊配布する資料が散在しないように整理しておく。

＊新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

＊私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

科目名	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》
・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》
・授業終了後に課すレポート(50%) と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%) で評価する。
・レポートの提出遅れについては減点する。
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》
臼杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか 』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》
・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目 人文系》

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲冨 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する (知識・理解) ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合)				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけで
はなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような価値観を配分する行為がデザインであるとの視点に立ち、身の回りのものと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

○デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
○デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
○デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考文献》

・以下のような文献が授業の理解を深めます。
・『世界ﾃﾞｻﾞｲﾝ史』阿部 公正、美術出版社,1995
・『近代椅子学事始』島崎 信、ﾜｰﾙﾄﾞﾌｫﾄﾌﾟﾚｽ,2002
・『北欧ﾃﾞｻﾞｲﾝ(1)～(3)』 渡部 千春、ﾌﾟﾁｸﾞﾗﾊﾟﾌﾞﾘｯｼﾝｸﾞ,2004
・『20世紀ﾌｧｯｼｮﾝの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

○予習の方法：シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。 ○復習の方法：授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。 ○学期末レポート：「学期末レポート」の執筆を行って下さい。課題は第11 週(予定)に提示します。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建物のかたちと理由	住宅と家族の生活の関わり(建築デザイン)
3	携帯電話が欲しくなるわけ	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法(プロダクトデザイン)
4	なぜ椅子はこんなにたくさんの種類があるのか	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展(プロダクトデザイン)
5	Ｈ＆ＭとＧＡＰを比較する	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連(プロダクトデザイン)
6	ウェッジウッドが好きな人は何が好きなのか	クラシックなデザインの系譜(デザインの歴史(1):ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	機械式時計はなぜ復権したか	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(デザインの歴史(2):ルネサンスから新古典様式)
8	モダンの意味	社会の変化とデザインの関わり(デザインの歴史(3):アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	おもしろくない映画がなぜ名画に選ばれるのか	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法(映像デザイン)
10	エコカーに乗らないとだめですか	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト(インダストリアルデザイン)
11	シャネルVSユニクロ	20 世紀ファッションの系譜と大衆化現象(ファッションデザイン)
12	関西人が東京で迷子になってしまう原因	世界の都市における都市形態の決定要因(都市デザイン)
13	床の間は単なる無駄なスペースか	懐石料理と茶室の背景(和風デザインの系譜)
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解）				

《授業の概要》
私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどの様な影響を与えるのか解説する。

《授業の到達目標》
色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。小テスト（５０点）、カラーリング課題（５０点）

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業時間外学習》
「非常出口」の表示はベース（地色）のが白と緑色の２種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどの様な色か注意して見ておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果（１）	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果（２）	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系（カラーシステム）	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どの様な色調がどの様なイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故その様な現象が起こるのか考える。
9	配色調和（１）	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和（２）	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」（ファッション）の色彩	各シーズン（春、夏、秋、冬）に発表される流行色はどの様につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

《教養科目 人文系》

科目名	音楽表現				
担当者氏名	大串 和久				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する (知識・理解) ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力)				

《授業の概要》
歌唱・器楽活動を実践するとともに鑑賞まで範囲をひろげながら、楽しく音楽を表現する力を身に付けていきます。健康な心身をもって各自の可能性を最大限に活かせるよう歌唱を中心とした演習を行います。また、歌唱曲に関連する器楽曲を簡易なアレンジにて電子ピアノ（個人練習とスピーカによる全員合奏）で演習したり、リズムを打ち鳴らしながらの歌唱等、さらに鑑賞を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》
○歌声を出すしくみを理解し、自分の体で実践したうえで楽曲をのびのびと歌うことができる。
○簡易なキーボードアレンジの楽曲をパート演奏を重ね楽しく合奏したり、和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。
○自分以外の人が行う演奏活動や行動を集中して聴き見ることによって一層自分の表現の幅をひろげることができる。

《成績評価の方法》
①欠席が1/3を超える者は成績評価の対象とならない。
②授業点30%(座席指定。真面目で積極的な授業参加を評価)。
③レポート･課題等の提出20%(提出期日厳守)。
④授業中に実施の小テスト50%(定期試験は実施しない)。小テストは全員の前での実技(歌唱･ピアノ･和太鼓),筆記を含む。

《テキスト》
『４訂版 歌のミュージックランド 〈楽しい歌とコーラス〉』（教育芸術社）

《参考文献》
『The Sound of Music: Piano Duets』(WILLIAMSON MUSIC)
『ピアノソロ サウンド・オブ・ミュージック』(ヤマハミュージックメディア)
『21世紀の音楽入門 １～７』(教育芸術社)

《授業時間外学習》
原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。毎回の授業時の実践が一番大切であり、復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問したり図書館やWebで調べる等、各自で対応すること。

《備考》
1.遅刻･早退は20分まで出席(減点)扱い。
2.講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁(発覚時は減点)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。ラップ等の芯２本と空き箱を６回までに用意。発声の基本＝呼吸（腹式・胸式）及び発声･響き等の説明と実践。簡易なアンケート調査。
2	歌う～自分の身体のメカニズムを知ろう	前回の説明内容を活かした実践＝呼吸と発声。テキストの中から歌唱。
3	歌う～のびのびと歌おう1 聴き入って見る～鑑賞1	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
4	歌う～のびのびと歌おう2 聴き入って見る～鑑賞2	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
5	歌う～のびのびと歌おう3 聴き入って見る～鑑賞3	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
6	歌う～のびのびと歌おう4 聴き入って見る～鑑賞4	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
7	歌う～のびのびと歌おう5 聴き入って見る～鑑賞5	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞。
8	歌う～のびのびと歌おう6 聴き入って見る～鑑賞6	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞。
9	歌う～のびのびと歌おう7 聴き入って見る～鑑賞7	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞・総まとめ（筆記テスト）。
10	やさしいｱﾚﾝｼﾞで弾こう1 和太鼓を打ち鳴らそう1	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
11	やさしいｱﾚﾝｼﾞで弾こう2 和太鼓を打ち鳴らそう2	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
12	やさしいｱﾚﾝｼﾞで弾こう3 和太鼓を打ち鳴らそう3	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
13	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう1	全員の前で一人１曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
14	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう2	全員の前で一人１曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
15	総合復習とレポート提出	Ⅰ期の総まとめとレポート作成・提出。

《教養科目 人文系》

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力）				

《授業の概要》
１９世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（１８３０－６０）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テクストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》
アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	１７７６年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	１８００年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリアカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家　Emerson	Ralph Waldo Emerson（１８０３－８２）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家　Thoreau	Henry David Thoreau（１８１７－６２）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家　Hawthorne	Nthaniel Hawthorne（１８０４－６４）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter（１）	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter（２）	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家　Melville	Herman Melville（１８１９－９１）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick（１）	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick（２）	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。

《教養科目 人文系》

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解）				

《授業の概要》
現代に関する、教育、社会、芸術などさまざまの文章を読み、それぞれの論者の考え方を理解し、それに対する自らの意見を述べる。文章は、新書本、雑誌、新聞などのものを用いる。ひとつのテーマについて、３～４回の授業を行う。

《授業の到達目標》
文章をしっかり読み、他人の多様な考え方について理解し、その上で自らの意見を述べることができる。

《成績評価の方法》
授業回数（15回）の３分の２（10回）以上出席しないと単位を認定しない。その上で、授業中に行う評論についての意見文の提出（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、コピーを配布する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
配布したコピーを熟読して授業に臨むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
13	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
14	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
歴史って、嫌だよね。奇々怪々な暗記にウンザリしたよね。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよね。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからネ。覚えるんじゃなくて、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない 思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》
１．時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。２．現代人の魂の根底に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気付き、共感することができる。３．人間の価値感の根底にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》
学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》
なし

《参考文献》
勝俣鎮夫『戦国時代論』←学術書だけど、読みやすくブッ飛んだ内容。／網野善彦『増補 無縁・公界・楽』←必読教養書。危険な内容。／橋爪大三郎『はじめての構造主義』←「柔らか頭」のための基本書。／今村仁司『排除の構造』←頭痛に襲われたいという方へ。／『週間朝日百科 日本の歴史』←前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》
この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》
常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場１	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場２	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場３	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁１	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁２	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランシス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括１	全体を振り返る
15	総括2	全体を振り返る

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

○論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
○状況に応じて用語を使いわけできる。
○基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
○資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

（1）授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
（2）課題等の提出状況およびその内容20%
（3）定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

（1）授業時に配布する課題プリント等を指定時までに仕上げること。（提出または提示を求める。）
（2）教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点とを理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第１回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第１回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第１回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第５回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものとを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第３回」・「第４回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第５回」・「第６回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《教養科目 社会系》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》
目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》
適宜指示する

《授業の到達目標》
リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》
予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》
講義への参加40％および定期試験による評価60％。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道徳、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下の平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目 社会系》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《授業の到達目標》
１．「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
２．日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
３．日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《成績評価の方法》
第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『改訂 現代の法学ー法学・憲法ー』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》
『憲法学教室 全訂第２版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第３版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》
法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（１）	①前文の「平和主義」関係部分、第９条の内容について説明することができる。②第９条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（２）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（１）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（２）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（１）	①「法の下の平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（２）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（３）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（４）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（５）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（１）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（２）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（３）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目 社会系》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》
様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》
定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》
テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》
共生教育のすすめ 仲田 直
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聰
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聰

《授業時間外学習》
配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》
出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくらたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目 社会系》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

○政治学のボキャブラリーを使用して、現実に起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
○現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースを関心をもって接すること。
（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の３側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の３局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞄、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》
この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第１次世界大戦と戦間期、第２次世界大戦、脱植民地化と第３世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》
○自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
○20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》
学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》
教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》
高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本［帝国主義～現代］篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》
講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを１枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》
・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（１）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（２）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（３）	アジアの近代
5	第１次世界大戦（１）	列強の対立・再編
6	第１次世界大戦（２）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（１）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（２）	ワシントン体制
9	第２次世界大戦（１）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第２次世界大戦（２）	極東の危機、日中戦争
11	第２次世界大戦（３）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（１）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（２）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第３世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

《教養科目 社会系》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

(1) 社会学的ものの見方ができるようになる
(2) 社会を理解するために、社会学的道具を使うことができるようになる
(3)みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
○ 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴惠（2007, 有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類〈社会的カテゴリー〉
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域〈公的領域〉、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	（適宜指示を行う）
15	学習の総まとめ(2)	（適宜指示を行う）

《教養科目 社会系》

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

(1)ジェンダーについて社会学的に語ることができるようになる。
(2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
(3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

○ 毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
○ 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《テキスト》

『女性のデータブック 第４版』井上輝子・江原由美子編 (2005, 有斐閣)

《参考文献》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編 (世界思想社)
『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）
『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）
『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ①	（適宜、学習内容を提示します）
7	女の時間／男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間／男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ②	（適宜、学習内容を提示します）
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ③	（適宜、学習内容を提示します）
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》
・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》
平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》
特に指定しません。
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》
授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》
・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう（1）	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう（2）	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割（1）	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割（2）	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう（1）	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう（2）	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう（3）	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方を用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目 自然系》

科目名	数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解）				

《授業の概要》
毎時間始めに計算問題のトレーニングを行う。
毎時間のように違ったトピックを取り上げ、高校までの数学とは違った角度から講義を行い、一般教養を身につける。

《授業の到達目標》
日常生活にも役立つ計算力を身につける。
数学を通じて「考える力」、「集中力」、「論理力」を身につける。

《成績評価の方法》
試験(80%）、毎回の授業の前後に実施する小テスト（20%）

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
必要に応じて授業中に紹介する。

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直しておくこと。次回の復習テストに備えておくこと。

《備考》
毎時間遅刻せずに出席すること。
相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	数について	自然数、整数、有理数、実数を理解する。
2	循環小数について	有理数、無理数を小数で書き表すとどのようになるかを理解する。
3	最大公約数，最小公倍数	素数、素因数分解を理解し、最大公約数、最小公倍数の計算をできるようになる。
4	計算を速く行う方法	因数分解を用いれば速く計算できる方法などを学ぶ。
5	指数計算	指数に関する定義や指数法則を知り、指数計算ができるようになる。
6	検算	検算が速くなる方法などを知る。
7	数学の雑学（1）	フィールズ賞、円周率πについてなどを知る。
8	数学の雑学（2）	地震のマグニチュードと震度の意味の違いなどについて知る。
9	数学の雑学（3）	数の単位や白地図の色分け問題などについて知る。
10	数学の雑学（4）	5次方程式の一般解の公式は、存在しない話題などを知る。
11	利子	複利計算を理解する。
12	数列	数列の定義を理解し、等比数列についてより深く学ぶ。
13	等比数列の和	まず記号Σの意味を理解し、等比数列の和を計算できるようになる。
14	借金の計算	10日で1割の利子がつき、10日ごとに1万円ずつ借り続けると100日目にはいくらの借金になるかなどの計算ができるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

《教養科目 自然系》

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

近年、自然科学分野のみならず、幅広い分野において物理学的な世界観が取り入れられ、それらの分野の理解のためにも物理学の考え方は重要となっている。

この授業では物理の考え方を知るために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組(２０％)、レポート及びペーパーテスト等(８０％)により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。

《参考文献》

①『物理学とは何だろうか（上・下）』 朝永振一郎 岩波書店 ②おもしろい物理学（本編・続編・続続編）』 ペレリマン 社会思想社現代教養文庫 ③『研究者のための上手なサイエンス・コミュニケーション』 英国物理学会監修 東京図書 ④『物理入門コース』全１０巻 岩波書店 ⑤『非平衡系の秩序と乱れ』 沢田康次 朝倉書店

《授業時間外学習》

毎回の授業の復習を行うこと、特に例題などを自分の頭で考え、計算してみること。

機会を見つけて授業での考え方を実生活の中で実践してみること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定 （大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	物理の考え方（１）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（１）
3	物理の考え方（２）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（２）
4	力学の初歩と基本定理（１）	サンプル実験１ 静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理（２）	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理（３）	加速度と運動方程式（１）
7	力学の初歩と基本定理（４）	加速度と運動方程式（２）
8	力学の初歩と基本定理（５）	サンプル実験２ 運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理（６）	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学（１）	光や波の性質について（１） 光や波の基本的性質を考える、サンプル実験３
11	電磁気学（２）	光や波の性質について（２） 身の回りの現象を考える
12	相対論	時空間４次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習（１）	問題演習と実験
15	総合演習（２）	これまでのまとめ

《教養科目 自然系》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①．１０問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。 ②．10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。 ①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせ、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E.F.Neuzil著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J.E.Brady、G.E.Humiston著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」 東京化学同人。（1991）J.N.Spencer、G.M.Bodner、L.H.Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造Ⅰ	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造Ⅱ	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造Ⅲ	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造Ⅳ	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造Ⅴ	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造Ⅰ	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造Ⅱ	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造Ⅲ	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態Ⅰ	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態Ⅱ	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液Ⅰ	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液Ⅱ	溶液の性質の続き。
13	化学反応Ⅰ	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応Ⅱ	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応Ⅲ	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目 自然系》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期、Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつくられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》
生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》
ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。
全回出席が原則。

《テキスト》
使わない。 図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》
授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。 『細胞の分子生物学』 アルバーツ他著、
『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、
『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》
ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》
いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつくられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたら細胞は死ぬ。 組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的増加（指数関数）の増加のものすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きているだけであるのに、主体性があって、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長いが細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナップスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的にふるまってもできてしまう関係である。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》
・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》
「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編 （朝倉書店）

《参考文献》
「食生活論」 遠藤金次他編 （南江堂）
「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編 （学文社）
「私たちの食と健康」 吉田勉監修 （三共出版）

《授業時間外学習》
・毎回、テキストをしっかり読んで勉強してくること。
・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》
・授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅰ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅲ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語Ⅰ				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿･形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（どんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語Ⅱ				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、Ⅰ期に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《成績評価の方法》

(1)授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令･依頼の表現	様々な状況でひとに命令･依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語Ⅰ　　GermanⅠ				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　　（専門的知識） ◎　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《授業の到達目標》
今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《成績評価の方法》
事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《テキスト》
在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》
適宜資料を配布する

《授業時間外学習》
必ず予習をして聴講すること

《備考》
教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってくること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベート、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編１	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語Ⅱ　　GermanⅡ				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　　（専門的知識） ◎　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《授業の到達目標》
今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《成績評価の方法》
事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《テキスト》
在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》
適宜資料を配布する

《授業時間外学習》
必ず予習をして聴講すること

《備考》
教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってくること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編２	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法１	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法２	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編１	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編２	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編３	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編４	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習１	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習２	動詞の人称変化。

《教養科目 語学系》

科目名	中国語Ⅰ				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を軸に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》

・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは　発音1	挨拶の言葉1　中国語の音節　声調　ドリル　（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日　　発音2	挨拶の言葉2　単母音　復母音　ドリル　（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう　発音3	挨拶の言葉3　子音1　ドリル　（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり　発音4	挨拶の言葉4　子音2　鼻音　ドリル　（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
7	第6課 動詞　・　助詞	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第７・８課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。
○中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》
・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》
・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》
・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課　文法	①数の言い方　・　お金の言い方　②形容詞の文
2	第10課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課　文法	①年月日、曜日の言い方　②年齢の言い方
4	第11課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課　文法	①量詞（ものの数え方）　②動詞の重ね方
6	第12課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課　文法	①時刻の言い方　②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課　文法	①時間量の言い方　②完了の「了」の使い方
10	第14課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課　文法	①前置詞「給」　②助動詞「可以」「能」
12	第15課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課　文法	①現在進行形の言い方　②助動詞「会」
14	第16課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目 語学系》

科目名	韓国語Ⅰ				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》
『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
『韓国語を学ぶⅡ』
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
テキストに付いているＣＤを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音＋母音の後に来る子音、支えると意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第１課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は(助詞）ついて学習する。
8	第２課 お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요体）、～が(助詞）について学習する。
9	第３課 ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第３課まで復習、練習問題を通じて確認する。 自己紹介の練習を行う。
11	第４課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第５課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所＋에서)を学習する。
13	第６課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第６課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語Ⅱ				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル) の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》
油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』白水社、2011年
韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第７課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) ついて学習する。
3	第８課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第９課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review ３	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目 (2) ：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review ４	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで３時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）
受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）
学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他（杏林書院）
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
　下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞
　学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》
この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その１）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その２）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目 7 ﻫ　》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2　4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院)　○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)　○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）　○『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》
毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	１年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自１日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	１０週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しあう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する (知識・理解) ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する (専門的技術力) ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する (総合的判断力・実践力) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力)				

《授業の概要》
授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
　実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球　等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク　等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール　等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目 キャリア系》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、（１）自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。 （２）長期に亘るキャリアについて考える。 （３）経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》
（１）家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。 （２）ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。（３）生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。 （４）収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》
（１）筆記試験 50%
（２）課題提出物 30%
（３）授業への取組姿勢 20%

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》
（１）大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 （２）矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 （３）最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 （４）スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》
（１）次回のプリントを読んでおくこと
（２）「読む力」の課題をしておくこと
（３）新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》
（１）毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える（1）	生活経営とは何か
2	生活を考える（2）	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活（1）	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活（2）	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択(1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択(2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択(3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択(4)	職業の選択とライフロール（映画の場面から考える）
9	キャリア発達理論（1）	職業キャリアからライフキャリアへ（スーパー）
10	キャリア発達理論（2）	組織におけるキャリア発達（シャイン）
11	キャリア発達理論（3）	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶことの大切さ（クランボルツ）
12	キャリア発達理論（4）	転機へのアプローチ（シュロスバーグ）、視点の変化（ハンセン）
13	生涯学習の必要性（1）	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性（1）	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅰ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。
自らの行動パターンの分析を通し対人折衝能力を高めます。
スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》
学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。
基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目標とします。
同時にＮＰＯ法人日本人材教育協会認定のＹＥＳプログラム１単位－「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
平常点（授業参加態度を重視する）・発言を奨励：40％
授業中に実施するレポート及び実技試験：60％
授業欠席回数が授業実施回数の３分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
プリント資料（講師作成）
テキストは使用しない

《参考文献》
ホスピタリティの教科書：林田正光　あさひ出版
あいさつの教科書：挨拶教育研究会　中経済出版
あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク　草思社
日本語練習帳：大野晋　岩波新書

《授業時間外学習》
新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識－言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。
就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《授業の到達目標》
本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力―言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。
各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にＮＰＯ法人日本人材教育協会認定のＹＥＳプログラム２単位－「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40％
筆記試験：60％
授業欠席回数が授業実施回数の３分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
最新最強のＳＰＩクリア問題集13年版：成美堂出版
プリント資料（講師作成）

《参考文献》
筆記試験の完全攻略
内定ロボット　日経ナビ＆就職ガイド編集部

フィンランドメソッド実践ドリル
諸葛正弥　毎日コミュニケーションズ

《授業時間外学習》
新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ＳＰＩ非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なＳＰＩ基礎知識を知る
2	ＳＰＩ検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・ＳＰＩ言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	ＳＰＩ検査対策	ＳＰＩ言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	ＳＰＩ検査対策	ＳＰＩ検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び３級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び２級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだＳＰＩ非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にＳＰＩ検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書１	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書２	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書３	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《授業の到達目標》
「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。
同時にＮＰＯ法人日本人材教育協会認定のＹＥＳプログラム２単位－「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40％
筆記試験（記述式）：60％
授業欠席回数が授業実施回数の３分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
はじめてのビジネスマナー
株式会社 同友館発行 著者 東条文千代

《参考文献》
ビジネス基本ルール120：PHP研究所
日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業時間外学習》
新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身に付ける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する５つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身に付けるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書１	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書２	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本―為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成24年度（2012年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	演習	2							2								平本 幸治他	109
		基礎ゼミⅡ	演習	2								2							平本 幸治	110
		基礎ゼミⅡ	演習	2								2							河野 稔	111
		基礎ゼミⅡ	演習	2								2							加藤 和代	112
		基礎ゼミⅡ	演習	2								2							矢野 琢也	113
		基礎ゼミⅡ	演習	2								2							樽本 つぐみ	114
		健康科学序論	講義	2								2							多田　章夫	115
		健康科学	講義	2		▽	◇						2							
		情報科学	講義		2							2							河野 稔	116
		基礎生物学	講義		2							2							(本多 久夫)	117
		解剖学	講義		2	▽	◇	○		□	2								多田　章夫	118
		生理学	講義		2			○	△	□		2							多田　章夫	119
		微生物学	講義		2			○		□				2						
		生化学	講義		2								2							
		栄養学	講義		2			○		□		2							(真鍋 祐之)	120
		食品学	講義		2			○			2								[島田 邦夫]	121
		栄養指導論	演習		2	▽								2						
		衛生学	講義		2			○	△	□		2							[島田 邦夫]	122
		公衆衛生学	講義		2				△	□				2						
		医学概論	講義		2	▽	◇	○							2					
		生活習慣病（成人病）	講義		2	▽										2				
		認知心理学	講義		2								2							
		健康心理学	講義		2	▽	◇						2							
		生涯発達心理学	講義		2										2					
		臨床心理学	講義		2										2					
		人間関係論	講義		2											2				
		外書購読Ⅰ	講義		2										2					
		外書購読Ⅱ	講義		2											2				
		教育特論Ⅰ	講義		2										2					
		教育特論Ⅱ	講義		2											2				
		教育特論Ⅲ	講義		2												2			
		地域活動演習Ⅰ	演習		2											2				
		地域活動演習Ⅱ	演習		2	▽											2			

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 「スポーツ実践Ⅰ」、「スポーツ実践Ⅱ」、「健康・体力づくり実践Ⅰ」、「健康・体力づくり実践Ⅱ」、「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

※ 「レクリエーション（野外活動を含む）」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

※ 健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年Ⅰ期に、「運動の基礎」の中で「発育･発達と老化」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成24年度（2012年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）	体育原理	講義		2				△		2								徳田 泰伸	123
		運動の基礎	講義		2		◇		△			2							樽本 つぐみ	124
		運動生理学	講義		2	▽	◇		△	□			2							
		運動生理学演習	演習		2									2						
		運動栄養学	講義		2	▽	◇		△				2							
		子ども運動学	講義		2	▽			△			2							三宅 一郎	125
		子ども運動学演習	演習		2				▲				2							
		スポーツ医学概論	講義		2	▽								2						
		スポーツ心理学	講義		2	▽			▲					2						
		障害者スポーツ論	講義		2	▽											2			
		スポーツ史（体育史を含む）	講義		2				△							2				
		スポーツ科学Ⅰ	演習		2										2					
		スポーツ科学Ⅱ	演習		2											2				
		トレーニング科学Ⅰ	演習		2	▽	◇						2							
		トレーニング科学Ⅱ	演習		2	▽								2						
		体力測定と評価	講義		2	▽	◇		▲		2								徳田 泰伸	126
		スポーツ実践Ⅰ	演習		3	▽	◇		△		3								三宅 一郎・徳田 泰伸・樽本 つぐみ	127
		スポーツ実践Ⅱ	演習		3	▽	◇		△			3							三宅 一郎・徳田 泰伸・樽本 つぐみ	128
		健康・体力づくり実践Ⅰ	演習		3	▽	◇		△				3							
		健康・体力づくり実践Ⅱ	演習		3	▽	◇		▲					3						
		スポーツ指導法Ⅰ	演習		2				△						2					
		スポーツ指導法Ⅱ	演習		2				△							2				
		健康・体力づくり指導法Ⅰ	演習		2	▽	◇								2					
		健康・体力づくり指導法Ⅱ	演習		2	▽	◇									2				
		運動処方論	講義		2	▽									2					
		運動処方演習	演習		2											2				
		運動負荷試験実習	実習		1	▽										2				
		レクリエーション（野外活動を含む）	実習		2				△						4					
	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	病理学概論	講義		2								2							
		薬理学	講義		2			○								2				
		養護概説Ⅰ	講義		2			○			2								加藤 和代	129
		養護概説Ⅱ	講義		2			●				2							大平 曜子	130
		養護活動演習	演習		2			○							2					
		養護活動実習	実習		2			○								2				
		学校保健Ⅰ（小児保健・学校安全を含む）	講義		2			●	△	□		2							増尾 禮二	131
		学校保健Ⅱ	講義		2			○	△	□			2							
		学校保健Ⅲ	講義		2			○	△	□				2						
		精神保健	講義		2			○	△	□			2							
		健康行動論	講義		2				△	□			2							
		健康統計学	講義		2				●	■					2					
		健康相談活動の理論と実践	講義		2			○								2				
		基礎看護学	演習		2			○				2							大平、［細井］	132
		看護学Ⅰ	演習		3			○					3							
		看護学Ⅱ	演習		3			○						3						
		臨床看護実習	実習		2			○						4						
		救急看護（救急処置を含む）	演習		2	▽		○	△	□					2					
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3													3			
		卒業研究Ⅱ	演習	3														3		

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成24年度（2012年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
教職に関する科目	教職概論	講義		2			○	△	□	2								［上寺 常和］	133
	教育原理	講義		2			○	△	□	2								廣岡 義之	134
	教育史	講義		2			●	▲	■						2				
	教育心理学	講義		2			○	△	□				2						
	教育制度論	講義		2			○	△	□		2							廣岡 義之	135
	教育課程論	講義		2			○	△	□				2						
	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）	講義		2				△	□			2							
	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）	講義		2				△	□					2					
	保健科教育法Ⅰ（保健科教育教材研究）	講義		2					□				2						
	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）	講義		2					□						2				
	保健体育科教育法Ⅰ（保健体育科教育研究）	講義		2				△					2						
	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）	講義		2				△							2				
	道徳教育論	講義		2			○	△	□			2							
	特別活動論	講義		2			○	△	□				2						
	教育方法・技術論	講義		2			○	△	□				2						
	教育方法論	講義		2			●								2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			○	△	□			2							
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			○	△	□		2							（琴浦 志津）	136
	中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5				△	□							5			
	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3												3			
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5			○									5			
	教育実践演習（中・高）	演習		2				△	□								2		
	教育実践演習（養護教諭）	演習		2			○										2		

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

科目名	基礎ゼミⅠ				
担当者氏名	平本　幸治・河野　稔・加藤　和代・矢野　琢也・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
知的活動への動機づけを高め、科学的研究のためのオリエンテーション機能を果たします。均等に配当された学生（１０名程度）を１人の教員が担当し、大学教養の範囲を超えない共通基礎領域の教材を用い、担当教員の専門性を通して学習へのモティベーションを高めます。ゼミナール形式の授業の利点を活かし、学生と担当教員がコミュニケーションを取り合い、相互に尊重し合い、高め合う効果も期待されます。

《授業の到達目標》
①情報収集、ノートテーキング、②文章表現、レポート・論文・レジュメの書き方、③口頭での報告・プレゼンテーション、④文献検索（図書館の利用方法）、⑤議論・ディベートなど、専門領域の枠を超えて、大学での学習方法の基礎的知識と学習のスキルの習得を目標とします。

《成績評価の方法》
レポートの提出など（学習成果の発表）（６０％）、授業時の提出物・参加意欲・学習態度など（４０％）
授業実施回数の３分の１以上を欠席すると単位認定の資格を失います。

《テキスト》
各担当教員が指示します。

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
自らの学習課題を明確にし、授業に主体的に臨めるように、その課題を克服するように努力して下さい。

《備考》
授業計画は目安です。担当教員によって進行がが異なる場合があります。図書館を利用する授業は時間が変更される場合がありあます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方などを説明し、メンバーの紹介を行います。
2	学習のスキル	学習活動における基本的な知識と学習のスキルに関して説明します。
3	資料の収集	図書館の利用方法や文献の検索の方法を説明します。
4	学習活動の基礎的知識①	問題意識から研究課題へ発展させて行く過程の指導を行います。
5	文章の書き方①	基本的な文章の書き方の指導を行い、実際に文書を作成し、添削します。（学習支援センターとの連携・60分）
6	学習活動の基礎的知識②	情報収集の方法を具体例を挙げながら説明します。
7	学習活動の基礎的スキル①	ノートテーキングの技術を習得します。
8	文章の書き方②	基本的な文章の書き方の指導を行い、実際に文書を作成し、添削します。（学習支援センターとの連携・60分）
9	学習活動の基礎的スキル②	ノートテーキングの技術を習得した後、資料として整理する方法を指導します。
10	演習課題への取り組み①	それぞれの担当教員と相談し、各自の課題を決め、研究に取り組みます。
11	演習課題への取り組み②	それぞれの担当教員と相談し、各自の課題を決め、研究に取り組みます。
12	学習成果の表現方法	学習の成果の表現の方法を具体例を用いて説明します。
13	成果の発表①	口頭による学習成果のプレゼンテーションの方法を指導します。
14	成果の発表②	文書による学習成果のプレゼンテーションの方法を指導します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ				
担当者氏名	平本　幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
最新の健康科学に関する基本的な英語論説文を用いて情報を収集し、知識として活用する練習を行います。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。CDを利用して音声面の練成を行います。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
将来の研究や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
『Health & Environment from VOA』安浪誠祐他（松柏社）

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Beware of D-Ficiency!	ビタミンDの重要性に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	Cancer: the World's Leading Killer?	世界規模でのガンの実態に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Vertical Farms to the Rescue	ビル型農場の試みに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	No-Smoking City	禁煙都市の効果に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	Hot Weather Can Be a Headache	天気と頭痛の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	No Water? No Problem!	バイオテクノロジーの可能性に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Just a Little Pinprick	麻酔の種類に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Wising Up About Wisdom Teeth	親知らずの不思議に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Cleaner Coal in Australia	石炭燃料への新たな技術に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Keeping Children Safe	子供おを守るには、に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	What is the Asian Flush?	アジア人とアルコール摂取に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	How Green is My Rooftop?	屋上緑化に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Five Pills in One	複合薬の効果に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	What Makes a Cow a Cow?	牛ゲノムの解読に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	基礎ゼミⅡ				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
「基礎ゼミⅠ」の学習成果をもとに、大学での主体的・能動的な学びに必要な「スタディスキル」の定着を目指します。
テーマとして「情報倫理」を扱います。ICT（情報通信技術）が社会や生活に役立つ側面とトラブルや犯罪などの問題となる側面に着目し、技術的な知識だけでなく倫理的・法規的な知識も深め、情報社会の問題点を指摘し、その解決策を考えます。

《授業の到達目標》
○自ら設定したテーマについて、多様な情報源を調査できる。
○収集した情報をもとに、レポート等の資料をまとめられる。
○発表や意見交換を通じて、新たな問題や課題を発見できる。
○情報倫理に関する諸問題を、幅広い視点から考察できる。

《成績評価の方法》
○提出物（40%）、口頭発表の内容（40%）、ディスカッションなどでの参加態度（20%）で評価します。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを資料として配布します。

《参考文献》
情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2010)『インターネットの光と影 Ver.4』北大路書房.
情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2011)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2011』実教出版.
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》
○予習について
数名の受講生を指名して、文献や資料を調査した成果と自分の意見をまとめたものを発表してもらいます。
○復習について
受講生の発表の後に、発表に対する感想や意見を、レポート形式の文書にまとめ、提出してもらいます。

《備考》
ゼミ形式の授業は、参加者間のコミュニケーションをお互いの学びあいに発展させる、大学での学習の基礎になるものです。意欲的に学習する態度を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方について
2	情報倫理の概説	【講義】情報社会（最新事情と諸問題）／【演習】スタディスキルとは？
3	情報倫理(1) インターネットと情報社会	【発表】テーマに関する発表／【演習】新聞記事を活用したワーク
4	情報倫理(2) インターネットと個人情報	【発表】テーマに関する発表／【演習】新聞記事を活用したワーク
5	情報倫理(3) インターネットと知的財産権	【発表】テーマに関する発表／【演習】新聞記事を活用したワーク／ここまでのまとめ
6	情報倫理(4) インターネットと生活	【発表】テーマに関する発表／【演習】情報の収集と整理
7	情報倫理(5) インターネットとビジネス	【発表】テーマに関する発表／【演習】レポートの作成
8	情報倫理(6) インターネットと教育	【発表】テーマに関する発表／【演習】レポートの作成と発表／ここまでのまとめ
9	情報倫理(7) インターネットと情報伝達	【発表】テーマに関する発表／【演習】プレゼンテーションの準備
10	情報倫理(8) インターネットと犯罪	【発表】テーマに関する発表／【演習】プレゼンテーションの発表
11	情報倫理(9) インターネットとセキュリティ	【発表】テーマに関する発表／【演習】ディスカッション／ここまでのまとめ
12	情報倫理の教材制作（1）	グループ分け、テーマの決定、情報の収集と整理
13	情報倫理の教材制作（2）	教材の制作作業
14	情報倫理の教材制作（3）	教材の制作作業、発表準備
15	情報倫理の教材制作（4）	教材の発表／全体のふり返り

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ				
担当者氏名	加藤和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力）				

《授業の概要》

深刻化しているいじめ・不登校・虐待などのメンタルヘルスの問題、飲酒・喫煙・薬物乱用、１０代に広がる性感染症など身近な健康問題をテーマに、情報を収集し、課題に対する自分の意見や提言をまとめていくことで心と体の健康への関心を高め、適切な行動化へつなげることをねらいとする。また提言を伝えるプレジェンテーション、意見交換の方法等も身につける。

《授業の到達目標》

○資料検索方法ならびに適切な資料を丁寧に読み取ることができる。
○レポート作成、発表、意見交換により健康をより科学的に捉える。
○「自らの健康上の問題や課題」も明らかにし改善することができる。

《成績評価の方法》

発表（５０％）レポート（５０％）で総合的に判断する。
授業実施回数の1／３以上の欠席は、単位を与えることができない。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

「学校保健の動向」平成２２年度版（財団法人日本学校保健会）その他随時紹介する。

《授業時間外学習》

示されたテーマについて、文献や資料をもとに自分の意見や提言をまとめ、意見交換の場に活かす。

《備考》

発表時の質疑・意見。指導講評をもとに修正した最終レポートを提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代的健康課題	現代的健康課題、ヘルスプロモーション、
2	情報収集	情報収集　リーディング　情報整理
3	レポートの書き方（1）	レポートの目的、課題（テーマ）の明確化、レポートの構成（序論・本論・結論）、文章スタイル
4	レポートの書き方（2）	例文　概要　文体、章立て、キーワード
5	健康課題の予備知識（1）	薬物乱用　薬物依存　覚せい剤　大麻　幻覚　禁断症状
6	健康課題の予備知識（2）	性感染症　10代に広がるクラミジア
7	健康課題の予備知識（3）	喫煙　肺がん　副流煙　たばこ人形実験
8	健康課題の予備知識（4）	飲酒、急性アルコール中毒、アルコールパッチテスト
9	健康課題の予備知識（5）	虐待　ネグレクト　マルトリートメント
10	健康課題の予備知識（6）	不登校　引きこもり　登校支援
11	プレジェンテーションの仕方	プレジェンテーションとは　発表の構成　発表原稿（ノート）　リハーサル
12	発表（1）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
13	発表（2）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
14	発表（3）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
15	まとめ	学修内容の確認　レポート修正

科目名	基礎ゼミⅡ				
担当者氏名	矢野琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力）				

《授業の概要》
基礎ゼミⅠで学んだこと、身につけたことを土台に、スポーツに関する専門的なテーマでそれらの能力をより向上させることを目的として展開します。新聞、雑誌、TVなどあらゆる情報からスポーツに関するトピックスを選出し、その内容を理解すると共にそれらをより深く理解するために必要な事項について理解できるように展開します。その上でプレゼンテーションやレポート等でそれらの理解度を確認します。

《授業の到達目標》
指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発現する）とそのための情報収集の力を身につけることを目標とします。運動生理学やトレーニング論等の基礎知識を学びながら、それらの重要性や学ぶことの重要性を理解することも目標とします。

《成績評価の方法》
レポートと授業における発表で評価します(100%)。レポートの提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。無断欠席が5回以上の者は単位認定をしません。

《テキスト》
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》
「入門運動生理学第３版」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「ストレングス＆コンディショニング」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》
新聞や雑誌等で積極的に情報を収集するようにしてください。また、実際にスポーツをしたり、観戦するなどスポーツに関わる行動を積極的に行ってください。

《備考》
トレーニング指導者を目指す人のための授業を行います。真剣に学びたい人が、より多く学べるように積極的に展開しますので、皆さんの積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等を説明する。
2	指導論	スポーツ指導者としてのあるべき姿について討論する。
3	コンディショニング	コンディショニングについてその構成要素等を考える。
4	トレーニング計画	トレーニング計画についてその内容や重要性等を考える。
5	スポーツ障害	スポーツ障害、特にオーバーユースに関して考える。
6	成長期のトレーニング	成長期におけるトレーニングの在り方を考える。
7	スポーツイベント	オリンピックやW杯などからトレーニング計画等について考える。
8	運動生理学（筋）	筋組成（速筋、遅筋）の特性を理解する。
9	運動生理学（パワー）	パワーについてその概念を理解する。
10	運動生理学（筋持久力）	筋持久力に関する基礎知識を理解する。
11	運動生理学（全身持久力）	全身持久力に関する基礎知識を理解する。
12	運動生理学（エネルギー）	エネルギーに関する基礎知識を理解する。
13	運動生理学（性別、エイジング）	女性、高齢者に対するトレーニング効果について理解する。
14	運動生理学（ディ・トレーニング）	ディ・トレーニングに関する基礎知識を理解する。
15	まとめ	これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

科目名	基礎ゼミⅡ				
担当者氏名	樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
近年、健康志向の高まりによりジョギングやマラソンは人気のスポーツであるが、学校体育では苦手なスポーツでもある。本講義では長距離を走るための生理的特性を理解するとともに、トレーニングの効果を自分の身体で体得する。それら長距離走の必要性をレポート作成および発表、表現する(加古川マラソン大会出場）ことが目標である。卒業必修科目であり、基礎ゼミⅠで学んだ内容をより深めていくことが必要である。

《授業の到達目標》
(1)長距離走に必要なテーマを挙げ、それぞれについて情報を収集できる。(2)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(3)トレーニング計画を立て実行できる。(4)協力して実験を行い、レポートを作成できる。(5)その成果をマラソン大会において発揮する。(6)本講義で学んだ内容を自らの生活に振り返ることで、競技力(パフォーマンス）の向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》
(1)(3)(4)についてはレポート提出、(2)(3)(5)(6)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の時は、評価対象外とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
「長距離走者の生理科学」平木場浩二（杏林書院）
「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル(日本文芸社)
「ランニング解剖学」ジョー・プレオ著（ベースボール・マガジン社)

《授業時間外学習》
①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②毎回長距離走に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③12/23に開催される加古川マラソン大会に出場するとともに、大会を支えているボランティア活動を体験する。そこで「走る、支える、見る」側面からマラソンについて理解し発表する。

《備考》
遅刻(10分以上)2回で1回欠席とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業担当者を決定し、授業の流れを説明する
2	長距離走とは	長距離を走るための身体の構造を理解する(体組成、脳、筋肉、骨、ホルモンなど) 自分の身体を理解する(体組成測定)
3	トレーニング計画作成	グループに分かれ、12/23の大会にむけて①～④を考えトレーニング計画を作成する (①ジョギング・ペース走②インターバル練習③スプリント練習④全力走)
4	ジョギング、ペース走の効果	個人にあったペースを算出し、ジョギング、ペース走の効果を理解し行う
5	栄養・水分補給の効果	長距離走のための栄養や水分補給の効果について理解する
6	インターバルトレーニングの効果	個人にあったペースを算出し、インターバルトレーニングの効果を理解し行う
7	筋力トレーニングの効果	長距離走のための筋力トレーニングの効果について理解する
8	スプリントトレーニングの効果	スプリントトレーニングの効果を理解し行う
9	休養の効果	長距離走のための休養の取り方や心理的な効果を理解する
10	全力走の効果	全力走の効果を理解し行う
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解する
12	ピーキング	大会にピークを合わせるための方法を理解する
13	加古川マラソン大会出場	大会に出場する、ボランティア活動を経験する、応援するこれら3つの側面から調査し、まとめる
14	発表	大会で調査した内容を発表する
15	長距離走についてまとめ	長距離走について理解したことをまとめる

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	健康科学序論				
担当者氏名	多田章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》
健康と疾病は連続性を持っている。普段は当たり前のように考えがちな「健康状態」は、実は壮大かつ精巧な生体メカニズムによって維持されている。健康科学序論の授業においては、健康状態およびその維持についてのメカニズムを理解することで「健康であること」の大切さを再認識し、疾病予防や健康づくりに役立てる。

《授業の到達目標》
１　生体が健康を維持するためのメカニズム（恒常性の維持、調節機構等）を理解する
２　生体の健康維持機能の破綻によって疾患が発生するメカニズムを理解する

《成績評価の方法》
１　定期試験８５％、小テスト１５％の割合で評価する
２　遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の30％以上の場合）は定期試験の受験資格を失う
３　私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《テキスト》
指定しない。

《参考文献》
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
１　次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
２　毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
３　日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること

《備考》
講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の定義	健康状態とはどのような状態であるかを、生物学的、肉体的、精神的、社会的観点から考える。
2	個体の調節機構	生体の内部環境の恒常性を保つホメオスタシスの概念を説明でき、血圧、体温、血糖値の恒常性について概略を理解する。
3	生体リズム	生体リズム（概日リズム）の概念を理解し、人間のもつ体内時計や生体リズムを調節するメカニズムを説明できる。
4	組織の再生	組織・臓器の再生及び医学において用いられる幹細胞（胚性幹細胞や体性幹細胞）の利点・欠点が説明できる。
5	酵素と健康	酵素の持つ性質や機能を説明でき、さらに、日常生活において酵素が活用されている例を挙げることができる。
6	遺伝子発現と健康	遺伝の概念、遺伝子（特にDNA）の構造、遺伝情報の概念、遺伝子の転写機構、mRNAから蛋白質への翻訳機構が説明できる。
7	骨の生化学	骨の成分や形成経路、成長期の骨の形成、成長期の女性ホルモンと骨代謝、成熟期や高齢期の骨の変化について説明できる。
8	生体防御（外界からの侵入者との戦い・免疫）	免疫の概念、自然免疫と獲得免疫の相違、獲得免疫に関与するリンパ球についてそれぞれの機能を説明できる。
9	生体防御（外界からの侵入者との戦い・常在菌）	常在菌の概念、腸内や口腔内における常在菌叢の年齢的な変化、常在菌の持つ意義（特に病原菌感染予防）を説明できる。
10	生体防御（内なる敵癌細胞との戦い）	自然免疫において特に重要な役割を持つＮＫ細胞について、その活性や活性を規定する因子、癌免疫について説明できる。
11	食物摂取とエネルギー代謝	代謝、異化、同化の定義を説明でき、かつ、エネルギー代謝やエネルギー源としてのATPの役割を説明できる。
12	血糖値の調節	生体内において血糖値を調節するホルモンの種類や、自律神経によるホルモン分泌調節機構を説明できる。
13	記憶	スクワイアの記憶分類、長記憶の分類、長期記憶の忘却、原因、記憶の過程、学習について説明できる。
14	社会と健康	社会要因が健康に与える影響、仕事と健康との関連、経済と健康との関連について説明できる。
15	科学技術と健康	化学物質による健康被害、技術革新や交通手段の発達がもたらす健康への影響、住宅が関連する健康問題について説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	情報科学				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》

ICT（情報通信技術）を活用した情報社会に適応するために必要な能力である、「情報フルーエンシー」の修得を目標とします。講義と実習を繰り返しながら、ICTを道具として使うための、実践的な知識や技能を習得します。

●講義：ICTや情報社会のさまざまな話題について学習する
●実習：文書作成・表計算・プレゼンテーションの実践的な活用を学習する

《授業の到達目標》

○身のまわりにある情報システムの仕組みやその活用方法などの基礎的な内容を説明できる。
○ソフトウェアやシステムについての操作・手順を理解し、大学での専門的な学習に活用できる。
○コンピュータやネットワークの最新のトピックを理解し、主体的・積極的に情報社会の参加できる。

《成績評価の方法》

○講義内容の理解度確認の小テスト（30%）と実習課題の提出物（70%）で評価します。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《テキスト》

○講義は、使用するプリントを授業ごとに配布します。
○実習は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで内容を公開します。

《参考文献》

○久野靖・辰己丈夫・佐藤義弘監修(2010)『キーワードで理解する最新情報リテラシー第3版』日経BP社.
○矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社.
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

講義内容のスライドをeラーニング上で公開しておくので、確認用の小テストに備えて、キーワードを中心に内容を整理し理解しておいてください。
実習では、復習が重要となります。学習した技能を次の実習で扱えるように、操作や手順を練習しておいてください。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすために、「習うより慣れる」ことを心掛けてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など／eラーニングの利用
2	【講義】情報社会と情報システム	情報システム、身近なコンピュータなど
3	【実習】文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
4	【実習】文書作成(2)	図を利用した文書の作成
5	【実習】文書作成(3)	表を利用した文書の作成
6	【実習】文書作成(4)	文書全体のレイアウト
7	【講義】コンピュータとインターネットの技術	コンピュータの基本要素、オペレーティングシステム、LAN・ブロードバンドなど
8	【実習】表計算(1)	表形式データの基本的な処理
9	【実習】表計算(2)	関数を利用したデータ処理
10	【実習】表計算(3)	さまざまなグラフの作成
11	【実習】表計算(4)	グラフ作成とワープロとの連携
12	【実習】表計算(5)	データベース機能
13	【講義】インターネットでのコミュニケーション	BBS、SNS、ブログ、ソーシャルメディア、ネットコミュニケーションなど
14	【実習】プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
15	【実習】プレゼンテーション(2)／全体のまとめ	視覚的な効果の活用

科目名	基礎生物学				
担当者氏名	本多　久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　　（専門的知識）				

《授業の概要》
身体の構造はとても複雑なのだが、全体は袋でできていることを頭に入れると明解に把握できるようになる。また、袋を含めすべてのものは細胞からできている。身体を細胞にもとづいて理解する道筋を述べる。これにより成長、発達、老化、疾病、治癒など身体で起こるすべての理解が容易になる。

《授業の到達目標》
職場では技術の進歩が激しくて、大学で学んだことだけでは十分でない。身体はすべて細胞の働きで成り立つという基本を身につけると、自分でこの進歩に対応できるようになる。細胞に基づいて癌や免疫、脳の理解を行い、将来に役立つような体験をする。

《成績評価の方法》
ペーパーテスト(8/10)およびレポート提出(2/10)による。
全回出席が原則。

《テキスト》
使わない。　図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》
授業には以下の書籍等を参考にした。いずれも図書館に備えている。
『形の生物学』本多久夫著 NHKブックス、
『細胞の分子生物学』アルバーツ他著 ニュートンプレス。

《授業時間外学習》
ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことや板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜いて貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》
いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体全体	身体は閉じた袋からできている。袋は身体の外と内を仕切っているが、仕切は体内にも入り込んでいる。
2	袋は上皮組織である	胚から身体が形成されるのは、胚の袋が拡大して変形することである。これは組織を構成している細胞の増殖などのふるまいによる。
3	袋どうしの接近	血管系はもう一つの袋である。肺や腎臓は、身体全体の袋と血管系の袋、二つの袋どうしが接近して分子が通過するところである。
4	細胞	細胞は細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れが生じると細胞は死ぬ。
5	細胞のふるまい	細胞分裂や細胞死、細胞からの分泌、細胞への取り込みなどは細胞のふるまいである。これらのふるまいには、細胞膜どうしのが融合が起こっている。
6	細胞のはたらき	細胞は外からの信号を受けて、分裂したり、ホルモンや消化酵素を分泌するなどのはたらきを行う。
7	組織（細胞の集合）	先に述べた「袋」は上皮組織でできている。これはもうひとつの組織である結合組織を取り巻いている。
8	筋肉・軟骨・骨	いずれも細胞からできている。骨は、分泌によりそとに鉱物（リン酸カルシウム）をつくる細胞を含んでいる。
9	細胞間の通信	身体内の離れた細胞間をホルモンなどが行き来して通信が行われている。この通信で細胞の働きの調節が行われるが、ここで重要な調節はフィードバック調節である。。
10	脳	神経はとても細長いが細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
11	神経系	神経細胞間の連結部はシナップスとよばれ、ここで神経伝達物質の分泌による連絡が行われている。シナップスには多くの薬物や神経毒が働く。
12	同じ病気にかからない	免疫関連の細胞たちが互いに通信しながら連携プレーを行い、異物（病原体など）を殺したり異物の働きをブロックする。。
13	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していないような異物の侵入にも備えている。この不思議な現象が解明された。
14	癌	癌の始まりは細胞が、自分勝手に増殖する細胞へ変化することである。こんな事が死につながるのだがその理由を学ぶ。
15	補遺	身体を構成している物質は酵素によって合成される。どのような酵素ををつくるかの設計図がDNAである。DNAから酵素が作られる過程を学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	解剖学				
担当者氏名	多田章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合）				

《授業の概要》
ヒトが正常な機能を営み、生きていくために、からだの中では極めて多くの精密な構造・機能が複雑に絡み合って、からだ全体としての調和をとっている。その基準となる正常な構造・機能を十分理解しなければその変化である種々の異常を知ることは不可能である。生涯にわたる人間の健康の維持増進に寄与・貢献していくために不可欠な知識を学んでいく。

《授業の到達目標》
1　主要な臓器・筋肉・骨格・神経・血管の位置・構造を理解する。
2　呼吸、循環、消化・吸収など生理現象がどの臓器を用いて行われるかを説明できる。

《成績評価の方法》
1　定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
2　遅刻および途中退出は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の30%以上の場合）は定期試験の受験資格を失う
3　私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる

《テキスト》
イラストで学ぶ解剖学　松村譲兒　医学書院

《参考文献》
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
1　次回の授業範囲を予習し概要を把握しておくこと
2　毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること

《備考》
講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。
本科目は教員免許必須科目であるため、上記の件を遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞・組織	人間の組織・臓器を構成する細胞の基本的な構造やそれぞれの構成要素のきのうについて説明できる。
2	骨と筋	骨や筋肉の基本的な構造が説明でき、身体における主要な骨や筋肉の名称を挙げることができる。
3	上肢の骨格や筋肉	肩関節の構成、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の解剖学的位置、肩甲挙筋・僧帽筋・大胸筋の起始・停止部や機能について説明できる。
4	下肢の骨格や筋肉	股関節や膝関節を構成する骨、主要な腸腰筋の起始・停止部や神経支配や運動、大腿四頭筋の起始・停止部や神経支配や運動を説明できる。
5	背中の骨と筋肉	背骨の構成、脊椎の構造、広背筋・上後鋸筋・下鋸挙筋・回旋筋・腸肋筋の起始・停止部や神経支配や主な機能を説明できる。
6	頭部の骨と筋肉	咀嚼筋の起始・停止部、神経支配、機能、頭蓋を構成する骨、顔面を構成する骨について説明できる。
7	末梢神経系	胸郭を構成する骨、呼吸運動に働く筋肉（横隔膜、肋間筋）の機能、各呼吸器の解剖学的な関係について説明できる。
8	心臓	心臓の解剖学的な位置、構造、機能、心筋の特徴、体循環、肺循環、栄養動脈、刺激伝導系、神経支配について説明できる。
9	動脈系	静脈との構造・機能に関する相違、主な動脈の走行部位、栄養を与える臓器、脈拍を触れやすい動脈について説明できる。
10	静脈系とリンパ管	静脈の動脈との構造・機能に関する相違、主な静脈の走行部位、リンパ管の機能や主な走行部位について説明できる。
11	消化器系	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
12	腹部臓器	肝臓、胆嚢、膵臓の解剖学的な位置、形態、構造、栄養動脈、機能、腎臓の形態、構造、解剖学的な位置、腎小体、糸球体、ボウマン嚢、尿の生成過程について説明でき
13	中枢神経系（1）	髄膜、脳室、脳に分布する動脈の走行、大脳皮質の各部位（前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉）それぞれの機能について説明できる。
14	中枢神経系（2）	間脳、脳幹（中脳、橋、延髄）、脊髄、小脳の解剖学的な位置やそれぞれの機能について説明できる。
15	末梢神経系	下行性伝導路、錐体路、錐体外路の解剖学的な位置、上行性伝導路、脳神経や脊髄神経と感覚神経・運動神経との関連について説明できる。

科目名	生理学				
担当者氏名	多田　章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合）				

《授業の概要》
生理学は、生命維持に必要な人体の仕組み、あるいは、身体運動を含む生命活動を維持している人体の基本的な機能を追及する学問領域である。これらの仕組みと機能について体系的な知識を習得するとともに、運動、呼吸、循環などの生命維持に不可欠な機能の統合的な制御を学習する。

《授業の到達目標》
1　神経興奮メカニズム、中枢神経による運動制御機構を説明できる
2　呼吸、循環、消化・吸収、体温調節、内分泌など生体のホメオスタシスの維持に必須の機能を説明できる

《成績評価の方法》
1　定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する　2　遅刻および途中退出は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の30%以上の場合）は定期試験の受験資格を失う
3　私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《テキスト》
「人体生理学ノート」松根幹朗、岡田隆史　金芳堂

《参考文献》
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
1　次回の授業範囲を予習し概要を把握しておくこと
2　毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること
3　人体の生理現象を身近な問題として捉えるよう日頃から心がける

《備考》
講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。本科目は教員免許必須科目であるため、上記の件を遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命現象	生物が生命を維持する上で必要な生理現象として循環、呼吸、代謝、神経伝達、消化・吸収等の概念を理解する
2	細胞膜の興奮	静止状態にある細胞の膜電位及びそれを形成する細胞内外のNa+、K+濃度及び、刺激を受けた細胞膜に流れるイオン電流と電位変化を説明できる。
3	神経の伝達	細胞、特に神経細胞に発生した細胞膜の興奮が隣接する細胞や筋肉にどのような機序で伝達するかを説明できる。さらに、興奮伝達の三原則を説明できる。
4	骨格筋の収縮	神経細胞から伝達された興奮は神経・筋接合部でどのように伝達されるか、筋細胞に伝達された興奮により筋肉が収縮する仕組みを説明できる。
5	末梢神経	末梢神経には体性神経（運動神経、感覚神経）と自律神経があることを理解し、自律神経の特徴や自律神経における興奮伝達物質について説明できる。
6	中枢神経（脊髄、下部脳幹、視床下部、小脳）	脊髄反射、中脳、延髄それぞれが司る生命維持に重要な機能、視床下部が調節するホメオスタシス機構、小脳の司る知覚・運動統合機能を説明できる。
7	中枢神経（大脳）	大脳皮質の古皮質・新皮質が司る高次脳機能（知覚、随意運動、思考、記憶等）や一次運動野の分布、そして錐体路と錐体外路との相違について説明できる。
8	血液	それぞれの血球（赤血球、白血球、血小板）の有する機能について説明できる。
9	心臓	心臓の有する機能、体循環、肺循環経路、刺激伝導系、心筋の活動電位、心臓のポンプ作用、心拍出量について説明できる
10	血液循環	最大（収縮期）血圧、最小（拡張期）血圧の概念、血管神経による血圧の調節機構及び体循環量による血圧調節機構についてについて説明できる。
11	呼吸	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
12	消化・吸収（口腔、食道、胃）	口腔内消化における咀嚼筋、３大唾液腺、唾液の役割、嚥下運動、胃内消化における胃液の性状、胃液中に分泌されるホルモンや消化酵素（ペプシン）について説明できる。
13	消化・吸収（小腸、大腸）	小腸での消化において分泌される膵液、胆汁、腸液に含まれるホルモンや消化酵素やそれらの生理活性、小腸における栄養素吸収、大腸内消化について説明できる。
14	内分泌	体内に分泌される調節性ホルモン及び機能性ホルモンの概念を理解し、主要なホルモンの生理作用を説明できる。
15	尿排泄	尿が生成・排泄されるまでの機構及び、尿排泄を調節するホルモンについて説明できる。

科目名	栄養学				
担当者氏名	真鍋　祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》

人が食物を摂取し、生命を維持し、成長・発達する一連の営みが「栄養」であり、食物に含まれる成分が「栄養素」である。
我々がより健康で豊かな充実した生活をおくるためには、栄養が不可欠であり、日常の活動や運動にも大きく影響する。

そこで本講義では、日常的に摂取する栄養素に関する基本的事項を理解し、さらに体内での働きや健康の維持・増進、あるいは疾病との関わりについても理解を深めることを目指す。

《授業の到達目標》

○栄養素の消化・吸収、体内での機能を知り、健康の維持・増進に栄養が深く関わっていることを説明できる。
○「不適切な栄養状態」と「人生(ライフステージ)の各段階で起こる疾病」の関係を関連づけて説明できる。
○より良い人生をおくるためのツールである健康を効果的に向上させる食生活について、適切な情報を提起できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験の結果により成績評価を行う(なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する)。
(2)受験資格は試験規定通りとする。

《テキスト》

『コンパクト栄養学』脊山洋右・廣野治子編、南江堂、2010

《参考文献》

『日本人の食事摂取基準(2010年版)』厚生労働省、第一出版、2010
その他、必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。
(2)復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。
忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

健康を考える上で、栄養学に関心を持つことは大切です。日常の食生活の中で「？」と感じる瞬間を持ってください。開始30分までを「遅刻」、30分以上は「欠席」。「遅刻」3回で「欠席」1回。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養素と栄養	栄養はどのような概念であるかを理解し、栄養素と栄養の意味の違いを説明することができる。
2	上部消化器における消化・吸収	口腔・食道・胃が摂取した食物の消化・吸収のために果たす機能と、その基になる構造を関連づけて理解する。
3	下部消化器における消化・吸収	十二指腸・空腸・回腸・大腸・膵臓・肝臓等が消化・吸収で果たす機能と、その構造を関連づけて理解する。
4	炭水化物(糖質)の代謝と機能	糖質の構造と機能、消化・吸収、エネルギー源としての体内代謝の流れや調節機構について理解する。
5	脂質の代謝と機能	脂質の種類・分類、消化・吸収を理解し、体内での役割やその代謝の重要性を説明することができる。
6	たんぱく質の代謝と機能	たんぱく質及びアミノ酸の構造と機能、消化・吸収の流れを学び、体全体の中でたんぱく質が果たす役割を説明することができる。
7	ビタミン・ミネラル・食物繊維の代謝と機能	糖質、脂質、たんぱく質の消化・吸収、代謝に種々のビタミンやミネラルが関わっているかを理解する。
8	妊娠・授乳期の栄養	妊娠期あるいは授乳期における母体の栄養状態が胎児や乳児の発育に及ぼす影響について理解する。
9	新生児・乳児期の栄養	新生児期を含む乳児期の栄養素摂取、とくに離乳食の重要性と進め方、さらにその役割について理解する。
10	幼児・学童・思春期の栄養	幼児・学童・思春期の発育のために必要な栄養管理の基本と不適切な栄養状態が発育に及ぼす影響について理解する。
11	成人・高齢期の栄養	加齢にともない成人・高齢期の生理的機能は低下し、これにともなって栄養素の代謝も変化することを理解する。
12	栄養状態の評価	ライフステージごとの適切な栄養状態とその評価基準の関係について学び、これら指標から栄養状態の概要を把握することができる。
13	栄養と治療食	疾病治療に用いられる治療食の意義や種類・形態、さらに効果について学び、その概要を説明することができる。
14	消化器系疾患と食事治療	消化器系疾患のうち、胃腸疾患・肝疾患等の原因と治療のための食事療法の基本的内容を正確に理解する。
15	生活習慣病と食事治療	肥満・糖尿病・メタボリックシンドローム等の生活習慣病の改善・治療のための食事療法の原則について理解する。

科目名	食品学				
担当者氏名	島田　邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力）				

《授業の概要》

生命を維持し、活動していくためには、食品や水などを必要とする。本科目では食品に含まれる主要な成分の化学的性質と特徴について解説する。また加工・貯蔵などによる変化及び成分間の反応、食品の安全と衛生に関する知識を身につけ、併せて豊かな食品を育むための地球環境やグローバルな食料事情について理解を深める。

《テキスト》

『 イラスト 食品学総論 』　種村安子・江藤義春・道家晶子・仁王隆子・西岡茂子・尾藤宗弘・山田徳広　共著　（東京教学社）

《参考文献》

授業時に適時紹介する。

《授業の到達目標》

● 食品中に含まれる成分について理解・説明できる。
● 食品の安全性確保のためのシステムを理解・説明できる。

《授業時間外学習》

予習：　テキストに目を通しておく。　復習：　授業内容を再確認、質問事項を列記しておき授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度、学習意欲 20%（小試験、またはレポート提出により評価、レポート提出期限を守らない場合は減点とする）
(2) 定期試験 80%

《備考》

本科目履修上の留意点：　化学的知識が必要なため、有機化学の基礎を学習しておくことが望ましい。積極的な受講態度を望む。質問大歓迎！

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「食品学」を学ぶ意義．ヒトと食物史．食べることはヒトを含め動物の本能的な行為である。
2	食品から食物へ	米は食品、ご飯は食物、プロジェクター（映像）を使い「食品学」の全体像を把握・理解する
3	食品の分類	食品の成分、食品の働き、食品成分表
4	食品中の栄養成分（1）	① 炭水化物の化学的性質と特徴、② 脂質の化学的性質と特徴
5	食品中の栄養成分（2）	③ タンパク質の化学的性質と特徴、　④ ビタミンの化学的性質と特徴、　⑤ ミネラルの化学的性質と特徴
6	食品中の嗜好成分（1）	① 色素成分の化学的性質と特徴、　② 香気成分の化学的性質と特徴
7	食品中の嗜好成分（2）	③ 呈味成分の化学的性質と特徴
8	食品中の機能性成分	機能性成分の化学的性質と特徴
9	食品の理化学的特性	食品の物性・テクスチャー（舌触り）、レオロジー
10	食品の美味しさを評価する方法	官能検査、その他
11	食品の貯蔵・加工	① 食品の変質とその要因、　② 食品の貯蔵・加工法
12	食品の安全と衛生Ⅰ	① 細菌・ウイルス性食中毒、　② 自然毒食中毒（動物、植物）、　③ カビ毒
13	食品の安全と衛生Ⅱ	④ 化学性物質食中毒、　⑤ 寄生虫、　⑥ 食品成分の理化学的性質と食障害 ： 消費期限と賞味期限の違いは？
14	食品衛生行政と関連衛生法規	食品の安全性確保、総合衛生管理製造過程 （HACCP）、食品衛生法や食品安全基本法、健康増進法など関連の法律
15	まとめ	食生活と健康

科目名	衛生学				
担当者氏名	島田　邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　　（応用力）				

《授業の概要》

衛生とは「生命」を衛（まもる）ことに由来する。健康をまもることであり、健康の増進をも意味している。19世紀の住環境の悪化などにより生まれた言葉、健康の神 “ハイジーネ” に基づいている。水は生物にとって必要なもの、空気は当たり前の存在で意識することがない。我々ヒトにとっては重要である。衛生学を衣食住の科学ととらえ、生活環境の変遷を科学的な観点から学習し理解を深める。

《授業の到達目標》

① ゴミの分別排出の理由が理解でき、説明できる。　② 地球環境を考える力を養い、地球温暖化現象の理解とその防止対策を提言できる。　③ 持続可能な循環型社会形成の意義が理解できる。

《成績評価の方法》

(1)　受講態度、学習意欲 20%　（小試験、またはレポート提出により評価する。レポート提出期限を守らない場合は減点とする）　(2)　定期試験　80%

《テキスト》

『 生活環境論　改訂第3版 』、岩槻紀夫　編集　（南江堂）

《参考文献》

《授業時間外学習》

(1) 予習：授業に参加する前にあらかじめテキストに目を通しておく。不明点は質問する。　(2)　復習：授業内容を再確認する。不明な点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《備考》

最近の局地型洪水などの異常気象は地球温暖化現象のあらわれではないかと考えられている。日々の出来事に目を向け、私達の地球環境を考えましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	衛生学で何を学ぶの・・・？　「飛散花粉と花粉症」
2	生活と環境	プロジェクター（映像）を用いて、視覚的に衛生学の全体像を把握・理解する。
3	地球の環境	生命の星、地球環境を考える。生物相の変遷、大気圏・水圏の環境
4	生物と環境	生態系、生態系の物質循環、生態系におけるエネルギーの流れ
5	生物と人間	ダニと生活環境　（プロジェクター使用）
6	公害と環境汚染	生命の共通性、バイオテクノロジーの発展、産業の発達と公害・環境汚染、大気・水質汚染、化学物質による汚染
7	都市化の進展と環境	環境の都市化、ごみ・廃棄物とリサイクル、交通公害、近隣騒音
8	地球規模の環境問題	グローバル・ウォミング(地球温暖化）、オゾン層の破壊、酸性雨、森林の減少と砂漠化、地球環境の保全
9	資源開発と環境保全	人口増加と食糧問題、エネルギー資源問題、種の絶滅と野生生物保護、地球環境問題と人間の生活
10	快適環境と人間の生活	住居環境とカビ　（プロジェクター使用）
11	住環境と生活問題	快適な環境とは・・・？　住居の役割、地球環境と人間の生活
12	環境保全のための法制度	環境基本法、公害規制の諸法律と条例、環境影響評価法、リサイクルの法制度
13	技術と社会	技術の役割、生産系と環境、テクノストレスとテクノ依存症、パソコンの視覚表示端末（VDT）装置作業の健康問題
14	アスリートの衛生	運動性貧血、高山病と運動選手の高地トレーニング、エコノミークラス症候群、熱中症、サーカディアン・リズム
15	災害と衛生、まとめ	地震・津波・竜巻・洪水など自然災害と精神障害、総括

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育原理				
担当者氏名	徳田　泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
体育原理という言葉は、PrincipleまたはFoundationに由来するものである。Principleには原理、原則。Foundationには、基礎、土台、根拠、出発上などの意味がある。体育原理は、体育はどのような原理・原則に基づいて考えられ、実践されなければならないか、正しい体育のあり方を学習する。

《授業の到達目標》
体育原理という講義を通じて体育（教育）の目標内容・方法の一貫性を原理として学んでいき、現代の健康スポーツに関する問題点を考察し説明ができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
資料配布および授業において紹介する。

《参考文献》
授業において適宜紹介する。

《授業時間外学習》
毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	身体の哲学的考察	身体の哲学的考察、身体の構造的把握、社会的身体
3	身体と体育	身体と体育、現代教育における身体的問題
4	体育の定義	体育の定義、体育という語の由来、体育とは身体活動の意義、体育の分野
5	体育の分野別課題	体育の分野別課題、幼児期の体育、少年期の体育、青年期の体育、壮年期の体育、老年期の体育
6	体育の必要性	体育の必要性（科学的原理の根拠）、社会学的側面、運動生活的側面（生物学的）、社会の中のスポーツについて学ぶ
7	体育の成立	体育の成立、体育の成立事情、体育の成立事例、体育の成立の発展、体育の成立条件、体育の指導者、体育の可能性と限界、我が国のスポーツ振興政策についても学ぶ
8	体育の目標	体育の目標、発達的目標、生活的目標、民主的人間：我が国のスポーツ振興政策に関連して学ぶ
9	学校体育の内容	学校体育の内容、学校における教育活動、学校体育の内容：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
10	体育の内容と学習活動	体育の内容と学習活動、体育内容の編成（カリキュラム）：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
11	体育の方法	体育の方法、教育方法の原理、生理学的原理、トレーニングの生理学的原理、具体的トレーニング
12	スポーツと人権	心理学的原理、社会的な原理、内容に即した方法原理、体育の実践形態、スポーツと人権
13	学習の指導段階	学習の指導段階
14	スポーツの大衆化	スポーツの大衆化、子供の運動遊び、スポーツと人権について考える
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動の基礎				
担当者氏名	樽本　つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》
運動とは、1つには「運動不足」や学校体育における「運動領域」といった、生物学的・教育学的目的を達成するために何かを反復的に行う身体活動のことである。2つには、学習指導要領に見られる「体つくり運動」など体育における学習活動のある特定の領域やスポーツ種目が運動と表現される。これら運動の役割について理解することを目標とする。本講義は保健体育免許必修科目、健康運動実践指導者養成科目である。

《授業の到達目標》
(1)保健体育の教員を目指すための基礎・基本の知識を理解する。(2)運動を行うことにより、身体諸器官がどのように変化するか理解する。(3)慢性的に身体活動を行うと生体はどのように適応するのか理解する。(4)運動と健康との係わりについて理解する。(5)自らの競技力(パフォーマンス) 向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》
毎時間行う小テストと中間テスト、定期試験で評価する。評価の割合は、小テスト20%、中間テスト30%、定期試験50%とし100点満点で60点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の時は、評価対象外とする。

《テキスト》
「専門教養保健体育科」本間啓二著　一ツ橋書店
「健康運動実践指導者養成用テキスト」　健康・体力づくり事業財団

《参考文献》
「運動生理学20講　第2版」勝田茂（朝倉書店）
「トレーニング・メソッド」石井直方(ベースボール・マガジン社)
「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル（日本文芸社）

《授業時間外学習》
①毎回授業の最初に、前回の授業で学んだ内容について小テストを行うため復習をしておくこと②授業終了時に次回の内容の課題を説明するので予習をしておくこと

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	学習指導要領	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領について理解する
3	体育分野（1）	体つくり運動、器械運動の目標と内容を理解し要点をまとめる
4	体育分野（2）	陸上競技、水泳の目標と内奥を理解し要点をまとめる
5	体育分野（3）	球技、武道、ダンスの目標と内容を理解し要点をまとめる
6	体育分野（4）	体育理論の目標と内容を理解し要点をまとめる
7	保健分野	中学校、高等学校保健分野の目標を理解し要点をまとめる
8	スポーツ指導者とは	スポーツ指導者について理解する
9	指導者の心構え・視点	指導者としての考え方を理解する
10	競技者育成プログラムの理念	競技者を養成するためのプログラムについて理解する
11	運動と骨格筋、呼吸循環	運動を行うための骨格筋の働きや呼吸循環について理解する
12	運動と栄養・水分補給	栄養と水分摂取の重要性について理解する
13	運動と発育・発達	どの時期に身体諸器官が発達するか理解し運動と関連づけることができる
14	トレーニング	トレーニング内容について理解する
15	運動と加齢、生活習慣病、運動処方	加齢や生活習慣病について理解し、運動を継続していくための運動処方を理解し実践していく

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	子ども運動学				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
講義科目である為理論が中心になるが、子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。
　この授業を通して得た知識を、２年生Ⅰ期開講の子ども運動学演習に有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》
幼児の運動遊び指導者並びに小学生児童の体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期・児童期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期・児童期に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
「幼児の運動発達学」小林寛道(ミネルヴァ書房)
「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著(杏林書院)
“Motor Development and Movement Experiences for Young Children”DAVID L.GALLAHUE,John Wiley&Sons,ink

《授業時間外学習》
＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
幼児の運動遊び指導者(幼児体育指導者)および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性、指導における問題点の対策について（スポーツ・運動経験が及ぼす影響や保護者への対応も含む）
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動・スポーツの理解（コーディネーション能力、オーバートレーニング防止、スポーツの在り方、望ましいライフスタイルとの関係等について）
4	精神面の発達特徴	年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション （コミュニケーションスキルにおける基本的項目）
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴 （運動指導におけるコミュニケーションスキルのための観察・傾聴・洞察）
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた幼児・児童の運動発達の特徴と全身運動
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達と実際 （スポーツスキルの習得）
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と実際 （スポーツスキルの習得）
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法と測定結果の活用方法 （スポーツスキルの習得および上達のためのデータ活用）
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラムの実際と指導法 （コミュニケーションの3Vの法則:言語、聴覚、視覚を踏まえたアドバイス等）
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと指導プログラム （１人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方と指導プログラム （１人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
14	非移動系(平衡系)運動の指導プログラム	非移動系(平衡系)運動の考え方と指導プログラム （１人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
15	まとめ	

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体力測定と評価				
担当者氏名	徳田　泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
文部科学省は、国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得ることを目的として、毎年「体力・運動能力調査」が行われている。そこで、新体力テストの測定方法を熟知し、測定を行う。またその他の測定法についても学び、それぞれの基準値と総合的に判断し、運動を処方できる正しいデータの測定および評価ができることを学びます。

《授業の到達目標》
体力には健康関連体力と競技能力関連の体力がある。体力を評価するには、単純に平均値を上回っているから健康である。また競技力が高いとは限らない。個人の活動状況や危険因子の有無、既往歴など総合的に判断しなければならない。そのために現在の体力を正確に測定し、測定したデータを運動処方やトレーニング等に活用させるための基本的な評価方法を学ぶことができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）　平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
特に指定はしません。資料等は必要に応じて配布します。

《参考文献》
「運動処方の指針　第７版」南光堂
「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団
「健康運動指導士用テキスト」健康・体力づくり事業財団
「体力テストの方法と活用」財団法人日本体育協会

《授業時間外学習》
授業で学んだ測定を実際に学外で実施してみる
年齢差、性差を踏まえ取り組んでみる

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	体力・運動能力調査	握力・上体起こし・長座位体前屈・反復横とび・２０ｍシャトルラン
3	体力・運動能力調査	立ち幅跳び・ハンドボール投げ・５０ｍ走
4	体力・運動能力調査	フィールドテストの実習　中高年（１）
5	体力・運動能力調査	フィールドテストの実習　中高年（２）
6	高齢者	高齢者の体力測定（１）
7	高齢者	高齢者の体力測定（２）
8	介護予防	介護予防に関する体力測定法とその評価（１）
9	介護予防	介護予防に関する体力測定法とその評価（２）
10	身体組成	身体組成の測定（１）
11	身体組成	身体組成の測定（２）
12	体育統計	資料のまとめ方（１）
13	体育統計	資料のまとめ方（２）データ処理
14	体育統計	測定結果の発表
15	学習	学習のまとめ（レポート）

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ実践Ｉ				
担当者氏名	三宅　一郎・徳田　泰伸・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。この授業を通して体得したものが、Ⅱ期開講のスポーツ実践Ⅱに有効に活用されることを期待する。
さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》
主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院)
『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ．ボーレット著
『中学校学習指導要領解説（体育編）』

《授業時間外学習》
＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	体つくり運動の考え方と実践（１）	青少年期における動きの発達とスキルの獲得のための方法 青少年期の静的レジスタンストレーニング
3	体つくり運動の考え方と実践（２）	青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法 青少年期の動的レジスタンストレーニング
4	器械運動の考え方と実践（１）	マット運動における特性の理解と実践（その１）
5	器械運動の考え方と実践（２）	マット運動における特性の理解と実践（その２）
6	球技の考え方と実践（１）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その１）
7	球技の考え方と実践（２）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その２）
8	球技の考え方と実践（３）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その１）
9	球技の考え方と実践（４）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その２）
10	水泳の考え方と実践	水泳及び水中運動における種目特性の理解と実践 （青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法）
11	陸上競技の考え方と実践（１）	短距離における種目特性の理解と実践
12	陸上競技の考え方と実践（２）	リレーにおける種目特性の理解と実践
13	格技の考え方と実践（１）	剣道における特性の理解と実践（その１）
14	格技の考え方と実践（２）	剣道における特性の理解と実践（その２）
15	まとめ	

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ実践Ⅱ				
担当者氏名	三宅　一郎・徳田　泰伸・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。各自がこの授業を通して体得したものが、Ⅱ期開講のスポーツ実践Ⅱに有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》
主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院)
『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ．ボーレット著
『中学校学習指導要領解説（体育編）』

《授業時間外学習》
＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	器械運動（１）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その１）
3	器械運動（２）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その２）
4	器械運動（３）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その１）
5	器械運動（４）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その２）
6	球技（１）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その１） スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
7	球技（２）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その２） スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
8	水泳	水泳・水中運動における種目特性の理解と実践
9	陸上競技（１）	走り幅跳び・走り高跳びにおける種目特性の理解と実践
10	陸上競技（２）	正しいウォーキング・ジョギング 長距離走における種目特性の理解と実践
11	球技（１）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その１） スポーツスキルの獲得
12	球技（２）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その２） スポーツスキルの獲得
13	格技（１）	柔道における特性の理解と実践（その１） スポーツスキルの獲得
14	格技（２）	柔道における特性の理解と実践（その２） スポーツスキルの獲得
15	まとめ	

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説Ⅰ				
担当者氏名	加藤和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ◎　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
「学校教育とは」を問いながら、これまで児童生徒側からとらえてきた養護教諭像、保健室のイメージを、教師性と専門性の視点から再構築することを目指す。また、日々の健康情報の中から教育課題や児童生徒の健康課題に関心を持ち、解決策を考えることで健康観、教育観、児童生徒観を育てることができるようグル―プワークを取り入れ授業理解を図る

《授業の到達目標》
○学校教育の視点に立って、養護教諭の職務、保健室の機能の概観を説明することができる
○児童生徒を取りまく健康課題に関心を持ち、現状や対応策を主体的に考えることができる
○授業をとおして再構築した養護教諭の職務や保健室の機能を具体的に表現できる

《成績評価の方法》
レポート（５０％）定期試験（５０％）で総合的に判断する。授業実施回数の1／３以上の者は定期試験を受けることができない。

《テキスト》
「新養護概説（第6版）」采女智津江編集代表　少年新聞社

《参考文献》
「新版養護教諭の執務の手引き」第6版　植田誠治監修　石川県養護教育研究会編　東山書房
「養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした保健室経営の進め方」財団法人日本学校保健会
「児童生徒の健康診断マニュアル」財団法人日本学校保健会

《授業時間外学習》
授業のはじめに小テストを実施するので、前回のポイントを整理、理解しておく

《備考》
養護教諭免許の取得を目指す人の積極的な受講を望む

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の進め方、学習方法
2	学校教育と学校保健 学校保健と養護教諭	教育基本法　学校教育法　学校保健安全法　養護教諭の職務
3	養護教諭制度の変遷 養護教諭に関する法律等	学校看護婦、養護訓導、中央教育審議会答申、教育職員免許法　養護教諭複数配置
4	養護教諭の専門性とその職務	教育職員としての職務、養護教諭の専門領域における職務、養護教諭の職業倫理
5	学校保健関係職員とその役割	発保健主事制度、学校長、学級担任、学校医・学校歯科医・学校薬剤師　栄養教諭、スクールカウンセラー　スクールソーシャルワーカー、子どもの現代的健康課題、
6	子どもの発育発達とその現状	児童期・青年前期・青年後期、子どもの健康問題の推移、子どもの現代的健康課題、
7	保健室の機能	保健室の法的根拠、保健室の役割、保健室の機能、保健室経営
8	保健管理（Ⅰ）	健康実態の把握、健康観察、保健調査、健康診断①
9	保健管理（２）	健康診断②、保健管理としての健康診断、保健教育としての健康診断、
10	保健管理（３）	救急処置、疾病管理、学校保健組織活動
11	保健管理（４）	健康相談、メンタルヘルス、児童生徒の多様な健康課題、心のケア、ＰＴＳＤ
12	保健教育（１）	教科保健（保健学習）　小学校「体育」保健領域、中学校「保健体育」保健分野
13	保健教育（２）	保健指導　特別活動における学級活動，総合的な学習の時間
14	特別支援教育と養護教諭	児童生徒の障害、発達障害、特別支援教育コーディネーター
15	まとめ	養護教諭の職務、保健室の機能

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説Ⅱ				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ◎　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
養護概説Ⅰで学んだ内容をさらに発展させ、養護教諭の役割と活動に対する認識を深め、養護の専門性を形成する人間観と科学性を再確認し、実践の学門としての位置づけを明確にする。教育職員としての養護教諭が捉えておくべき学校教育の基本的項目と養護教諭として培ってきた専門性を整理し、養護教諭の職務としてその役割を明確にしていく。

《授業の到達目標》
○養護教諭の役割と活動に対する理解を深め、自らの描く養護教諭像を表現できる。○保健教育について整理し、養護教諭の役割や内容を説明できる。○課題研究に取り組み、その成果をプレゼンテーションできる。○科学的根拠をもって理解し、レポートにまとめることができる。

《成績評価の方法》
レポート課題の提出と発表　20%、定期試験　60%、小テスト20%、
授業実施回数の1/3以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》
「新養護概説」　　采女智津江編　　少年写真新聞社

《参考文献》
「新版・養護教諭執務のてびき」　第６版　植田誠治監修　石川県養護教育研究会編　東山書房
その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》
健康問題、教育問題の情報を収集するため、新聞には必ず目を通しておく。
テキストを通読し、関係の図書に目を通す。
科学的レポートの書き方について学び、レポート課題に利用する。

《備考》
免許選択科目です。養護教諭免許の取得を目指す人の意欲的・積極的受講を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、養護教諭の職務とは
2	養護教諭の活動の展開（１）	法的根拠、包括的全体像と個別性
3	養護教諭の活動の展開（２）	活動の指針、方法、評価について
4	研究とプレゼンテーション	養護教諭の実践的研究の方法、研究の進め方とプレゼンテーションの仕方
5	養護教諭の職務　（１）	知識と技能の確認 グループワーク（12回目に続く取り組み）
6	養護教諭の職務　（２）	実践の計画 グループワーク
7	養護教諭の職務　（３）	実践 グループワーク
8	養護教諭の職務の評価について	実践の評価、再び、養護教諭の職務とはを考える。レポート課題
9	学校保健と組織活動	組織活動の実際、連携、学校保健委員会、
10	安全管理と危機管理	安全管理と教育、危機管理の進め方、養護教諭の役割、、
11	養成と研修	免許と法的根拠、現職研修、
12	具体的養護活動の展開	グループワーク、養護教諭の職務からの継続（分析）
13	展開	グループワーク（分析、まとめ）、
14	発表	グループワーク、プレゼンテーション、相互評価
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健Ⅰ（小児保健・学校安全を含む）				
担当者氏名	増尾禮二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
「学校保健」は、子供たちが生涯にわたって健康な心身を維持増進させるのに必要な基礎的知識や能力を培う上で、極めて重要なものである。わが国では「豊かさ」を追求するあまり、心身や自然環境を危機的な状況にさせしまっている。その結果健康問題は多発し、かつ低年齢化が進む中、学校教育における保健教育の使命は重大になってきた。それを指導する保健体育科教諭・養護教諭の基本的知識から具体的実践法について学ぶ。

《授業の到達目標》
１学校保健の意義と概要について理解することができる。２保健学習と保健指導のあり方、指導内容、指導方法について理解することができる。３児童生徒の心身の健康課題、更には問題行動の実態を理解し、対応方法を理化することができる。４保健管理と保健組織活動の概要について理解することができる。５教育時事問題に興味を持ち、自ら調査し、まとめることができる。

《成績評価の方法》
レポート２０％、授業参加態度１０％、定期試験７０％とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。出席率７０％以上のものを成績評価の対象とする。

《テキスト》
「学校保健ハンドブック」第５次改訂　教員養成系大学保健協議会編　ぴょうせい

《参考文献》

《授業時間外学習》
１新聞等のマスメディアで教育問題に注意を払い、情報を収集するとともに整理する。２レポートの作成方法について学び、習熟する。３ノートや配布プリントを授業後確認し、整理しておく。

《備考》
教員資格の取得を目指すものにとっては不可欠な科目です。また、この講義では教員採用試験に向けての情報や教育現場での事象を紹介するなど、教員を目指す人をサポートしています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション　学校保健の概要と重要性	授業のねらい、授業の進め方、提出物・出欠・試験など評価に関すること。学校保健の目的と内容
2	学校保健の歴史的変遷と法的な位置づけ	学校保健の歴史的変遷についてと法律・制度の変遷について
3	学校保健組織活動と学校保健計画と安全計画	学校保健関係職員の業務と責任、学校保健委員会と学校保健計画と学校安全計画について意義・内容について
4	保健学習の指導と評価	保健学習のねらいと実践、学習指導要領に基づく保健学習、保健学習の指導と評価
5	性教育と非社会的行動防止教育	性教育の必要性とあり方と工夫、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育について
6	健康診断と健康管理	健康の観察・相談・診断・調査・評価・情報活用について
7	児童生徒の発育発達(身体の発達と体力について)	児童生徒の身体の発育発達の実態について、体力の現状と課題
8	児童生徒の発育発達(精神の発達とその特徴)	乳幼児から後期高齢者に至るまでの精神の発達と変化とその特徴について
9	健康障害とその指導	児童生徒に見られる疾病異常と学校における感染症の予防とその対応
10	精神の健康	児童生徒の精神的健康に関わる問題の実態と精神的健康の維持と促進とその対応について
11	障害のある児童生徒とその指導	特別支援教育の変遷と障害のある児童生徒への健康上の支援について
12	学校環境衛生	学校環境の重要性と学校環境衛生基準について
13	学校安全	学校事故・災害の発生要因とその実態と防止について
14	応急手当	急病・けがの応急手当と心肺蘇生法
15	学校給食と食育	学校給食に求められるものと課題について、学校における食育について

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	基礎看護学				
担当者氏名	大平曜子、細井八千代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

看護の理念を確認しつつ、看護の対象、歴史、機能と役割、看護過程等について学びます。受講者は、基礎看護技術に触れながら、看護実践の基本を習得します。幅広い人間理解と科学的思考、健康生活の理解など、確固たる人間観や基礎的学習能力を養い、看護学への理解を深めます。　看護の「人間と健康に対するまなざし」「相手の立場」の理解などを通して、看護の心を考えていきます。

《授業の到達目標》

○看護の概念を理解し、説明できる。
○健康レベルからみた看護について説明ができる。
○基礎技術を理解し、説明できる。
○看護行為の基本を理解し、実践し、評価することができる。
○看護過程を理解し、科学的･論理的に展開することができる。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、演習の課題（40%）。100点満点で60点以上を合格とする。
授業実施回数の３分の１以上欠席した受講者は評価対象者とは認めません。

《テキスト》

『最新看護学』中桐・天野・岡田　編著　（東山書房）

《参考文献》

①『養護教諭のための看護学』（三訂版）　藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編　（大修館書店）
②『実践基礎看護学』中西監修　（建帛社）
③『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）　　その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。
復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。
医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。
技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習科目のため、出席重視であり、主体的取り組みを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	看護の概念	看護とは、健康とは、
3	看護の対象	看護の対象（疾病の成り立ちと回復）
4	看護の歴史	看護の概念とその歴史
5	看護の機能と養護教諭	学校で必要とする看護能力、養護教諭の専門性と看護
6	看護の基本となるもの	看護理論、
7	看護の基礎技術 １．環境整備	ベッドの整備、ベッドの条件
8	看護技術の基礎 ２．姿勢と体位	姿勢の保持、基本的な体位、
9	看護技術の基礎 ３．バイタル測定	バイタルサインの意味、測定方法
10	看護技術の基礎 4、バイタル測定その	バイタルサインの測定
11	看護技術の基礎 ５．コミュニケー	コミュニケーションの概念、構成要素、方法
12	看護技術の基礎 ６．観察	観察の目的、視点、
13	看護過程１	看護理論と看護過程、構成要素、情報、アセスメント、判断、計画立案、実施と評価、
14	看護過程２	看護活動、記録
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを拒否することまではいかないが迷っている人、教員になりたい人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業の本質である。過去の歴史の問題点を回顧しつつ、その時々に教育という営みがいかに大きな精神的影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための質的経験を蓄積する授業である。

《授業の到達目標》

教員になるという決意をするために、古典を読む力の要請が必要である。それとともに、その力を応用することができる資質の要請が求められている。そのためには独創性と子どもたちや子どもたちの保護者への教育的サービスを実施することができる能力を養成しなければならない。教員の資質能力としてコミュニケーショ力を身につける必要がある。これらのことを認識する必要が存在する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加(討論、グループ学習の営み、ディベートなどへの参加)40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著　『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会　2008年

《参考文献》

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。また、多くの教育関係古典書に接する必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	教職概論の全体像を把握するために、読破しなければならない書籍を紹介し、その読み方、整理の仕方などを紹介し、それらを整理体系化する力の養成に取り掛かる。
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解できる能力を、体験的に養成する。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を明確に理解する能力を身につける。
4	進路指導の意義と課題	教員組織を善く理解し、教員同士の協力とは一体何なのか、キャリア教育の指導とは一体何なのか、そこに求められる教師力とは一体何なのか理解する。
5	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは一体何なのか吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
6	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究することで、教員養成の課題をみつける。教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
7	教員像について	聖職か、労働者か、専門性をもつ専門家と見なすのか、考察することで教師のアイデンティティを探究する。教師像の自ら探究する力を自ら養成する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導、生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考え、教師評価を考察する。
9	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
10	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が公務分掌の中に位置づけられている。副校長に始まり、道徳指導教諭，主幹などが設けられている。分析と解明をする。
11	教師の職場環境	教師の勤務実態、職務上の義務と未分譲の義務、安全管理などについて考察し、課題を明確にする力を養う。
12	教師と地域社会と保護者	モンスターペアレンツの登場により教育現場の混乱はいっそう深刻になっていることを理解し、教師・地域社会・保護者の関係のありようを考察する。
13	各種審議会と教員の資質・能力の向上について	多くの審議会で、教員の資質向上が展開されてきた。それらの中で、特徴がある答申を取り上げて教員の資質・能力の向上について整理し、発展の方向性を考察する。
14	教員免許更新制について	10年ごとの教員免許更新制について、問題点と本来の目的との関わりを評価することを心がけることにする。
15	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の課題は、教員養成の資質・能力の向上が常に主張されるが、改革の留まることは考えられない。今後取り組むべき課題について、自ら見つけ出す力を養成する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡　義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ボルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《授業の到達目標》
教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
１．『ボルノー教育学入門』　広岡 義之著（風間書房）2012年

《参考文献》
必要があれば講義の際に紹介する。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講するべきかを理解する。
2	教育の目的と目標　1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標　2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考えることができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてボルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡　義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《授業の到達目標》
わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには，教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより，なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
１．『教育の制度と歴史』　広岡義之編著　（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》
(仮題)　『教育用語付教育法規』 広岡義之編著 ミネルヴァ書房　2012年。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが花開いたのか？　この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由平等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革　1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革　2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（含むカウンセリング）				
担当者氏名	琴浦　志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられるが、このような問題に対して、日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか？悩む人々と治療者の関係という実践の中から生み出された臨床心理学の理論は、人と人との関係が希薄だといわれる現代人にとって新鮮であるかもしれない。このような臨床心理学理論を学び自分なりの気づきや視点をもてるように学ぶ。

《授業の到達目標》
カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになる。自分自身のこころに焦点をあてそこに耳を傾けられるようになること。子どもたちを取りまく様々な問題のサインを見逃さず、自分なりの視点を持てるようになること。

《成績評価の方法》
授業への取り組み30%　レポート・確認テスト等20%　　授業内容の理解50%

《テキスト》
特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

《参考文献》
『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』
　　滝口俊子・田中慶江編　創元社1400円＋税
『特別支援教育のための100冊』
　　特別支援プロジェクトチーム　創元社1800円

《授業時間外学習》
こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。リストの中から自分の最も興味ある1冊を選んで手書き・用紙問わず5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》
教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ひとの話しを聴くということ、その心得について
2	カウンセリングの基礎理論	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について
3	カウンセリングの基礎技術	DVD　「初回面接での信頼関係の確立」から学ぶ
4	カウンセリングの実習	簡単なロールプレイを経験して、日常の自分自身の話を聞く態度などをふりかえってみる
5	こころの世界を取り扱うには	相談に来た人が、自由に思いついたことがいえる雰囲気をつくるにはどのようなことに留意すべきか
6	自分のこころをみつめる①	「フォーカシング」の理論
7	自分のこころをみつめる②	「フォーカシング」の体験
8	こころの発達理論	関係性の発達を知り、思春期以降の子どものこころの問題を理解しやすくする
9	子どもたちが育つ環境の問題	大人たちが子どもの成長を妨げている事例について考える
10	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題	軽度発達障害についての理解を深める
11	箱庭療法の理論	箱庭療法が生まれた背景と理論について理解を深める
12	箱庭療法から心の治癒過程を知る	DVDに表現された子どもの箱庭療法の事例をみることによって、心の治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師にできることとできないことは何か、専門機関にリファーするにあたって教師にできることは何か
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりに考える
15	まとめ	この授業で学んだことをふり返り、今後に活かすべきことは何か考える

平成 23（2011）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成23年度（2011年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	演習	2						2									
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2								
		健康科学序論	講義	2							2								
		健康科学	講義	2								2						多田 章夫	141
		情報科学	講義		2						2								
		基礎生物学	講義		2						2								
		解剖学	講義		2	◇	○		□	2									
		生理学	講義		2		○	△	□		2								
		微生物学	講義		2		○		□				2					［島田 邦夫］	142
		生化学	講義		2							2						登成 健之介	143
		栄養学	講義		2		○		□		2								
		食品学	講義		2		○			2									
		栄養指導論	演習		2								2					（福本 恭子）	144
		衛生学	講義		2		○	△	□		2								
		公衆衛生学	講義		2			△	□				2					［島田 邦夫］	145
		医学概論	講義		2	◇	○							2					
		認知心理学	講義		2							2						（北島 律之）	146
		健康心理学	講義		2	◇						2						大平 曜子	147
		臨床心理学	講義		2									2					
		人間関係論	講義		2										2				
		外書購読Ⅰ	講義		2									2					
		外書購読Ⅱ	講義		2										2				
		教育特論Ⅰ	講義		2									2					
		教育特論Ⅱ	講義		2										2				
		教育特論Ⅲ	講義		2											2			
		地域活動演習Ⅰ	演習		2										2				
		地域活動演習Ⅱ	演習		2											2			

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 「スポーツ実践Ⅰ」、「スポーツ実践Ⅱ」、「健康・体力づくり実践Ⅰ」、「健康・体力づくり実践Ⅱ」、「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

※ 「レクリエーション（野外活動を含む）」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

※ 健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年Ⅰ期に、「運動の基礎」の中で「発育･発達と老化」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成23年度（2011年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	I群（運動・体育に関連する科目）	体育原理	講義		2			△		2									
		運動の基礎	講義		2	◇		△			2								
		運動生理学	講義		2	◇		△	□			2						木下 幸文	148
		運動生理学演習	演習		2								2					木下 幸文	149
		運動栄養学	講義		2	◇		△				2						木下 幸文	150
		子ども運動学	講義		2			△			2								
		子ども運動学演習	演習		2			▲				2						三宅 一郎	151
		スポーツ医学概論	講義		2								2					木下 幸文	152
		スポーツ心理学	講義		2			▲					2					［堤 俊彦］	153
		障害者スポーツ論	講義		2											2			
		スポーツ史（体育史を含む）	講義		2			△							2				
		スポーツ科学Ⅰ	演習		2									2					
		スポーツ科学Ⅱ	演習		2										2				
		トレーニング科学Ⅰ	演習		2	◇						2						矢野 琢也	154
		トレーニング科学Ⅱ	演習		2								2					矢野 琢也	155
		体力測定と評価	講義		2	◇		▲		2									
		スポーツ実践Ⅰ	演習		3	◇		△		3									
		スポーツ実践Ⅱ	演習		3	◇		△			3								
		健康・体力づくり実践Ⅰ	演習		3	◇		△				3						三宅 一郎・徳田 泰伸・樽本 つぐみ	156
		健康・体力づくり実践Ⅱ	演習		3	◇		▲					3					三宅 一郎・徳田 泰伸・樽本 つぐみ	157
		スポーツ指導法Ⅰ	演習		2			△						2					
		スポーツ指導法Ⅱ	演習		2			△							2				
		健康・体力づくり指導法Ⅰ	演習		2	◇								2					
		健康・体力づくり指導法Ⅱ	演習		2	◇									2				
		運動処方論	講義		2									2					
		運動処方演習	演習		2										2				
		レクリエーション（野外活動を含む）	実習		2			△						4					
	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	病理学概論	講義		2							2						［北条 香織］	158
		薬理学	講義		2		○							2					
		養護概説Ⅰ	講義		2		○			2									
		養護概説Ⅱ	講義		2		●				2								
		学校保健Ⅰ（小児保健・学校安全を含む）	講義		2		●	△	□		2								
		学校保健Ⅱ	講義		2		○	△	□			2						加藤 和代	159
		学校保健Ⅲ	講義		2		○	△	□				2					大平 曜子・加藤 和代	160
		精神保健	講義		2		○	△	□			2						［南川 博康］	161
		健康行動論	講義		2			△	□			2						［植田 誠治］	162
		健康統計学	講義		2			●	■					2					
		健康相談活動の理論と実践	講義		2		○								2				
		看護学概論	講義		2		○				2								
		看護学Ⅰ	演習		3		○					3						［細井 八千代］	163
		看護学Ⅱ	講義		2		○						2					［吉永 初喜］	164
		看護学Ⅲ	演習		3		○							3					
		看護学Ⅳ	演習		2		○								2				
		臨床基礎実習	実習		1		○					2						大平 曜子・加藤 和代	165
		臨床看護実習	実習		2		○								4				
		救急看護（救急処置を含む）	演習		3		○	△	□					3					
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3												3			
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3		

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成23年度（2011年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
教職に関する科目	教職概論	講義		2		○	△	□	2									
	教育原理	講義		2		○	△	□	2									
	教育史	講義		2		●	▲	■						2				
	教育心理学	講義		2		○	△	□				2					大平 曜子	166
	教育制度論	講義		2		○	△	□		2								
	教育課程論	講義		2		○	△	□				2					［廣岡 義之］	167
	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）	講義		2			△	□			2						［荒木 勉］	168
	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）	講義		2			△	□					2					
	保健科教育法Ⅰ（保健科教育教材研究）	講義		2				□				2					［荒木 勉］	169
	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）	講義		2				□						2				
	保健体育科教育法Ⅰ（保健体育科教育研究）	講義		2			△					2					［後藤 幸弘］	170
	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）	講義		2			△							2				
	道徳教育論	講義		2		○	△	□			2						廣岡 義之	171
	特別活動論	講義		2		○	△	□				2					［上寺 常和］	172
	教育方法・技術論	講義		2		○	△	□				2					河野 稔	173
	教育方法論	講義		2		●								2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2		○	△	□			2						［上寺 常和］	174
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2		○	△	□		2								
	教育実践演習（中・高）	演習		2			△	□								2		
	教育実践演習（養護教諭）	演習		2		○										2		
	中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5			△	□						5				
	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3										3				
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5		○								5				

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

科目名	健康科学				
担当者氏名	多田章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》
健康な状態を維持するために、普段からの健康的な生活が重要である。日常生活が健康に及ぼす影響や各年代において健康を保持増進させるのに重要な因子を理解し将来に役立てることを目的とする。運動、食生活、睡眠、休養などの日常生活と健康との関連や各年代における健康に影響を及ぼす生理的な現象等を科学的な理解を深める講義を行う。

《授業の到達目標》
1　運動、栄養などの生活習慣が健康に及ぼす影響を理解する
2　各年代において健康を維持する因子を理解する

《成績評価の方法》
1　定期試験８５％、小テスト15％の割合で評価する
2　遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の30%以上の場合）は定期試験の受験資格を失う
3　私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる

《テキスト》
指定しない。

《参考文献》
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
1　次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
2　毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
3　日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること

《備考》
講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の健康状態	日本人の死亡統計および疾患別患者数統計から、日本人の主な死亡原因は何か、どんな疾患の患者数が多いか。が理解できる
2	日本人の生活習慣	国民栄養健康調査結果から、日本人の生活習慣（運動、食事、休養、喫煙、飲酒等）の現状が理解できる。
3	運動と健康	運動とがん、糖尿病、循環器疾患との関連及び「健康づくりのための運動指針2006」について説明できる。
4	食事と健康	三大栄養素の単位重量当たりのエネルギー、エネルギー代謝（特に基礎代謝）、食事摂取基準量について説明できる。
5	睡眠・休養と健康	睡眠時間と健康の関連、睡眠障害の分類、不眠症の分類及び原因について説明できる。
6	喫煙と健康	喫煙による健康被害（能動喫煙および受動喫煙それぞれ）やタバコに含まれる有害物質について説明できる。
7	飲酒と健康	飲酒が及ぼす健康への効用及び悪影響について説明できる。さらに、適度な飲酒量や胎児性アルコール症候群を理解する。
8	ストレス	ストレス学説、ストレスの発生メカニズム（自律神経を中心とした）、ストレスの評価法について説明できる。
9	咀嚼と健康	咀嚼が脳の機能や肥満に及ぼす影響やその生理学的なメカニズムについて説明できる。
10	乳幼児期の健康	乳幼児期の腸内細菌叢の変化、出生直後の免疫、脳の発達、乳幼児期の睡眠、発育と発達の相違について説明できる
11	少年期の健康	少年期の発育・発達の特徴（特に脳の発達）、遊びの必要性、ゴールデンエイジについて説明できる。
12	青年期の健康	第二次性徴及び青年期の健康問題として無理なダイエットや朝食欠食による体への悪影響について説明できる。
13	妊婦の健康	妊婦における運動の必要性、妊婦に適した運動、妊婦の喫煙や飲酒による胎児への影響について説明できる。
14	成人期の健康	内臓脂肪型肥満と運動との関連、体脂肪のエネルギー計算、減量初期の体蛋白の崩壊、原料における食事療法単独の問題点について説明できる。
15	老年期の健康	老化の定義、老化現象、老化による筋肉の減少の仕方及び筋トレ、痴呆および痴呆予防について説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	微生物学				
担当者氏名	島田　邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》

「健康」は生命の根源といえる。“安全神話”は感染症に対する油断を生み、私達は病原体の格好の餌食になっている。生肉ユッケによる腸管出血性大腸菌 0111:H- やノロウイルスなど目に見えない微生物による感染症の脅威に曝されている。本科目では微生物学の基礎と共に病原微生物が疾病とヒトとどのようにかかわっているか理解を深め学習する。

《授業の到達目標》

① 微生物の種類や分類を説明できる。② 主要な病原微生物による感染症の病態と特徴を理解・説明できる。③ 主な感染症の予防対策を提言できる。④ 病原体と戦う免疫現象を理解・説明できる。

《成績評価の方法》

① 受講態度、学習意欲、討論への参加　20%　（レポート提出でも評価する：提出期限を守らない場合は減点とする）。
② 定期試験　80%

《テキスト》

コンパクトシリーズ『コンパクト微生物学　改訂第3版』、小熊恵二・堀田博　編集　（南江堂）

《参考文献》

《授業時間外学習》

① 予習： あらかじめテキストに目を通す。　② 復習：授業内容を再確認する。不明点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。マスメディアで報道された感染症の切り抜きなどをファイルしてまとめる。

《備考》

微生物学を通じ、自分の健康管理に関する知識を身につけるよう心がける。話題になる感染症について、関心を高めておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「微生物」とは・・・？　微生物学へのいざない！
2	微生物学の概要・歴史	プロジェクター（映像）を使い、「微生物学」全体像の理解を深める。
3	微生物の分類	微生物にはどんな種類があるのか？、感染経路
4	細菌Ⅰ	形と分類、培養・増殖、変異と遺伝
5	細菌Ⅱ	感染と発症、感染と免疫（液性免疫、細胞性免疫）
6	細菌Ⅲ	主要な細菌の性状と病原性、迅速診断（遺伝子診断）
7	ウイルスⅠ	形態・構造と分類、遺伝と変異
8	ウイルスⅡ	主要なウイルスの感染症、遺伝子診断
9	真菌　（カビ、酵母）Ⅰ	形態と増殖、分類、主要な真菌感染症
10	真菌　（カビ、酵母）Ⅱ	検査法
11	原虫と寄生虫	分類と特徴、主要な原虫・寄生虫症
12	滅菌と消毒　、話題の感染症	主要な滅菌法・消毒法、新興感染症・再興感染症、人獣共通感染症
13	感染症の予防と対策	感染症予防法、検疫法。予防接種法
14	臓器感染症	皮膚、呼吸器、消化器、泌尿生殖器など
15	まとめ	総括、知っておきたい世界の感染症！、バイオハザード対策

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	生化学				
担当者氏名	登成 健之介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力）				

《授業の概要》
生化学は種々の生命現象を細胞、物質レベルで解明する基礎科目で生命素材である糖質、脂質、タンパク質、核酸、ホルモン、ビタミン等の構造や役割を学び、それらに関する生体内での合成や代謝を学習する。

《授業の到達目標》
生体を講成する生命素材について説明でき、それらに関する生体内の合成や代謝についても説明できる。もって、栄養学や医学概論等の関連科目の基本的理解が得られる。

《成績評価の方法》
小テスト（２０％）、定期試験（７０％）、授業終了時の課題（１０％）

《テキスト》
図説生化学 紺野邦夫他 （実教出版）

《参考文献》
たくさんの成書がある。
生化テキスト 毎田敏夫（文英堂）
よくわかる生化学 生田 哲（日本実業出版） 、他

《授業時間外学習》
授業の予習は授業満足度を高めるためにも重要で、わかりにくい所は自分でも調べてみる努力をすること。

《備考》
テキスト、プリントを持参しないもの、私語、携帯電話使用など積極的に授業に参加しないものの受講は認めない。試験はテキスト等の持込不可。１/３以上の欠席で単位を認めない

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、糖質（1）	授業概要説明他、単糖類の種類と性質
2	糖質（2）	多糖類の種類と性質
3	脂質（1）	単純脂質と講成脂肪酸
4	脂質（2）	複合脂質（リン脂質）、誘導脂質（ステロイド類）
5	タンパク質（1）	アミノ酸の種類と性質
6	タンパク質（2）	タンパク質の構造と物理・化学的性質
7	核酸の化学	DNA、RNA、ヌクレオチド、ATPと関連物質
8	生体成分の代謝	栄養素の消化と吸収、ATPの生成
9	酵素と酵素反応	酵素の性質と酵素反応速度
10	糖質の代謝	解糖、クエン酸回路、グリコーゲンの分解と生成
11	脂質の代謝	脂肪の消化と吸収、脂肪酸の酸化、コレステロールの代謝
12	タンパク質の代謝	タンパク質の消化と吸収、アミノ酸の代謝、
13	タンパク質の代謝	タンパク質の生合成
14	ビタミン	ビタミン種類、性質、ホルモン
15	ホルモン、まとめ	ホルモン補講他、全体的まとめ

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	栄養指導論				
担当者氏名	福本恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力）				

《授業の概要》
栄養指導の基本的な知識と実践方法を理解し、健康づくりのための自己管理方法を修得する。

《授業の到達目標》
栄養指導の基本的な知識を理解する。自分の食生活を見直し、自己管理能力を高める。

《成績評価の方法》
授業態度20%、確認小テスト30%、定期試験50%

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
『最新日本食品成分表』医歯薬出版編、医歯薬出版、2011
『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版、2009
『知ってトクする調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部、2007

《授業時間外学習》
毎回の授業終了後授業内容を振り返り、しっかりと理解しておくこと。

《備考》
授業に対して前向きに取り組むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	栄養指導論の目的と必要性について解説する。
2	栄養指導の基礎Ⅰ	栄養指導に必要な栄養学の基礎知識を理解する。
3	栄養指導の基礎Ⅱ	栄養指導に必要な食品学の基礎知識を理解する。
4	栄養指導の基礎Ⅳ	栄養指導に必要な調理学の基礎知識を理解する。
5	確認小テスト	栄養指導の基礎知識（栄養学、食品学、調理学）の理解度を確認する。
6	栄養指導の基礎Ⅳ	食事摂取基準について解説する
7	栄養指導の基礎Ⅴ	食事バランスガイド、食生活指針、健康日本21について解説する。
8	確認小テスト	栄養指導の基礎知識（食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針、健康日本21）の理解度を確認する。
9	栄養指導の各論Ⅰ	ライフステージの特徴と栄養指導を理解する。
10	栄養指導の各論Ⅱ	特定給食施設の特徴と栄養指導を理解する。
11	確認小テスト	栄養指導の各論（ライフステージ、特定給食施設）の理解度を確認する。
12	栄養指導の実際Ⅰ	食品成分表の使い方と栄養価計算の方法を理解する。
13	栄養指導の実際Ⅱ	食品のさまざまな側面（表示、重量、廃棄率、栄養素）を理解する。
14	栄養指導の実際Ⅲ	自己診断から実行可能な健康づくりを計画する。
15	まとめ	栄養指導論のまとめ

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	公衆衛生学				
担当者氏名	島田　邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》

みんなの健康はみんなで守ろう！これが公衆衛生である。人と現代の生活、健康をめぐる行動特性・メカニズムを解き明かす。社会・環境と健康との関係や，その変化が健康に与える影響、健康増進・疾病予防の考え方と取り組みを学ぶ。併せて保健・医療・福祉・介護システムなどの社会構造をも学習する。

《授業の到達目標》

① 健康増進（ヘルス・プロモーション）に対応した法制度および地域保健活動の内容を理解・説明できる。② 生活習慣病や感染症への予防対策が提言できる。③ 社会保障の問題について提言・説明できる。

《成績評価の方法》

① 受講態度、学習意欲、討論への参加　20%　（レポート提出でも評価する：提出期限を守らない場合は減点とする）。
② 定期試験　80%

《テキスト》

『これからの公衆衛生学 ： 社会・環境と健康』、田中平三編集　（南江堂）

《参考文献》

《授業時間外学習》

① 予習： あらかじめテキストに目を通す。　② 復習：授業内容を再確認する。不明点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《備考》

「人間社会」を取り扱うため、非常に広範囲の知識が要求される。東日本大震災に伴う津浪、原発事故も公衆衛生の範疇に含まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「公衆衛生学」へのいざない！公衆衛生学で何を学ぶか・・・？
2	「公衆衛生学」の概念	プロジェクター（映像）を使い公衆衛生の全体像を把握・理解を深める。
3	環境と健康、保健統計	生態系と人間、生活環境、環境汚染、疫学
4	生活習慣	栄養と食生活、　生活習慣の現状と生活習慣病　（ガンや骨粗鬆症、循環器疾患など）
5	感染症対策	感染症の最近の動向、感染症予防法、予防接種法
6	その他の疾病対策	難病、自殺、リウマチ・アレルギー疾患
7	地域保健、衛生行政	地域保健法、衛生行政の組織、健康危機管理
8	母子保健、学校保健	母子保健対策、学童期の健康状況、保健教育・保健管理、学校感染症、養護教諭の役割
9	精神保健・福祉	地域精神保健福祉対策、精神障害者の医療、精神障害者福祉と社会復帰対策
10	障害児・障害者対策	障害者自立支援法、身体障害者、知的障害者など
11	歯科保健、労働衛生、	歯科保健の現状と対策、労働と健康、その対策、メンタルヘルス、パワーハラスメント
12	国際保健	国際交流・協力、検疫法
13	社会保障	社会保障の定義、公衆衛生と社会保障、社会福祉、医療・介護保険制度
14	保健・福祉・介護等関連法規	法の概念、衛生法規など
15	まとめ	学習成果についてグループ討論

科目名	認知心理学				
担当者氏名	北島　律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合）				

《授業の概要》
認知心理学は心理学の中で人間の知的機能全般についての基盤となる部分を担います．情報の入力(感覚)，最低限の意味の成立(知覚)，情報の処理(狭義の認知)をテーマとし，人の心の基礎過程について実験とモデルを両輪として理解します．それにより，人間の様々な心理・社会的な活動をより深く考察できるようになります．

《授業の到達目標》
○「認知心理学」の心理学における位置づけを説明できる．
○感覚，知覚，認知の各過程を理解し類別することができる．
○実験やモデルといった科学的な視点で心をとらえることができる．
○心理的または社会的事象のいくつかについて，認知心理学の知識を基に主体的に考えることができる．

《成績評価の方法》
ペーパーテスト80%　　レポート・小テストなど10%　　受講態度10%

《テキスト》
プリント(認知心理学講義ノート)を配布

《参考文献》
「知性と感性の心理　認知心理学入門」　行場次郎，箱田裕治(編)　　福村出版
「グラフィック　認知心理学」　森敏昭・井上毅・松井孝雄　サイエンス社

《授業時間外学習》
・予習の方法　特に予習は必要としない．
・復習の方法　復習には力を入れてください．授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください．まず，各用語の意味を理解し覚えてください．次に，図や表，様々なデータを参照しつつ，実験やモデルが示すことを理解するように努めてください．

《備考》
本科目は，「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておくことが必要です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	認知心理学って何？	認知心理学の概要を説明．
2	眼からの情報は脳へどう伝わるかⅠ(視覚の基礎)	網膜の役割．光信号から電気信号への変換．
3	眼からの情報は脳へどう伝わるかⅡ(エッジと形)	エッジの強調から形を知るまでの流れ．
4	感覚の黄金法則(感覚についての３つの法則)	ウェーバーの法則，フェヒナーの法則，スティーブンスのべき法則．
5	おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)	錯視のデモやその見えの仕組み．いくつかの対象がまとまって見える性質．
6	わたしたちの世界(三次元知覚)	三次元に世界を知覚するために必要な要素．大きさの恒常性．
7	見えていても見えていない(注意)	網膜に投影されることと「見える」こととの違い．注意の空間的および時間的性質．
8	自分が自分であるために(記憶)Ⅰ	記憶の分類．短期記憶から長期記憶へのシフト．
9	自分が自分であるために(記憶)Ⅱ	ワーキングメモリ．
10	いつも言葉で考える(言語)	言葉と脳．文の理解にかかわる処理．
11	人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)	顔を認識する能力．人種と顔．感情と顔．
12	一難去ってまた一難(問題解決)	洞察と情報処理による問題解決．
13	何が使いやすい？(デザインとアフォーダンス)	情報デザイン．感性デザイン．エコロジカル(生態学的)デザイン．
14	どっちを選ぶ？(意思決定)	期待効用．ヒューリスティックス．
15	これまで何を学んだか(まとめ)	実験とモデルによる心の理解．

科目名	健康心理学				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する （専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

心理学としては異色の「身体的な健康」と「精神的な健康」とを根元的な結びつきの中で捉えようとしていることと、障害や疾病状態ではなく健康を中心課題としているところに特徴があります。心理的要因の心身の健康への影響を理解し、自他の健康アプローチに関心を払い、運動指導や生活習慣の改善・行動変容に生かす態度・能力の育成を目指します。授業では、健康への認知行動的アプローチに基づく実際を学びます。

《授業の到達目標》

○健康心理学の領域を理解し、説明できる。
○健康心理学の基礎となる心理学の概念を理解し、代表的な理論について説明ができる。
○健康なパーソナリティについて、考えを述べることができる。
○健康習慣や健康行動について理解し、また、その指導ができる。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出と発表 20%、定期試験 60%、
毎時、授業終了時に、本時の学習に関する小テストを行う 20%、
授業実施回数の1/3以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》

『新版 健康心理学』 野口京子著 金子書房

《参考文献》

『現代心理学シリーズ 健康心理学』島井哲志編 培風館
他、授業の中で適宜紹介

《授業時間外学習》

健康生活を実践し、健康習慣に関して、自分の意見をまとめておく。
テキストを通読し、健康心理学の領域を理解する。
課題のレポートには、必ず文献に目を通す。

《備考》

健康運動実践指導者等の資格を目指す者はいうまでもなく、意欲的な参加を主体的な学習態度を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	健康心理学の歴史と他学問領域との関係
2	健康心理学の基礎理論（1）	精神分析、学習理論、行動理論、
3	健康心理学の基礎理論（2）	発達理論、認知理論、人間主義理論、
4	健康行動の理解	健康行動とは 予防と治療とリハビリ
5	パーソナリティと健康行動（1）	健康なパーソナリティ
6	パーソナリティと健康行動（2）	疾病とパーソナリティ
7	生活習慣と健康	健康な生活習慣 生活習慣病の予防と健康行動
8	健康への認知行動的アプローチ(1)	認知の行動の関わり、認知行動療法、
9	健康への認知行動的アプローチ(2)	社会的要因と個人的要因 健康関連行動について
10	ヘルスケアシステム	健康心理アセスメント
11	健康におけるソーシャルサポートの働き	ソーシャルサポートの測定
12	健康心理カウンセリング	基礎理論 理性感情行動療法、交流分析、自律訓練法、
13	健康教育活動	禁煙、薬物防止、食行動の変容などについて
14	行動変容や習慣改善への試み	集団力学・グループダイナミクス、個人指導
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動栄養学				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》
我々人類の健康を維持・増進させるためには、栄養・運動・休養の三要素が必要である。特に栄養は毎日の生活の基礎である食事や食生活のあり方につながるだけに重要であり、健康やスポーツに携わる者にとり基本的な栄養知識は必須である。そこで、栄養と運動や健康の関わりを中心に、栄養学の基礎と運動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方と問題点につき述べる。

《授業の到達目標》
栄養と運動は車の両輪のようなものである。生活習慣病の数々は、運動と栄養のバランスの乱れに起因している。また、スポーツを行うにあたり、パフォーマンスを高めるための土台となる栄養素の働きについて理解できるようになることが重要である。運動栄養学の講義を通じて、栄養学の基本的な内容を説明できるようになり、運動・身体活動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方についての基礎的な知識を説明できる。

《成績評価の方法》
成績評価は定期試験の結果（70%）を中心とし、毎講義ごとに行う確認テスト（20%）とレポート課題（10%）を参考にして評価する。ただし授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《テキスト》
「スポーツと健康の栄養学」（第3版）下村吉治著（NAP）2010年
また必要に応じて関連した資料も配付する。

《参考文献》
「健康づくりと競技力向上のための　スポーツ栄養マネジメント」鈴木志保子（日本医療企画）2011年
「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平、 樋口満編（第一出版）2006年
「実践的スポーツ栄養学」鈴木正成著（文光堂）2006年
「身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A　栄養と運動」伏木亨他著（杏林書院）2001年

《授業時間外学習》
テキストの指定箇所を事前に読んでおくとともに、「栄養学」で学んだ内容についてよく理解しておくこと。また、毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストをしますので、各自で学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念と栄養	栄養と運動や健康の関わりについて理解する
2	栄養学の基礎(1)	運動時の炭水化物・脂質・蛋白質の働きについて理解する
3	栄養学の基礎(2)	運動時のビタミン・無機質の働きについて理解する
4	栄養学の基礎(3)	エネルギー産出と筋運動時のエネルギー
5	栄養学の基礎(4)	生活活動とエネルギー消費
6	運動時の栄養補給(1)	運動時の糖質代謝（スタミナと炭水化物ローディング）について理解する
7	運動時の栄養補給(2)	運動時の脂質代謝について理解する
8	運動時の栄養補給(3)	運動時の蛋白質代謝について理解する
9	運動時の栄養補給(4)	運動時のビタミン・無機質の代謝、生体内での役割について理解する
10	運動と栄養素の消化・吸収	運動中の栄養素の消化・吸収について理解する
11	活性酸素と運動・栄養	抗酸化剤（サプリメント）の効果について理解する
12	トレーニング期と試合期の食事	筋肉づくりのための食事タンパク質の摂取方法について説明できる
13	栄養・食事アセスメント（１）	栄養状態の判定と評価
14	栄養・食事アセスメント（２）	運動期間中の食事アセスメントの方法とその実際
15	日本人の食事摂取基準（栄養所要量）	栄養素摂取量の現状と運動時の活用法について説明できる

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学演習				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》
身体運動時の生理反応の基礎と本質を演習を通じて学習していくとともに、運動中の生理現象を詳細に記録や観察し、測定時に得られたデータを解析することによって身体の生理学的な適応反応の意義を理解できるようにする。
　主なテーマとして、(1) 呼吸循環機能に及ぼす身体活動の影響(2) 筋力・筋持久力に及ぼす身体活動の影響(3) 運動負荷試験の実際と解釈について、評価していく。

《授業の到達目標》
運動生理学演習では、運動生理学の講義で学んだ知識について実習を通して再確認するとともに、運動生理学の研究に用いられる基礎的な測定方法を習得することができる。また演習を通じて、身体活動時にみられる人体機能の複雑で巧妙な適応機能が説明できる。

《成績評価の方法》
演習中のレポート課題（80%）と演習の参加意欲（作業シート）（20%）により評価する。ただし、この科目は演習科目なので、特に出席率が全体の90%に満たない場合は単位を取得することはできません。

《テキスト》
テキストは指定しない。演習では必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
「運動負荷心電図 第2版―その方法と読み方」　川久保清著（医学書院）2009年
「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法」西園秀嗣著（大修館書店）2004年
「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司著（杏林書院）2001年
「運動処方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-」アメリカスポーツ医学会編（南江堂）2001年

《授業時間外学習》
演習で得られた記録を整理しながら、レポート作成のための資料を収集しておくこと。また、参考図書などを参考に生理機能の仕組みについて理解しておくこと。

《備考》
身体活動を評価するための実験を行いますので、演習にふさわしい服装（靴も含む）で参加すること。演習にふさわしい服装でない場合は、出席する必要はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方について
2	心肺運動負荷試験(1)	有酸素性作業能力の測定方法について
3	心肺運動負荷試験(2)	間接法と直説法について理解する
4	心肺運動負荷試験(3)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
5	心肺運動負荷試験(4)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
6	運動中の呼吸循環機能の評価	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
7	運動中の呼吸循環機能の評価	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
8	運動中の呼吸循環機能の評価	運動時の心拍数の変化について理解する（運動中の心拍変動を分析する）
9	運動中の呼吸循環機能の評価	運動時の血圧調節について理解する（運動中の血圧変化を分析する）
10	運動中の呼吸循環機能の評価	酸素負債と酸素借について理解する
11	運動中の体温調節機構について	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
12	運動中の体温調節機構について	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
13	無酸素性作業域値の測定	血液中の乳酸濃度と換気量の変化
14	運動時の筋活動機能の評価	筋電図の測定(1)
15	運動時の筋活動機能の評価	筋電図の測定(2)

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》

身体運動が人体機能にどのような応答をもたらすのか、また継続して身体活動を行った場合にはどのような適応を示すのかなど、その生理学的な機序を学習していく。

講義で学習する主な点は、(1) 運動と健康との関係について (2) 人が運動する場合の生理・生化学的機構について (3) 運動による人体機能の応答・適応について (4) 運動処方の意義と方法等について であり、これらについて詳細に講述する。

《授業の到達目標》

この講義は、身体活動にともなう人体の生理機能の変化や機序についての知識を身につけることができ、運動することにおいて大切な基礎的知識について説明できる。

《テキスト》

「現代栄養科学シリーズ18 運動生理学」池上晴夫著（朝倉書店）2003年

《参考文献》

「新運動生理学（上巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年

「新運動生理学（下巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年

「身体活動と不活動の健康影響」郡司篤晃、川久保清、鈴木洋児編（第一出版）1998年

「運動生理学」　Astrand, PO and Rodahil, K.（大修館書

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。また、毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストをしますので、各自で学習しておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験の結果（80%）を中心とし、毎講義ごとに行う確認テスト（レポート課題を含む）（20%）を参考にして評価する。ただし講義の出席率が3分の2以下の者は単位を取得する事が出来ません。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康と運動	健康と体力、運動の効果について
2	運動適応のメカニズム（1）	運動時のエネルギー発生の仕組みについて理解する
3	運動適応のメカニズム（2）	有酸素能力と無酸素性作業閾値について理解する
4	運動適応のメカニズム（3）	運動と呼吸について理解する
5	運動適応のメカニズム（4）	運動と循環について理解する
6	運動適応のメカニズム（5）	運動と筋・骨格系①について理解する
7	運動適応のメカニズム（6）	運動と筋・骨格系②について理解する
8	運動適応のメカニズム（7）	運動と神経系①について理解する
9	運動適応のメカニズム（8）	運動と神経系②について理解する
10	運動適応のメカニズム（9）	運動と自律神経・内分泌系について理解する
11	運動適応のメカニズム（10）	運動と体温調節について理解する
12	運動適応のメカニズム（11）	運動と環境（内部・外部）の関係について理解する
13	運動適応のメカニズム（12）	発育発達期における運動の役割について理解する
14	運動適応のメカニズム（13）	運動強度・量の表し方について理解する
15	健康のための運動処方	様々な環境下での有酸素性運動の在り方について説明できる

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	子ども運動学演習				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。

今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、幅広く運動遊びや学校体育指導に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》

幼児の運動遊び指導者並びに小学生の体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期・児童期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期・児童期に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
「幼児の運動発達学」小林寛道(ミネルヴァ書房)
「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著(杏林書院)
“Motor Development and Movement Experiences for Young Children”DAVID L.GALLAHUE,John Wiley&Sons,ink

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
復習方法は、　学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	移動系運動（１）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（２）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（１）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（２）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
6	操作系運動（３）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際 （コーディネーション能力を含む）
7	非移動運動（１）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（２）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	スポーツスキル獲得のための方法と実践 （コーディネーション能力を含む）
10	集団ゲーム（１）	スポーツスキル獲得のための方法と実践 （コーディネーション能力を含む）
11	集団ゲーム（２）	スポーツスキル獲得のための方法と実践 （コーディネーション能力含む）
12	小学校体育（１）	低学年における体育指導の考え方と実践方法 （スポーツスキル獲得のための方法と実践）
13	小学校体育（２）	中学年における体育指導の考え方と実践方法 （コーディネーション能力含む）
14	小学校体育（３）	高学年における体育指導の考え方と実践方法 （コーディネーション能力含む）
15	まとめ	

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ医学概論				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》
これまで習慣的な運動が生活習慣病の病態改善や心臓血管系疾患の発症リスクを軽減することが明らかにされている。運動指導に携わる人は対象者に運動を負荷したとき、どの様なメカニズムによってその効果が得られるのかという本質を理解しておかなければならない。本講義では原著論文の講読を通じて、生活習慣病に関連する医学的基礎知識から治療につながるような運動の効果について講述する。

《授業の到達目標》
生活習慣を改善することにより、疾病の発症や進行が予防できる疾患と定義されている生活習慣病は、「一次予防」すなわち健康を維持・促進して疾患の発症を予防することを目標としている。運動は疾患の発症を予防するだけでなく、生活習慣病に対する運動療法としても注目を集めている。本講義を通じて、主に生活習慣病に対する治療や予防に効果的な運動を類別できるようになる。

《成績評価の方法》
講義時間中に行う発表や討論等、発表で評価を行う。具体的には、必要な資料作成（60%）、口頭発表（20%）、質疑（20%）を合わせて総合的に評価する。ただし講義の出席率が3分の2以下の者は単位を取得する事が出来ません。

《テキスト》
テキストは特に指定せず、講義ごとに配付する関連した資料を使用します。

《参考文献》
「健康管理とスポーツ医学―公認アスレティックトレーナー専門科目テキストワークブック」赤間高雄編（文光堂）2011年
「スポーツ運動科学―バイオメカニクスと生理学 」W.E. ギャレット、 D.T. カーケンダル編（西村書店）2010年
「運動療法と運動処方―身体活動・運動支援を効果的に進めるための知識と技術」佐藤祐造編（文光堂）2008年

《授業時間外学習》
講義中に行う発表に関する資料について、専門用語や内容について学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康づくりにおける運動のあり方	疾病の治療、特に生活習慣病に対する運動の効果や在り方について理解する
2	健康づくりのための運動所要量と運動指針	健康づくりのための運動指針について（その目的や意義について）説明することが出来る
3	生活習慣病の運動療法(1)	糖尿病に対する運動の意義(1)　運動とインスリン感受性の関係について理解する
4	生活習慣病の運動療法(2)	糖尿病に対する運動の意義(2)　運動と糖輸送蛋白の関係について理解する
5	生活習慣病の運動療法(3)	高血圧症に対する運動の意義(1)　運動による降圧の機序について理解する
6	生活習慣病の運動療法(4)	高血圧症に対する運動の意義(2)　運動処方として適している身体活動の種類について理解する
7	生活習慣病の運動療法(5)	高脂血症に対する運動の意義(1)　運動と脂質代謝について理解する
8	生活習慣病の運動療法(6)	高脂血症に対する運動の意義(2)　運動と脂質代謝の調節機構について理解する
9	生活習慣病の運動療法(7)	動脈硬化症に対する運動の意義(1)　運動と脂質代謝（リポタンパク質）について理解する
10	生活習慣病の運動療法(8)	動脈硬化症に対する運動の意義(2)　運動と脂質代謝の調節機構について理解する
11	生活習慣病の運動療法(9)	虚血性心疾患、肥満に対する運動の効果について理解する
12	女性とスポーツ	競技スポーツや身体活動が生体に及ぼす影響について理解する
13	運動と免疫機能	運動と炎症反応、その防御機構について理解する
14	運動と活性酸素	運動による活性酸素の消去システム機構について理解する
15	総括	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポ-ツ心理学				
担当者氏名	堤　俊彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ◎　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
スポ-ツ・運動の場面の心理・行動学的な視点理解を深めるために，スポ-ツを通した発達，心理とパフォーマンスとの関係，競技不安やストレスマネジメント，動機づけのメカニズムと方法、スポ-ツパーソナリティ，対人認知，スポ-ツ・運動のメンタルヘルス増強効果，などについて考究する。あわせて，スポ-ツ選手のパフォーマンスを支援する心理サポート，中高年者の運動行動変容の理論的背景を学習する。

《授業の到達目標》
スポ-ツや運動場面における心理・行動学的な基礎的な事項について説明できる。
スポ-ツや運動場面における各種心理的支援の行い方について知識を得る。
行動変容に必要となるカウンセリングに関する知識を学び技法を習得する。

《成績評価の方法》
ファイナルテスト（50%），予習レポート(30%)，毎講義後のふり返り（20%）を総合して評価とする。

《テキスト》
特定のテキストは指定しない。毎講義オリジナルな教材を使用する。

《参考文献》
健康スポーツの心理学、竹中晃二（編）、大修館書店

《授業時間外学習》
講義の前に指定箇所を必読しておくこと。
その要約とコメントを予習レポートして提出（任意）。

《備考》
本クラスではパフォーマンスやメンタルヘルスに関し実践的な内容を習得します。それらを、実践の場で応用できるように期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康スポーツ心理学とは	スポーツ・運動の場面に関して心理学的な意義、運動と社会、発達について概観する。
2	スポーツとこころ	スポーツと心の関わりの基礎、競技不安、スポーツ関連感情、スポーツ自己有能感
3	スポ-ツと発達	スポ-ツを行うことに伴う心理的な発達と自己の確立
4	スポ-ツにおける動機づけ	動機づけ理論、生理・心理・社会学的効果、競技を継続に必要な心理的側面
5	コーチングの心理	選手のやる気を引き出すかコーチング、意思決定及び強化随伴性
6	スポーツと感情	スポーツ・運動が及ぼす感情の変化と心の健康増進効果
7	スポーツ・運動の心理的効果	運動がもたらす心の健康増進効果、不安やうつの予防としての運動・スポーツ
8	スポーツとパーソナリティ	スポーツの競技場面に及ぼすパーソナリティの影響
9	ストレスマネジメント	競技ストレス、運動・スポーツのストレスへの効果、不安減少のメカニズム
10	スポーツと健康のカウンセリング	健康教育，カウンセリングとセラピー，依存とオーバートレーニング
11	運動とメンタルヘルス	心の発達論，中高年期における心理的変化，運動参加を妨げる要因
12	運動・スポートと中高年期の心理	中高年期の危機、発達課題とメカニズム、適応行動とその変化
13	介護予防と健康スポ-ツ	加齢による心理的変化，高齢者の運動と自己効力感、リハビリテーションの心理学
14	運動行動変容	トランスセオレティカルモデル，行動変容のステージ，リラプスへの対応
15	まとめ	スポーツ・運動が及ぼす心理的効果のまとめ

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	トレーニング科学Ⅰ				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ◎　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得をレジスタンストレーニングを中心に行います。実際にレジスタンストレーニングを行い理解を深めます。（時間配分：理論習得に約70%、実技習得に約30%）基本はテキストを中心に解説し、必要に応じてトピックス等を追加します。数回のレポート課題があります。

《授業の到達目標》
トレーニング指導において必要なレジスタンストレーニングの基礎知識の獲得を行います。健康運動実践指導者におけるレジスタンストレーニングの基本知識ならびに基本技術を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》
・数回のレポートと筆記テスト(70%)、実技テスト(30%)の結果のみで評価します。
・レポートは期日厳守です。原則遅れは受け取りません。
・無断欠席回数が5回以上の者は単位認定しません。

《テキスト》
「健康運動実践指導者用テキストー健康運動指導者の手引きー」（財）健康・体力づくり事業財団

《参考文献》
「NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識」森永製菓（株）健康事業部、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第３版」杏林書院、「筋力をデザインする」杏林書院、「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「筋力トレーニングの理論と実際」大修館書店、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》
・該当する箇所はテキストを事前に読んで理解しておくこと。
・実技に関しては、自ら時間を作って練習ならびに実践を行うことを強く希望します。

《備考》
実際にレジスタンス運動を行います。運動指導者を目指す学生が、より多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	指導者について	トレーニング指導者における必要な素養や技術等について学び理解する。
3	スポーツ障害について	スポーツ障害の発生について理解する。あわせていかに予防するかをレジスタンストレーニングの視点から考える
4	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮における基本的なレジスタンストレーニングについてその特徴や理論を理解する。
5	レジスタンストレーニングの種類	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングの種類とその特徴について理解する。
6	レジスタンストレーニングのプログラムについて	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム作成のための計画について理解する
7	レジスタンストレーニングのプログラム評価	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム評価のための指標について理解する。
8	レジスタンストレーニングのプログラムについて	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-1。下腿のトレーニング種類と特徴を理解する。
9	レジスタンストレーニングのプログラムについて	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-2。上肢のトレーニングの種類と特徴を理解する。
10	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-3。体幹のトレーニングの種類と特徴を理解する。
11	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-4。話題性の高いレジスタンストレーニングについてその効果等を知る。
12	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-5。高齢者を対象としたレジスタンストレーニングについて理解する。
13	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮における成長期におけるレジスタンストレーニングについて理解する。
14	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングと栄養に関する事項をサプリメントの活用等から理解する。
15	まとめ＆実技テスト	実技のチェック（テスト）＆総まとめを行う。

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	トレーニング科学Ⅱ				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ◎　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
筋力トレーニングにテーマにその理論と実践を学びます。基本的な運動生理学、解剖学、運動栄養学の知識を取得している者を対象とし、筋力トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得を行います。授業は、各回テキストの１章のスピードで解説を行いながら随時トピックス等を追加します。ほぼ毎回のレポート課題あり。

《授業の到達目標》
ストレングスコーチの養成を目標とします。
・レジスタンストレーニング指導において必要な基礎知識の獲得を行います。その結果、基本的なレジスタンストレーニングのメニュ
ーや指標作りならびにトレーニング評価が出来るレベルを目指します

《成績評価の方法》
レポートとテスト(100%)の結果のみで評価します。レポート提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。欠席回数が5回以上の者は単位認定をしません。
・加点主義ですので、努力した分は評価します。

《テキスト》
「筋力トレーニングの理論と実践」大修館書店　￥2,900＋税
＊必要に応じて資料も配布します

《参考文献》
「ストレングス＆コンディショニングＩ」大修館書店、「ストレングストレーニング＆コンディショニング」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「トレーニングの科学的基礎」ブックハウスHD、「入門運動生理学第３版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター

《授業時間外学習》
事前に指定された内容の箇所のテキストを読んで、「わからない点」を明確にしておくことを求めます。そのわからないところやわかりにくい点ならびに重要箇所を中心に解説します。

《備考》
ストレングスコーチを目指す人が、より多くのことを学べるよう積極的に授業を展開します。テキストの予習をした上での積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業方針や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニング理論について	トレーニング理論の基本概念の解説と理解を行う。
3	特異的な筋力について	運動課題に応じた特異的な筋力について学ぶ（筋力の決定要因に関する内容）
4	最大筋力について	スポーツ競技に応じた特異的な筋力について学ぶ（最大筋力に関する内容）
5	トレーニング強度について	筋力トレーニングの強度について学ぶ（トレーニング強度に関する内容）
6	トレーニング計画について	筋力トレーニングのタイミングについて学ぶ（トレーニング計画に関する内容）
7	トレーニングの種類について	筋力トレーニングの種類について学ぶ（方法の選択に関する内容）
8	障害予防について	障害の予防について学ぶ（筋力トレーニングと障害予防に関する内容）
9	目的に応じたトレーニングについて	目的に応じた筋力トレーニングについて学ぶ（筋力、パワー、持久力の向上に関する内容）
10	性差や健康増進について	女性のための筋力トレーニングについて学ぶ（性差や健康の維持増進に関して生理学的、解剖学的な面から理解する）
11	ジュニア期におけるトレーニングについて	ジュニアのための筋力トレーニングを中心に学ぶ（発育発達における適時性や特性に加えて健康づくりの促進に関する内容を学び理解する）
12	高齢者など加齢や健康について	シニアのための筋力トレーニングについて学ぶ（加齢、可塑性、健康の維持増進等に関する内容について学び理解する）
13	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ１（使用する筋の名称や位置に関する内容）
14	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ２（目的に応じた選択に関する内容）
15	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ３（メニューの作成および実施に関する内容）

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践Ｉ				
担当者氏名	三宅　一郎・徳田　泰伸・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ◎　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。各自がこの授業を通して体得したものが、次年度以降の授業に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》
に主として運動実践を通して体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。また、スポーツ・運動実践時の障害や事故を未然に防ぐ為に、有効な準備運動や整理運動を知る。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院)
『障害スポーツのプログラム』日本レクリエーション協会編(遊戯社)
『からだの‘仕組み’のサイエンスー運動生理学の最前線ー』

《授業時間外学習》
＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	器械運動	平均台運動における特性の理解と実践（１）
3	器械運動	平均台運動における特性の理解と実践（２）
4	球技	テニスにおける特性の理解と実践（１）
5	球技	テニスにおける特性の理解と実践（２）
6	球技	ハンドボールにおける特性の理解と実践（１）
7	球技	ハンドボールにおける特性の理解と実践（２）
8	陸上競技	やり投げにおける種目特性の理解と実践
9	陸上競技	ハードル走における種目特性の理解と実践
10	陸上競技	健康づくりの為のウォーキング・ジョギング 短・長距離走における種目特性の理解と実践
11	球技	卓球における特性・ルールの理解と実践
12	球技	ソフトボールにおける特性・ルールの理解と実践
13	ダンス	表現活動における特性の理解と実践（１）
14	ダンス	表現活動における特性の理解と実践（２）
15	まとめ	

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践Ⅱ				
担当者氏名	三宅　一郎・徳田　泰伸・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ◎　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
日常生活において実践できる多種多様な健康体力づくりの運動を、実践を通してその方法を体得して欲しい。また、各年代や体力レベルに応じた健康体力づくりの指導時における留意点などを考える。また、体力測定の実施しを通して、的確な体力レベルの把握の仕方についても考える。
さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》
学校体育対象者を含めた様々な年代の個人の体力レベルに応じた、健康体力づくりの実践方法を考える。その実践を通して、多種多様な健康体力づくり実践時の正しい実践方法や有効な準備運動・整理運動について理解し、指導者しての能力を養うことを目標とする。最終的には、実際に個人レベルでの健康体力づくりプログラムを作成し、実践指導を体験する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院)
『障害スポーツのプログラム』日本レクリエーション協会編(遊戯社)
『からだの‘仕組み’のサイエンス－運動生理学の最前線－』

《授業時間外学習》
＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》
健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	体力測定	年代に応じた、体力測定の実施方法と意義
3	障害予防（１）	障害を防ぐストレッチングと柔軟体操の実践
4	障害予防（２）	障害を防ぐウォーミングアップとクーリングダウンの実践
5	年代に応じた健康体力づくり（１）	幼児期における健康体力づくりの実践と指導法
6	年代に応じた健康体力づくり（２）	児童期における健康体力づくりの実践と指導法
7	年代に応じた健康体力づくり（３）	青少年期における健康体力づくりの実践と指導法
8	年代に応じた健康体力づくり（４）	成人期における健康体力づくりの実践と指導法
9	年代に応じた健康体力づくり（５）	中高年期における健康体力づくりの実践と指導法
10	年代に応じた健康体力づくり（６）	高齢者における健康体力づくりの実践と指導法
11	体力レベルに応じた健康体力づくり（１）	体力の比較的高いレベルの人に対する健康体力づくりの実践と指導法
12	体力レベルに応じた健康体力づくり（２）	体力の比較的低いレベルの人に対する健康体力づくりの実践と指導法
13	スポーツ実践（１）	各年代に応じたスポーツ実践とその指導法（１）
14	スポーツ実践（２）	各年代に応じたスポーツ実践とその指導法（２）
15	まとめ	

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	病理学概論				
担当者氏名	北条　香織				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

病理学とは、病気の理由もしくは理屈を理解する学問であります。この講義では　病気の原因になりうる　①病態（炎症、感染、腫瘍、免疫、血管障害、等）の病因学（etiology）を学び、②その病気の場となる臓器（呼吸器、循環器、神経系、等）の形態・機能とそのメカニズムを理解して、③それらの臓器が病気の結果、組織の構造がどのように変化していくかをみる

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》

１）　体を構成する各器官と機能を理解する。

２）　それら臓器におこる病気の種類と病態を理解する。

３）　以上を理解すると、予防医学的な考えが身につき易く、健康管　　理にも役立てて欲しい。

４）　主な疾患を網羅しているので、病院で医師から伝えられる,難解な病状説明や治療方針も理解しやすくなるでしょう。

《成績評価の方法》

定期試験４０％（試験はテキスト等の持ち込み不可）

授業時に渡す小テストを出席点とする（各５点）

６０点以上で合格とする＝１２回出席者は定期試験は免除される。

《テキスト》

新クイックマスター病理学　堤　寛　監修（医学芸術社）

《参考文献》

臨床病理・病態学、山内 豊明編（メディカ出版）

シンプル病理学　笹野公伸ほか編（南江堂）

標準病理学　町並睦生監修（医学書院）

Dr.レイの病理学講義　高橋レイ（金芳堂）

マクロ病理アトラス　西山保一著（東京文光堂）

《授業時間外学習》

授業の復習としての小テストから定期試験が実施される。

配布したプリントも保存し参考にする事。

《備考》

特に理解できない項目等にリクエストあれば授業内容に取り込む

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論）炎症	急性炎症の疾患、慢性炎症の疾患とそれらをつかさどる細胞や科学因子
2	総論）感染症 と免疫	いろんな外来生物からの感染とそれと戦う体のしくみ
3	各論）感染症	各、臓器の重要な感染症
4	総論）免疫とアレルギー：	アレルギー反応と疾患、自己に反応うして自分を侵す自己免疫疾患
5	総論）循環障害･血液異常	主に出血、梗塞、それの基礎となる動脈硬化について説明
6	各論）脈管系の疾患	動脈硬化や血栓症などによる各臓器の病気
7	各論）心臓の疾患	心臓の構造と機能とその病気
8	各論）腎臓の病気と高血圧	腎臓の構造とその病気
9	各論）内分泌ホルモンとその異常	ホルモンを分泌する臓器と作用する臓器とその異常から起こる病気
10	各論）肝臓・胆嚢・膵臓の働きと疾患	インシュリンを産生する膵臓の病気、糖尿病、肝・胆の病気からおこる黄疸　など
11	各論）消化器	栄養を吸収し、排泄する消化管の構造と機能。下痢や嘔吐から疾患へ
12	総論）腫瘍（新生物）	癌というものの成り立ちを理解し、病態を知る
13	各論）呼吸器系の構造と機能とその病気	インフルエンザや喘息、肺炎などなじみのある疾患から肺癌まで
14	各論）造血系・リンパ系	赤血球・白血球・血小板の病気
15	各論）脳・神経系の病気	（血管障害、てんかん、髄膜脳炎、認知症　等）

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健Ⅱ				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
学校保健は子どもの命と健康を守るために必要な教育活動であり、学校教育にかかわる者に必要な使命である。学校保健Ⅰの学修内容をもとに学校保健活動の実際の理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりを考えることをねらいとしている。学校保健の保健管理の領域を中心に、学校安全を含めて保健管理に必要な知識や技術を修得するとともに児童生徒の心身の健康について演習や実習を通して具体的に学ぶ

《授業の到達目標》
○学校保健の領域を構造的にとらえることができる
○児童生徒の健康・安全に対する教師の役割や責任について説明できる
○学校保健活動の根拠となっている法律や制度を説明することができる

《成績評価の方法》
レポート等（５０％）定期試験（５０％）で総合的に判断する。
授業実施回数の1／３以上の欠席は、単位を与えることができない。

《テキスト》
「学校保健ハンドブック」教員養成系大学保健協議会編　東山書房

《参考文献》
学校保健の動向（平成22年度版）

《授業時間外学習》
学校教育、学校保健に関するトピックスを提示するので、「読み取る」「調べる」などして自分の意見をまとめ次回に提出する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健活動の構造及び展開	学校保健の基本的な領域を、保健管理、保健教育構造的に捉えることができる 保健管理、保健教育、
2	児童生徒の健康課題	子どもの健康問題の推移、現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	メンタルヘルスの理解とその対応	校内組織体制、スクールカウンセラー　心のケア　サポートシステム
4	健康実態把握の方法	文部科学省学校保健統計、健康観察、保健調査、健康診断
5	児童生徒の健康診断（１）	学校行事としての健康診断、計画から事後措置、
6	児童生徒の健康診断（２）	実習、技術的基準　身体測定、視力検査、聴力検査
7	感染症・食中毒の予防と管理	学校で予防すべき感染症、出席停止、臨時休業
8	学校環境衛生活動	学校環境衛生基準、
9	学校環境生成活動の実際	日常の点検活動　定期検査　飲料水の検査　プール水の検査　残留塩素　照度検査　、
10	学校における危機管理、安全管理	学校危機管理　安全点検、危機管理マニュアル、避難訓練
11	学校管理下での事故や災害	学校事故発生状況、不審者侵入　突然死への対応　災害共済給付、
12	学校給食と食育	学校給食法、食育基本法、栄養教諭
13	学校保健計画、学校安全計画	学校保健、安全計画の目的意義　作成手順・評価
14	学校保健組織活動	学校と地域社会との連携、学校保健委員会
15	まとめ	学修内容確認、

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健Ⅲ				
担当者氏名	大平　曜子・加藤　和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ◎　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
学校では、全職員が協力して児童生徒の健康安全を推進していくことが求められている。特に保健体育教諭、養護教諭はその専門的な立場から協力して積極的な役割を担い活躍することが期待される。ここでは保健教育。安全教育の指導の場面を中心に児童生徒の健康課題の解決に向けた模擬授業等の体験、演習をとおして実践力を身につけることをねらいとしている。

《授業の到達目標》
○児童生徒の現代的な健康課題について説明することができる
○「教科保健（保健学習）」と「保健指導」の相違点を説明することができる
○工夫して保健指導の指導案作成、模擬授業等をとおして役割を担う指導力、実践力を身につけることができる

《成績評価の方法》
課題レポート・グループワーク発表（５０％）定期試験（５０％）から総合的に評価する。欠席回数が授業実施回数の１／３以上の者は
定期試験を受けることができない。

《テキスト》
「学校保健ハンドブック」教員養成系大学保健協議会編(ぎょｅせい)[8]　　(ﺳﺬ ﻋ
[8] 中学校学習指導要領解説保健体育偏（東山書房）[7]

《参考文献》
これからの中学校保健学習（財団法人日本学校保健会）
これからの小学校保健学習（財団法人日本学校保健会）

《授業時間外学習》
ワークシート、資料をこまめに整理して復習するとともに、児童生徒の健康課題に関心をもって情報を収集すること

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	社会の変化と児童生徒の健康課題、ヘルスプロモーションと保健教育
2	教育課程と保健教育	学習指導要領、保健学習と保健指導　特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事
3	歯、口の健康つくり	歯・口の健康実態、指導計画、指導体制、学校歯科医、実践事例
4	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（１）	喫煙・飲酒・薬物乱用実態、指導計画、指導体制
5	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（２）	指導実践例
6	学校における性教育、エイズ教育（１）	性の問題行動の実態、指導計画、指導体制
7	学校における性教育。エイズ教育（２）	指導実践例、ビデオ教材
8	ライフスタイルと保健指導（１）	生活習慣の実態、指導計画、指導体制
9	ライフスタイルと保健指導（２）	指導実践例
10	学習指導案の作成	学習指導案作成の意義、形式、学習指導要領との関連、教科学習との関連
11	学習指導案の作成	保健指導学習指導案作成の実際
12	保健指導模擬授業（１）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
13	保健指導模擬授業（２）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
14	保健指導模擬授業（３）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
15	まとめ	学修内容、到達目標確認

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	精神保健				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
運動、あるいは養護や保健の専門家として、幼児から高齢者まで、発達段階に応じた心の健康・心の問題について正しく理解する。次に、心の病的状態についても精神医学的観点から学習し、予防方法を考えることによって心の健康の保持、増進について理解を深める。

《テキスト》
「精神看護学Ⅰ精神保健学」 吉松和哉他編 ヌーヴェルヒロカワ

《参考文献》

《授業の到達目標》
精神保健の理論を理解しそれを実践することの重要さを説明できる。

《授業時間外学習》
次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を整理し理解しておくこと。

《成績評価の方法》
筆記試験70%、平常評価30%（レポート、受講態度など）

《備考》
現在のようなストレスフルな社会において、医療関係者や専門家といわれる人々だけでなく、すべての人が精神保健についての知識を持ち健やかな生活を営まれることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：アルコールおよび薬物依存、虐待やＤＶ，自殺の増加、ＰＴＳＤなど
2	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：離婚、モンスターペアレント、移住、宗教体験など。 精神医学的問題と社会的要因
3	現在の精神保健	精神保健とは。心の健康とは。精神力動的な考え方。
4	現在の精神保健	脳の機能とその障害。
5	現在の精神保健	ストレス。リスクマネジメント。
6	ライフサイクルと精神保健	胎生期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期。
7	ライフサイクルと精神保健	成人期、中年期、老年期
8	生活の場と精神保健	家族・家庭の精神保健。学校における精神保健。
9	生活の場と精神保健	職場における精神保健。地域精神保健活動。
10	心の健康と不健康	病むという体験。病気になることによるストレス。支える家族の心の健康。
11	心の健康と不健康	さまざまな状態における心の健康。
12	リエゾン精神医学	リエゾンとは。
13	集団力動論、地域精神保健活動	チームワークとリーダーシップ。地域精神保健活動の目標や今後の課題。
14	精神保健の歴史と倫理的問題。	精神医療の歴史や関連事件。倫理基準とインフォームドコンセント。
15	総括	精神保健の総括

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康行動論				
担当者氏名	植田誠治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
健康行動の理論モデルを分析し，実際の健康教育場面での応用を検討する。

《テキスト》
松本千明『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』医歯薬出版

《参考文献》

《授業の到達目標》
○それぞれの健康行動モデルの特徴を説明できる。○健康行動モデルの健康教育場面への応用について，思考・判断する。

《授業時間外学習》
授業中に示すテキストの指摘箇所を予習として読んでおくこと。また，宿題を課すことがあるので，指定の方法で提出すること。

《成績評価の方法》
（１）授業への参加（40%），（２）小課題への取り組み（30%），（３）最終試験（40%）（なお，最終試験は，テキスト，資料，ノート「持ち込み可」にて実施する。

《備考》
本授業は集中で行われる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康行動科学の発展	健康行動科学の健康科学における位置づけ，健康行動科学の歴史的発展
2	健康行動科学の応用可能性	健康行動科学の応用例
3	価値 - 期待モデルの理解	価値 - 期待モデルとは何か
4	価値 - 期待モデルの応用	価値 - 期待モデルの健康教育場面への応用例の検討
5	ヘルスビリーフモデルの理解	ヘルスビリーフモデルとは何か
6	ヘルスビリーフモデルの応用	ヘルスビリーフモデルの応用例の検討
7	自己効力感と健康行動	自己効力感とは何か
8	自己効力感と健康教育	自己効力感の健康教育への応用
9	変化のステージモデルの理解	変化のステージモデルとは何か
10	変化のステージモデルの応用	変化のステージモデルの健康教育への応用
11	ストレスコーピングの理解（１）	ストレスコーピングとは何か
12	ストレスコーピングの理解（２）	自分のストレスコーピングの特徴の把握
13	ヘルスローカスオブコントロールの理解	ヘルスローカスオブコントロールとは何か，ヘルスローカスオブコントロールの研究の検討
14	タイプA行動特性，自尊感情と健康行動	タイプA行動特性とは何か，心理特性と健康行動との関係
15	まとめ	授業全体で得られた知見の再確認

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学Ⅰ				
担当者氏名	細井八千代				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ◎　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》

基礎看護技術を習得し、よりよい看護ケアにつながる看護知識、技術、態度を学び、養護教諭にとっての看護実践を考えます。受講者は、健康の保持増進及び回復のために、看護は何ができるのか。病気の経過やその症状の訴えを知り、そのための看護を理解したり、治療や処置に伴う看護など、科学的根拠を持って理解するよう努めます。

《授業の到達目標》

○看護の基礎技術を理解し、説明できる。
○基本的な技術を習得し、実践できる。
○看護活動について理解し、健康障害について解説できる。
○傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、演習後のレポート（40%）。100点満点で60点以上を合格とする。
授業実施回数の３分の１以上欠席した受講者は評価対象者とは認めません。

《テキスト》

養護教諭のための看護学（三訂版）　藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編　（大修館書店）

《参考文献》

①『最新看護学』中桐・天野・岡田　編著　（東山書房）
②『実践基礎看護学』中西監修　（建帛社）
③『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）　　その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。
復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。
医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。
技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。
3コマ連続開講で11回（45分の授業となります

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	病気の経過に伴う看護	急性疾患、慢性疾患、リハビリテーション、予後
3	治療・処置に伴う看護	安静療法、食事療法、薬物療法、運動療法、放射線療法、外科的療法
4	訴えや症状に対する理解と看護	必要な情報、訴えや症状に対する看護
5	基礎看護 １．環境整備	看護技術とは、 ベッドの整備、ベッドの条件
6	２．安楽な体位 ３．移送	基本的な体位、救急時の体位 車椅子、担架、松葉杖
7	４．衣服の着脱 ５．身体の清潔	衣服の着脱方法、衣類の環境 清潔の意義、眼、耳、鼻、口腔、手指、足部、頭髪等の清潔、発汗の処置
8	６．排泄の援助 (中間のまとめ)	便秘、下痢、尿意
9	７．食生活の援助 ８．罨法	食と生活、食事介助、 罨法の目的、罨法の種類と効果、冷罨法と温罨法、罨法の実施方法
10	９．薬についての知識 10．感染予防	予約の目的、薬の種類、保健室の薬、吸入 消毒と滅菌、機器の使い方、滅菌物の扱い方
11	11．バイタル測定 12．包帯法	バイタルサインの測定 包帯の目的、包帯の種類、包帯の巻き方、解き方、三角巾の使い方、
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。
13		
14		
15		

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学Ⅱ				
担当者氏名	吉永　初喜				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ◎　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》

養護教諭にとって看護の専門的知識・技術を習得することは必須である。この講義ではなぜその症状が起こるのか、その症状が全身にどのような影響を及ぼすのかを既習の解剖生理学を想起しながら、病態のメカニズムから学習する。情報の意味（観察）を客観的にとらえ、的確な判断と確実かつ有効なケアが実施できるように具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

（1）人体の構造・機能と各症状の関連について 科学的根拠に基づいて説明できる。
（2）各症状の観察とアセスメント、援助の方法が説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験90%
レポート課題10%
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した場合には単位を与えない。

《テキスト》

『養護教諭必携シリーズ№.3最新看護学』　中桐佐智子ほか著
東山書房

《参考文献》

『臨床看護学叢書　症状別看護』　川島みどりほか著
メヂカルフレンド社

《授業時間外学習》

（1）予習：教科書の指定個所を読んでおくこと
解剖生理学の教科書、授業ノートなどを読んでおくこと
（2）復習：授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりすること

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	呼吸器系の病態と症状・徴候	呼吸困難・咳嗽・痰の原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
2	呼吸器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	呼吸困難・咳嗽・痰のフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
3	消化器系の病態と症状・徴候	腹痛・悪心・嘔吐・便秘・下痢の原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
4	消化器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	腹痛・悪心・嘔吐・便秘・下痢のフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
5	循環器系の病態と症状・徴候	不整脈・動悸・チアノーゼの原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
6	循環器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	不整脈・動悸・チアノーゼのフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
7	腎・泌尿器系の病態と症状・徴候	浮腫・排尿障害の原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
8	腎・泌尿器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	浮腫・排尿障害のフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
9	脳神経系の病態と症状・徴候	運動障害・意識障害・の原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
10	脳神経系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	運動障害・意識障害のフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
11	代謝・内分泌系の病態と症状・徴候	インスリン分泌障害・ホルモン異常の原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
12	代謝・内分泌系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	インスリン分泌障害・ホルモン異常のフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
13	血液・造血器系の病態と症状・徴候	出血・貧血・感染・発熱の原因、症状、全身に及ぼす影響等のメカニズムが説明できる。
14	血液・造血器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄと援助方法	出血・貧血・感染・発熱のフィジカルアセスメントと援助方法が説明できる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床基礎実習				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

初めての学外における臨床実習であり、看護学概論と看護学Ⅰで学んできた知識や技術を確認すると共に、観察実習を中心に臨床看護の実際を学びます。実習は夏季休業中の1週間です。

受講者は、実習を通して、生命や健康性について理解し、課題と向き合い、普遍的な看護の在り方を考え、理解するよう努めます。

《授業の到達目標》

○実習目標や内容を明確にし、その成果を報告することができる。

○対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、いっさいの欠席は原則として認めない。

実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。

《テキスト》

本学作成の『実習記録のノート』

配布プリント類

《参考図書》

『最新看護学』　中桐・天野・岡田　編著（東山書房）

『養護教諭のための看護学』　藤井・山口・佐藤編（大修館書店）

その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。

実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。

実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで、本実習がある。

看護学Ⅰを履修し、8割以上出席していること。

実習の適否は、学科内委員会が判断する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導１ オリエンテーション	臨床(臨地) 実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導２	実習の内容を確認し、各自の目標を決める。
3	事前指導３	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習　1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。
5	実習　2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
6	実習　3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
7	実習　4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
8	実習　5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
9	事後指導１	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備、
10	事後指導２	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。
11		
12		
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自な理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。
○教育効果の検証（評価）ができる。
○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（３０％）、定期試験（７０％）
授業実施回数の３分の１以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》

配布プリントを使用する。

《参考文献》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著　ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業中の課題について参考文献等に目を通して、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。
「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。 教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念、
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示、
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ、
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論				
担当者氏名	廣岡　義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育の目的達成のために学習指導要領に沿ってどのような教育内容をどのような手順で展開するかということを探究する授業である。教育課程は、広くは教育方法論において展開される領域であるが、教育内容の充実と選択の必要性から、教育課程の独立が成立した。以下のことを中心に授業は実施される。わが国の教育改革の歴史的展開と教育課程、教育課程の意義と目的について。

《授業の到達目標》
教育課程は何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態をしているのか、学習指導要領における教育課程の意義と特徴との理解等を到達目標とする。また、これらの到達目標を主体的に探究することも到達目標ということができる。

《成績評価の方法》
講義への積極的な参加(討議、プレゼンテーション、質疑応答など)50%、小試験50%　授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは、試験の受験資格を失う。

《テキスト》
広岡義之編著、『新しい教育課程論』、ミネルヴァ書房、2010年

《参考文献》
広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業時間外学習》
課題が毎回に提示されるので、予習としてその課題に取り組む必要がある。講義では、テキストの内容をしっかりと予習し、さらに現代の教育的課題と関わることが予想されるので、常日頃新聞を読んだりする必要がある。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人等のためにあるので、その人たちの妨げになる私語や遅刻はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育課程論オリエンテーション	教育課程論の授業に必要な基本的な視点、学習動機づけ、学習方法、評価などについて説明して、履修学生に履修決意をさせる。
2	教育課程の意義	教育課程の語源や歴史的発展を示し、教育課程成立時のその時代、その社会などについて考察し、教育課程の意義を考察し理解する。
3	学習指導要領と教育課程論	教育課程は、学習指導要領において展開されているので、両者の親密な関係をしっかり理解する。
4	学習指導要領の変遷とそれぞれの特徴	学習指導要領の変遷は、教育課程にどのような変化と特徴をもたせているか、整理していく過程で学習指導要領が教育課程にいかに深くかかわるか把握させる。
5	教育課程編成の教育目的・目標	教育基本法・学校教育法・学習指導論などにある教育の目的や目標を考えた得腕、教育課程編成の教育目的・目標について探究する。
6	保育・教育課程の構成	現在求められている保育課程・教育課程を明確にして、編成において何が求められるのかまた、具体的な形態としてどのようなものが考えられ実施されているか理解する。
7	小学校教育課程の構成	小学校教育課程において、どのようなカリキュラムが組まれどのような内容が教授され、何が課題かなどを具体的に探究する。
8	中学校教育課程の編成	中学校教育課程において、カリキュラムの特徴、教育内容、テキストの採択などに関して解説することを通して、何が現在の課題であるか考察する。
9	高等学校教育課程の編成	高等学校教育課程において、どのような目的でどのような内容をどのような手順で実施されているかを客観的に考え、現代の課題を考える力を身につけさせる。
10	教育課程と教育行政(教科書の作成から採択まで)	教育課程は、教育行政と深くかかわっていることを教科書採択などの具体的事例を挙げながら、教育課程の本質を探る能力を養う。
11	総合的学習の時間と教育課程論	総合的な学習の導入のいきさつと発展について、学習指導要領とのかかわりから探究する力をつける。
12	学習指導要領改訂の要点	学習指導要領の改訂に伴ってそれぞれの改訂の特徴が教育課程にどのように反映されているか理解する能力を養成する。
13	教育課程の歴史的展開と教育方法	教育課程の語源や歴史的発展を提示し、教育課程をさらに深く理解する。
14	教育課程における教育方法の諸課題	教育課程と教育方法との関わりから教育課程をより明確に位置付けることを試みる。教育学の成立から教育課程が独立するまでを明確に理解できるようにする。
15	教育課程の現代的課題	教育課程が現代の教職課程において高く評価されることを基本に、今後の教育課程の進むべき方向を探究することを履修学生が主体的に考察できるようにする。

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）				
担当者氏名	荒木　勉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	２年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
保健教育に限らず、授業計画は手順を追って作成される。ここでは、単元・授業計画を作成する全段階のうち、最初の「目標づくり」から「内容づくり」までの作業手順を取り扱う。また、これらの作業手順に沿って、中・高等学校教科書を参考に、実際に目標及び内容についての計画作成を試みる

《授業の到達目標》
健康行動の深化・応用や習慣化の促進は、適切な学習目標とそれを支える学習内容に懸っていることを理解できるようになる。また、作成中あるいは作成後の目標や内容について評価・改善するには、計画作成の手順を辿る必要があることから、各段階における作業と段階の間の関連を理解できるようになる。

《成績評価の方法》
毎授業終了時に実施する小課題への取り組みの結果（５０％）、及び最終テストの結果（５０％）によって評価する。

《テキスト》
高等学校教科書「現代保健体育（００６）」大修館書店

《参考文献》
適宜、資料を配布する。

《授業時間外学習》
毎授業で理解したことが、実際の作業として活かせるかどうかを確める。これに関する詳細については、毎授業時に指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会における保健教育の在り方（1）	生活習慣を構成する、各種生活行動や健康行動、それらに影響する環境条件について
2	現代社会における保健教育の在り方（2）	生活習慣とそれらに影響する環境条件との関連性を効果的に操作することの重要性について
3	授業計画における目標づくりと内容づくり	単元・授業計画を作成する全段階の概略、及び「目標づくり」とそれに続く「内容づくり」について
4	健康行動の実践を促す、学習目標と学習内容	各種健康行動の深化・応用や習慣化の促進を図る、学習目標と学習内容について（躾教育等の例と対比しながら）
5	単元目標づくり（1）	生活習慣を見直せる（評価・改善）ようになるには、各種生活行動や健康行動及びそれらに影響する環境条件を対象にした、学習目標の重要性について
6	単元目標づくり（2）	各種生活行動の見直しを図る、単元目標の作成手順について（教育観に基づいた生徒の実態把握・生徒観、生徒観に基づいた指導観や教材観を用いて）
7	単元目標と単元計画（1）	履修者自身が教師及び生徒と仮定して、手順に沿って単元目標を作成し、その目標の達成に必要な課題（単元計画・授業目標）設定の手順について
8	単元目標と単元計画（2）	前回作成した単元目標の達成に必要な課題の設定手順に沿った作業の実際について
9	授業目標と学習内容づくり（1）	前回作成した各授業毎の目標をクリアーするために必要な学習素材を準備する手順について
10	授業目標と学習内容づくり（2）	学習素材を準備する手順に沿った作業の実際について
11	授業目標と学習内容づくり（3）	学習素材を基に、学習内容を措呈する手順について
12	授業目標と学習内容づくり（4）	学習内容を措定する手順に沿った作業の実際について
13	目標づくりと内容づくりの実際（1）	ここまでに履修してきた手順に則って、目標づくりと内容づくりを試みる
14	目標づくりと内容づくりの実際（2）	前回に引き続いて、目標づくりと内容づくりを進める
15	目標づくりと内容づくりのふり返り	作成してきた目標と内容についての発表、作成手順に沿って評価・改善を試みる

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法Ⅰ（保健科教育教材研究）				
担当者氏名	荒木　勉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	２年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
ここでは、まず、Ⅰ期で履修した「学習目標づくり」及び「学習内容づくり」につながる「方法づくり」の段階の作業手順を取り上げる。次いで、単元・授業計画の手順に沿って、実際に学習目標、内容、方法づくりを試み、これらを「学習指導案」としてまとめる。

《授業の到達目標》
Ⅰ期で履修した、「学習目標づくり」及び「学習内容づくり」の段階に続く、「方法づくり」の段階における作業手順を理解することによって、単元・授業計画を作成できるようになる。また、作成した計画を「学習指導案」としてまとめることができるようになる。

《成績評価の方法》
毎授業終了時に実施する小課題への取り組みの結果（５０％）と、最終テストの結果（５０％）によって評価する。

《テキスト》
高等学校教科書「現代保健体育（００６）」大修館書店

《参考文献》
適宜、資料を配布する。

《授業時間外学習》
毎授業で理解したことを、実際に作業として活かせるかどうかを確かめる。これに関する詳細については、毎授業時に指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「方法づくり」（1）	教授活動を想定しながら、措定した学習内容を教える際に用いる、設備・用具・教具等（ものに関わる「場づくり」）について
2	「方法づくり」（2）	教授活動を想定しながら、措定した学習内容を教える際の学習集団編成等（人に関わる「場づくり」）について
3	「教材づくり」（1）	学習内容を効果的に伝えることが可能な教材の持つ条件について
4	「教材づくり」（2）	教授活動や学習集団の状況によって、教材の効果が変化することについて
5	「教材づくり」（3）	教材と教授活動の関連性について
6	「教材づくり」（4）	例として提示した学習内容を、効果的に伝える教材づくりの手順について
7	「教材研究」の実際（1）	「現代社会と健康」を単元と仮定し、教育観からの生徒観や生徒観に基づいた指導観と教材観を基に、単元目標及び単元計画の作成
8	「教材研究」の実際（2）	前回（1）に続いて、指導観、生徒観、教材観を基に、学習内容の措呈
9	「教材研究」の実際（3）	前回（2）に続いて、指導観、生徒観、教材観を基に、「方法づくり」としての設備・用具等に関わる使用計画の作成及び教材作成
10	「学習指導案」の作成（1）	「学習指導案」の具体例を用いて、作成手順に沿った記述項目と記述内容
11	「学習指導案」の作成（2）	「教材研究」の実際（1）～（3）で試みた、教材研究の結果を用いた、学習指導案の作成（単元目標と単元計画）
12	「学習指導案」の作成（3）	前回に続いて、学習指導案の作成（生徒観、指導観、教材観）
13	「学習指導案」の作成（4）	前回に続いて、学習指導案の作成（本時の計画）
14	「学習指導案」の作成（5）	シミュレーションの実際
15	「教材研究」のふり返り	実施してきた教材研究の結果の発表と、教材研究の手順に沿って、評価・改善を試みる

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法Ⅰ（保健体育科教育研究）				
担当者氏名	後藤　幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
本授業では、学習指導要領を深く理解するとともに保健体育授業担当者としてふさわしい、基本的な資質や能力を身につけることを目標とする。換言すれば、スポーツは楽しければそれでよいのだという「一種の思考停止・判断停止」に支配されている状態から脱却し、「身体運動文化」の奥深さに触れ、それを教育に生かせるようになることを目標とする。

《授業の到達目標》
学校体育及び保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。具体的には、教育実習に向けて指導案が書けるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》
･出席を重視します。欠席が開講時数の1/４を超えた場合は欠格対象者となる。
･授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。

《テキスト》
文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
文部科学省「高等学校習指導要領解説（保健体育編）」
教科書・実技書（高校のとき使用のもので可）

《参考文献》
高橋健夫　他編、「体育科教育学入門」大修館書店
日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業時間外学習》
・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義資料を読んでおく。

《備考》
・講義資料は適宜配布する。
・質問・連絡等があればメールでも受け付けます
（ygoto@gaia.eonet.ne.jp）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保健体育とは（払拭して欲しい5つの誤解）
2	教科の成立基盤と授業の構造	保健体育科の成立基盤と授業の構造
3	保健体育授業の目標	保健体育授業の目標とその変遷
4	学習指導要領	学習指導要領の変化と新学習指導要領について
5	運動領域	運動領域の編成と教育内容の構成について（欲求・発達・運動特性から）
6	教育内容１	教育内容の措定の方法（陸上競技の短距離走を例に、速度曲線から）
7	教育内容２	教育内容の措定の方法（リレーを例に）
8	陸上競技の学習指導	技術と歴史を統一した障害走の学習指導（石谷実践の紹介）
9	水泳の学習指導	水泳の科学的基礎の理解（浮く、呼吸、推力の創出）
10	指導技術	運動が上手にできる子を育てる学習過程を支える用件
11	学習指導	各種の学習指導法について
12	指導案の作成	学習指導案作成の留意点（レポート：指導案の作成）
13	教師行動	教師の4大教授行動、望ましい心情そだてる4条件
14	学習のまとめ	試験問題の作成を通して
15	試験問題の検討	作成した試験問題の検討

《教職に関する科目》

科目名	道徳教育論				
担当者氏名	廣岡　義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
受講生は道徳指導案の作成および模擬授業が義務づけられる。教員と受講生は、発表者に、様々な角度からコメントを加えることにより、発表者は模擬授業での自らの不足する部分を認識できる。道徳教育の理論と実践について深く理解する。実際に道徳の指導案を作成し、授業中に模擬授業を行い、教育実習においても十分対応できるようになる。道徳的な生徒との関係について配慮できるようにする。

《授業の到達目標》
教育の基礎・基本である道徳的内容の理解および実際の道徳の時間の指導法の実践力をつけることが、この授業の目標である。つまり、道徳の概念や道徳内容を学ぶことを通じて、今日の道徳教育の課題や問題について考え、実践することができるようにすることを目指す。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
１．『新しい道徳教育』 広岡義之編著　（ミネルヴァ書房）2009年

《参考文献》
授業中に紹介する。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、評価の仕方、特に模擬授業をする際の留意点について説明することができる。
2	新学習指導要領「道徳」の改訂重要事項	今回の学習指導要領では道徳が「要」となった。どこが改訂されたか詳細に説明することができる。
3	道徳教育の基本的なあり方	心の教育として、どれだけ子どもたちに自由な意見を引き出させ得るか、またその方法を説明することができる。
4	道徳教育の目標	新学習指導要領に即して、道徳教育の目標を考察する。
5	道徳教育の全体計画と年間指導計画	実際の中学でなされる、全体計画、年間指導計画の作り方、手順を説明する。
6	道徳教育の内容と内容項目	道徳の内容項目の詳細を具体例を伴いつつ理解する。
7	道徳の時間の特性と指導方法、道徳教育の評価	週1回の道徳の時間で、何をどのように展開するのかを説明することができる。
8	道徳教育の指導案の内容	指導案の内容が、その授業の善し悪しを決定するために、中心発問等、押さえるべきポイントを詳細に説明することができる。
9	家庭･地域社会・学校における道徳教育	学校だけで道徳教育はできない。家庭と地域社会の連携がどれほど重要なものかを理解する。
10	子どもの心を開く資料を使用しての授業展開例１	実際に一人15分を使用して、道徳の模擬授業をしてもらう。その後、生徒役の学生は様々な意見、改善点等を指摘し合う。
11	子どもの心を開く資料を使用しての授業展開例２	学生は道徳の模擬授業を通じて、声の大きさ、発問等の工夫を迫られ、そこから実践力が付くようにする。
12	子どもの心を開く資料を使用しての授業展開例３	読み物資料の中身が、良い道徳の時間となるかどうかの分かれ道となる。良質の資料を見つける努力ができるようになる。
13	子どもの心を開く資料を使用しての授業展開例４	自分では気づいていない、授業の進め方も、生徒役の学生からの指摘で、悪い癖や声の調子等の指摘を受けて、改善することができる。
14	子どもの心を開く資料を使用しての授業展開例５	子どもから多様な意見がでるためには予想される生徒の答えをあらかじめ、考えておかなければならない。それらが十分に反映されている指導案の作成が求められる。
15	総括	道徳の理論と実践の両方が大切であることを再確認することができる。

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
新学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する、また実践における実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得をすることを目的とする。そのために、①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて、などを中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》
特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解できるようにすることを狙いとする。

《成績評価の方法》
到達目標に関わる定期試験(70%)、授業態度(10%)、課題(20%)により評価する。課題は、現在問題になっている出来事を探究する。

《テキスト》
広岡義之編著　『新しい特別活動論』　創言社　2009年

《参考文献》
文部科学省　『学習指導要領　小学校　中学校　高等学校』　2012年

《授業時間外学習》
受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートと整理に十分に時間をかけること。理解が十分できなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》
積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
3	特別活動の歴史	特に戦前の学校教育で実施されていた学校行事などを紹介して、現代の特別活動の意義を明確にする。
4	特別活動と学習指導要領の変遷	戦後特別活動が誕生したいきさつと発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。
5	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説し分析し理解することができるように指導する。
6	特別活動の内容全体に関わる解析	特別活動の内容を全体的な視点から眺め、個々の内容理解のための準備をする。全体の内容の特徴を明確にする。
7	特別活動の内容とその特徴	特別活動における学級活動の位置づけに始まり、学級活動の内容を説明し、その特徴を明確にする。
8	特別活動の内容(ホームルーム活動）とその特徴	特別活動におけるホームルームの位置づけ、ホームルームの内容を解明し、その特徴を理解する。
9	児童会活動と学習指導要領	児童会活動がどのように理解され、その内容をどのように解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことが求められているか明らかにする。
10	生徒会活動と学習指導要領	学習指導要領における生徒会活動の評価、生徒会活動の内容把握と特徴の明確化を試みることによって、生徒会活動の教育課程における評価を考察する。
11	学校行事(儀式的行事）について	儀式的行事の説明と、意義を学習指導要領の説明から抽出し、適切な理解を推進する。その行事に関わる危機管理に関しても明確にする。
12	文化的行事について	教科指導との関わりを明確にし、文化的行事の内容と特徴の把握に力を注ぐ。教科指導と特別活動との関連を理解する。
13	健康安全・体育的行事と旅行・集団宿泊的行事	健康安全・体育的行事と集団宿泊的行事との内容と特徴を理解し、その特徴を把握する、その上で、これらの行事の課題につて考える。
14	勤労生産・奉仕的行事と特活の指導計画について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を明確にし、ゆとり教育の行事との違いを明確にしてみる。特別指導計画に関してその種類とそれらの特徴、留意点などを論じる。
15	特別活動の指導計画と評価について	特別活動の指導計画をさらに理解度を高め、最終段階の評価について考察してみる。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。
授業設計のシステム的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》
○教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
○授業設計のシステム的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
○独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にもシステム的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》
○自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
○小テストの結果（30%：3回実施予定）
○ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えない。

《テキスト》
鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル ― 独学を支援するために』北大路書房.

《参考文献》
稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル ― 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房.
中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》
予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》
パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	システム的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニェの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習のふり返り

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

『生徒指導の手引』書、『生徒指導提要』と生徒指導に関するテキスト『新しい生徒指導・進路指導』における理論に基づいて、事例研究を分析し、生徒指導の課題を認識し、課題の解決のための探究を展開する。進路指導に関して、必要な資質を持った教員養成が、現在社会に求められていることを十分に意識して、キャリア教育との関わりを明確にしていく。成長と発達との関係から生徒指導について考察する。

《授業の到達目標》

生徒指導を、生徒指導の原理、生徒指導の方法論、学校教育における位置づけなどの理解をする。生徒指導が学校教育にどのような影響を与えることができるか解明する。進路指導の意味と方法論、進路指導に必要な資質を身につける。生徒指導がどのような過程で重視されることになったか、理解できるような能力を身につける。実際に、生徒を指導できる基本的な能力を身につける。

《成績評価の方法》

講義には積極に参加(20%)し、課題が出てきたときに必ず探究してレポート提出ないし発表をするよう(20%)に心がけてほしい。定期試験(30%)は必ず受けること、また60%以上の成績を取ることが求められる。グループディスカッションには、積極的な参加が求められる。

《テキスト》

加澤恒雄・広岡義之編著　『新しい生徒指導・進路指導』
ミネルヴァ書房　2007年

《参考文献》

文部科学省著　『生徒指導提要』　文部科学省　2011年

《授業時間外学習》

生徒指導に関わる事例研究に関する著書を収集し、または大学図書館で見つけ、重要と思われる本を読書することが必要である。また、事例研究の機会があればそれらに触れることは言うまでもなく、新聞をはじめマスコミが報道する記事は必ず目を通して、他の履修学生や教職を取っている先輩と生徒指導について話し合うことが必要である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導に関するオリエンテーション	生徒指導の授業について説明、生徒指導の重要性を解明して教育課程における生徒指導の重要性について考える。
2	生徒指導の原理と目的について	生徒指導の領域の説明と生徒指導の原理と目的について解明する。
3	生徒指導の内容Ⅰ(内容を主として説明)	生徒指導において何をどのような手順で展開するか考える。
4	生徒指導の内容Ⅱ(内容の関わりを解明する)	生徒指導の内容それぞれがどのように関わっているか、有効な関わり方はどうあるべきか考察する。
5	生徒指導の方法	生徒指導の内容にふさわしい方法を考察し、方法をより有効に展開することを考えてみる。
6	生徒指導と新学習指導	生徒指導が新学習指導要領において活用されているか考える。
7	生徒指導と進路指導	生徒指導の中で進路指導がどのように位置づけられているか解釈することを試みる。
8	これからの進路指導	現在求められている生徒指導の現実とこれからの進路指導に求められるであろう者を考えてみる。
9	進路指導とガイダンス	進路指導におけるガイダンスの意義と機能について解明する。
10	青年期と生徒指導	青年期の心理とその発達と生徒指導の意義について考える。
11	青年期の心理的発達論と生徒指導	青年期の心理的発達論を歴史的観点から解明し、それらの理論が生徒指導にどのように生かされているか探究する。
12	生徒理解のさまざまな方法と技術	生徒理解にとって必要な方法と技術について、出来る限り新しいものを紹介する。
13	生徒指導と教育課程	教育課程と生徒指導の関係について明確にし、理解する。
14	進路相談	学校におけるカウンセリングと進路指導について明確にし、教育相談の意義をカウンセリングとの違いを明確にして生徒指導に生かすことを考える。
15	生徒指導の課題とキャリア教育	生徒指導の課題を取り上げ、キャリア教育を展開する際にどのように関わるか考える。

平成 22（2010）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	演習	2						2									
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2								
		健康科学序論	講義	2							2								
		健康科学	講義	2		◇						2							
		情報科学	講義		2						2								
		基礎生物学	講義		2						2								
		解剖学	講義		2	◇	○		□	2									
		生理学	講義		2		○	△	□		2								
		微生物学	講義		2		○		□				2						
		生化学（分子生物学を含む）	講義		2							2							
		分子生物学演習	演習		2								2						
		栄養学	講義		2		○		□		2								
		食品学	講義		2		○			2									
		栄養指導論	演習		2								2						
		衛生学	講義		2		○	△	□		2								
		公衆衛生学	講義		2			△	□				2						
		医学概論	講義		2		○							2				［南川 博康］	179
		心理学研究法	講義		2							2							
		心理測定法	演習		2									2				（北島 律之）	180
		心理学基礎実験	実験		2										4			（北島 律之）	181
		心理学応用実験	実験		2											4			
		認知心理学	講義		2							2							
		健康心理学	講義		2	◇						2							
		臨床健康心理学演習	演習		2								2						
		生涯発達心理学	講義		2									2				森田 義宏	182
		臨床心理学	講義		2									2				（琴浦 志津）	183
		教育心理学	講義		2		○	△	□				2						
		発達心理学	講義		2			▲	■			2							
		ストレス科学論	講義		2									2				［古賀 愛人］	184
		人間関係論	講義		2										2			森田 義宏	185
		外書購読Ⅰ	講義		2									2				平本 幸治	186
		外書購読Ⅱ	講義		2										2			平本 幸治	187
		教育特論Ⅰ	講義		2									2				河野 稔	188
		教育特論Ⅱ	講義		2										2			平本 幸治	189
		教育特論Ⅲ	講義		2											2			
		地域活動演習Ⅰ	演習		2										2			徳田 泰伸・河野 稔	190
		地域活動演習Ⅱ	演習		2											2			

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 「スポーツ実践Ⅰ」、「スポーツ実践Ⅱ」、「健康・体力づくり実践Ⅰ」、「健康・体力づくり実践Ⅱ」、「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

※ 「レクリエーション（野外活動を含む）」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

※ 健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年Ⅰ期に、「運動の基礎」の中で「発育･発達と老化」を履修する。

※ 認定心理士養成科目として、表中の科目以外に3年Ⅱ期に「行動分析論」と「社会心理学」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	I群（運動・体育に関連する科目）	体育原理	講義		2			△		2									
		運動の基礎	講義		2	◇		△			2								
		運動生理学	講義		2	◇		△	□			2							
		運動生理学演習	演習		2								2						
		運動栄養学	講義		2	◇		△				2							
		子ども運動学	講義		2			△			2								
		子ども運動学演習	演習		2			▲				2							
		スポーツ医学概論	講義		2								2						
		スポーツ心理学	講義		2			▲					2						
		障害者スポーツ論	講義		2											2			
		スポーツ史	講義		2										2			徳田 泰伸	191
		スポーツ科学Ⅰ	演習		2									2				矢野 琢也	192
		スポーツ科学Ⅱ	演習		2										2			矢野 琢也	193
		トレーニング科学Ⅰ	演習		2	◇						2							
		トレーニング科学Ⅱ	演習		2								2						
		体力測定と評価	講義		2	◇		▲		2									
		スポーツ実践Ⅰ	演習		3			△		3									
		スポーツ実践Ⅱ	演習		3			△			3								
		健康・体力づくり実践Ⅰ	演習		3			△				3							
		健康・体力づくり実践Ⅱ	演習		3	◇		▲					3						
		スポーツ指導法Ⅰ	演習		2			△						2				三宅 一郎・樽本 つぐみ	194
		スポーツ指導法Ⅱ	演習		2			△							2			三宅 一郎・樽本 つぐみ	195
		健康・体力づくり指導法Ⅰ	演習		2	◇								2				木下 幸文	196
		健康・体力づくり指導法Ⅱ	演習		2	◇									2			木下 幸文	197
		運動処方論	講義		2									2				矢野 琢也	198
		運動処方演習	演習		2										2			樽本 つぐみ	199
		レクリエーション（野外活動を含む）	実習		2			△						4				樽本 つぐみ	200
	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	病理学概論	講義		2							2							
		薬理学	講義		2		○							2				［溝邊 雅一］	201
		養護概説Ⅰ	講義		2		○			2									
		養護概説Ⅱ	講義		2		●				2								
		学校保健Ⅰ（小児保健・学校安全を含む）	講義		2		●	△	□		2								
		学校保健Ⅱ	講義		2		○	△	□			2							
		学校保健Ⅲ	講義		2		○	△	□				2						
		精神保健	講義		2		○	△	□			2							
		健康行動論	講義		2			△	□			2							
		健康統計学	講義		2			●	■					2				河野 稔	202
		健康相談活動の理論と実践	講義		2		○								2			大平 曜子	203
		看護学概論	講義		2		○				2								
		看護学Ⅰ	演習		3		○					3							
		看護学Ⅱ	講義		2		○						2						
		看護学Ⅲ	演習		3		○							3				（若井 和子）（齋藤 智江）［井上 満代］	204
		看護学Ⅳ	演習		2		○								2			大平 曜子・加藤 和代	205
		臨床基礎実習	実習		1		○					2							
		臨床看護実習	実習		2		○								4			大平 曜子・加藤 和代	206
		救急看護（救急処置を含む）	演習		3		○	△	□					3				大平 曜子・加藤 和代	207
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3												3			
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3		

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成24年度の担当者	ページ
教職に関する科目	教職概論	講義		2		○	△	□	2									
	教育原理	講義		2		○	△	□	2									
	教育史	講義		2		●	▲	■						2			（岡本 洋之）	208
	教育制度論	講義		2		○	△	□		2								
	教育課程論	講義		2		○	△	□				2						
	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）	講義		2			△	□			2							
	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）	講義		2			△	□					2				［植田 誠治］	209
	保健科教育法Ⅰ（保健科教育教材研究）	講義		2				□				2						
	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）	講義		2				□						2			［植田 誠治］	210
	保健体育科教育法Ⅰ（保健体育科教育研究）	講義		2			△					2						
	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）	講義		2			△							2			［後藤 幸弘］	211
	道徳教育論	講義		2		○	△	□			2							
	特別活動論	講義		2		○	△	□				2						
	教育方法・技術論	講義		2		○	△	□				2						
	教育方法論	講義		2		●								2			（岡本 洋之）	212
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2		○	△	□			2							
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2		○	△	□		2								
	教育実践演習（中・高）	演習		2			△	□								2		
	教育実践演習（養護）	演習		2		○										2		
	中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5			△	□						5			三宅 一郎・大平 曜子・木下 幸文	213
	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3										3			三宅 一郎・大平 曜子・木下 幸文	214
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5		○								5			大平 曜子・加藤 和代	215

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	医学概論				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
医学は臨床医学、基礎医学、社会医学に大別され、本講義では社会医学の中の予防医学、公衆衛生学について学んでゆく。疾病予防における保健統計の意義について理解し、その実践的活用を学習する。癌、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の予防・健康教育の考え方を習得する。さらに、食中毒の予防、健康教育について学ぶ。

《授業の到達目標》
感染症、生活習慣病、職業病、環境汚染病といった各種の疾患について学習し、各疾患と社会との関係について理解を深める。

《成績評価の方法》
筆記試験 ７０％ 平常評価 ３０％ （レポート、受講態度など）

《テキスト》
２１世紀の予防医学・公衆衛生 町田 一彦 岩井 秀明 （杏林書院）2008

《参考文献》
実践予防医学 高島 豊 （診断と治療社）2003

《授業時間外学習》
次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《備考》
予防医学は健康をマネージメントする意味において、医療、保健、福祉に従事する人に限らずすべての人に必要な知識である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生と予防医学について	１）人の健康と科学 ２）予防レベルと保健、医療、福祉分野 ３）病気の予防と健康増進のために
2	疾病の蔓延とその克服の歴史	１）人と病気の克服 ２）20世紀の医療と公衆衛生の発達 3)日本の予防医学の発展
3	健康科学の研究法	１）疫学の定義と特殊性 ２）疫学方法論 ３）健康科学と統計手技 4)新しい疫学研究の流れ
4	人口統計と衛生統計	１）健康指標 2)人口静態統計 ３）人口動態統計 4)生命表 ５）疾病統計と疾病分類
5	環境と健康	１）生活環境と健康 ２）気象と健康 3)公害と公害防止対策 ４）地球環境と私たちの生活・健康 ５）環境影響評価
6	私たちの健康を守るために	１）各臓器の特徴と疾病 ２）健康管理 ３）ストレスと精神衛生 ４）医原性疾患・難病
7	感染症と生体防御	１）病原微生物と感染症 ２）病原微生物の侵入と生体反応 ３）感染拡大の防止
8	感染症と生体防御	１）有用な微生物と食品衛生 ２）日本における感染症 3)世界の感染症
9	生活習慣病の予防と健康増進	1)栄養とは ２）嗜好品 ３）運動とスポーツの効用 ４）メタボリックシンドロームと特定保健指導 ５）ヘルスプロモーション
10	ライフサイクルと人生	１）出産と健やかな成長 ２）新生児・乳児期および幼児期 ３）学童期・思春期 ４）青年期
11	ライフサイクルと人生	５）中・熟年期 ６）高齢期 ７）介護保険制度化における高齢者介護 ８）少子高齢化社会の高齢者
12	職業と健康	１）産業保健 ２）主な職業性疾患の成因とその対策
13	職業と健康	１）現在の産業保健の問題点と健康増進活動 ２）労働法規
14	社会と健康	1)社会保障の変遷 ２）医療保険と介護保険 ３）21世紀の健康政策 ４）衛生行政と法律
15	総括	医学概論の総括

科目名	心理測定法				
担当者氏名	北島　律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力）				

《授業の概要》

心理学は科学的な性質を強くもっており，新たな知見を見出すためには，仮説を構築し実際に検証することが重要です．そのためには体系的なデータの取得方法や解析方法を心得ていなければなりません．本科目では，科学的に「ものをいう」ための基本的な作法について勉強します．テキストに従い，「研究に対する考え方の基礎」「実験法」「測定法」「分析法」などについて順序だてて説明します．

《授業の到達目標》

○心理学の研究について，どのような方法論があるか類別できる．
○研究における手順や留意点を説明することができる．
○結果の解析に基本的な統計手法を用いることができる．

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%　　レポート・小テストなど10%　　受講態度10%

《テキスト》

『心理学の研究法　実験法･測定法･統計法　［改訂版］』　　加藤司　　北樹出版

《参考文献》

『心理測定法への招待』　　市川伸一編著　　サイエンス社
『はじめての心理統計法』　鵜沼秀行・長谷川桐　　東京図書

《授業時間外学習》

・予習の方法
　下の授業計画はテキストに準拠しています．該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください．必ずしも内容が理解できておく必要はありません．
・復習の方法
　授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください．

《備考》

・本科目は，「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておくことが必要です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学における研究の基礎①	科学的な心理学の成立までを概観
2	心理学における研究の基礎②	基本用語や心理学を支える幾つかの考え方
3	実験法①	独立変数や従属変数を考慮した実験計画
4	実験法②	実験結果を歪める剰余変数
5	さまざまな研究法	実験法以外の研究法：観察法，質問紙法
6	心理学的測定法①	刺激と心の関係を数量的にとらえる精神物理学
7	心理学的測定法②	被験者の意見や態度などを調べる評定法，性格などを調べる検査法
8	データ分析の基礎①	測定尺度，記述統計の基礎
9	データ分析の基礎②	推測統計の基礎
10	変数間の差の検定①	ｔ検定　説明と練習
11	変数間の差の検定②	分散分析　説明と練習
12	変数間の関係	相関
13	ソフトウェアによる実習Ⅰ	分散分析，相関係数の算出など，コンピュータによる実習
14	ソフトウェアによる実習Ⅱ	分散分析，相関係数の算出など，コンピュータによる実習
15	まとめ	これまでの授業の振り返り

科目名	心理学基礎実験				
担当者氏名	北島　律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
心理学の代表的な研究方法である実験法を，心理学の各領域における基礎的な実験を実際に行うことによって体験的に学びます．また，「実験目的」「実験方法」「実験結果」「考察」をレポートにまとめ，さらにそれを発表することで，心理学の科学的な考え方を体系的に身につけます．本科目での学びは，様々な領域や場面において，実際にデータを取得したり報告書を作成したりすることに役立ちます．

《授業の到達目標》
○心理学の代表的な研究方法である実験法の特徴について，どのようなものか説明することができる．
○心理学の各領域における基礎的な実験について実際に行うことができる．
○実験結果を適切なやり方でまとめることができる．
○結果から自分の考えを述べることができる．

《成績評価の方法》
レポート80%　　受講態度10%　　発表10%

《テキスト》
『心理学実験法・レポートの書き方」　西口利文・松浦均(編)　ナカニシヤ出版

《参考文献》
『心理学の研究法　実験法･測定法･統計法　［改訂版］』　加藤司　　北樹出版　〈授業「心理測定法」のテキスト〉

《授業時間外学習》
授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください．レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください．送信先のメールアドレスは授業中に示します．レポートは添削し，次回の授業の前半で講評を行います．

《備考》
・本科目を受講するためには，前もって「心理学」「認知心理学」「心理測定法」を修得しておくことが必要です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	実験に関する基本事項の説明，心理測定法の復習
2	実験１　　知覚心理学 ミューラー・リヤー錯視	実験の説明，実験
3	実験１　　知覚心理学 ミューラー・リヤー錯視	実験のつづき，基本的なレポートの書き方説明，レポートの作成
4	実験２　　感覚心理学 触二点閾１	レポートの講評，実験の説明，実験
5	実験２　　感覚心理学 触二点閾２	実験のつづき，レポートの作成
6	実験レポートの書き方	レポートの講評，より本格的なレポートの書き方の説明
7	実験３　　認知心理学 自由再生１	実験の説明，コンピュータを用いた実験の準備
8	実験３　　認知心理学 自由再生２	実験，レポートの作成
9	実験４　　学習心理学 両側性転移１	レポートの講評，学習・知覚運動協応などの概念の説明，反転メガネによる知覚運動協応の体験
10	実験４　　学習心理学 両側性転移２	実験の説明，実験
11	実験４　　学習心理学 両側性転移３	実験のつづき，レポートの作成
12	実験５　　社会心理学 パーソナルスペース１	レポートの講評，実験の説明，実験
13	実験５　　社会心理学 パーソナルスペース２	実験のつづき，レポートの作成
14	実験のプレゼンテーション	発表準備
15	実験のプレゼンテーション	発表

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田　義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ◎　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要さについて学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中随時紹介する

《授業の到達目標》
＊発達・生涯発達とはなにか、について説明できる　＊発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説　明できる
＊発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》
授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》
試験１００％

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 生涯発達心理学とは	オリエンテーション　発達の概念　発達の原理　発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境　野生児の記録　家系研究　双生児研究　親の養育態度
3	乳児期の心理１	乳児期の認知　感覚運動的知能　脱馴化　愛着　基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理１	幼児の認知　前概念思考期　直観的思考期　象徴機能　3項関係　心の理論　ことばの獲得
5	幼児期の心理２	社会性の発達　遊びの発達　自律性／恥・疑惑　主導性／罪悪感
6	児童期の心理１	児童期の認知発達　具体操作期　クラスの概念　脱中心化　勤勉性／劣等感
7	児童期の心理２	ギャング集団　道徳性の発達　向社会的行動の発達　学校ストレス　心身症
8	青年期の心理１	過渡期　文化相対論　自我の覚醒　自主自律の要求　異議申し立て　精神的離乳
9	青年期の心理２	第2反抗期　脱衛星化　感情の論理　理想主義　自己主張・自己顕示
10	青年期の心理３ 成人期の心理１	自我同一性の確立　再衛星化　職業への準備　恋愛と結婚　青年から成人へ　仕事と家庭
11	成人期の心理２	一家を構える　親意識　仕事における自己拡大　仕事と家庭　親密性/孤立　愛
12	中年期の心理１	個性化　第2の人生　生活の再構造化　体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理２	生殖性／停滞　世話　更年期　自殺　夫婦の危機　子どもの成長と独立
14	老年期の心理１	加齢と老化　統合性／絶望　英知　高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理２ まとめ	引退の危機　健康の危機　死の危機　サクセスフルエイジング

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	琴浦　志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ◎　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
臨床心理学はこころを理解しようとする心理学である。開拓者フロイトは大人の患者との精神分析的治療の中で人のこころの発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者はより年少の乳幼児と母親との関係性に焦点をあて内的世界の理解をしようと研究を進めた。この授業ではこれらのこころの研究の歴史を辿り、人と人とが関わることで育まれる関係性の理解と自分自身と他者のこころの理解をめざす。

《授業の到達目標》
１．ひとのこころの不安の源泉はどこにあるかを知る。
２．対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親の関係性という視点からみる対象関係論と具体的な子ども像を結びつけてイメージし、より適切な関わりを実践できるように学ぶこと。

《成績評価の方法》
筆記テスト50%　　レポート・確認テスト等20%　　受講態度30%

《テキスト》
保育・教育に生きる臨床心理学　松島恭子監修・篠田美紀編著　光生館　税別2200円
その他必要な資料は適宜配布する

《参考文献》
スクールカウンセラーがすすめる112冊の本　滝口俊子・田中慶江編　　創元社

《授業時間外学習》
授業初回に上記参考図書にある112冊の文献一覧を配布する。できるでけ多くの本を読んで、こころの世界の理解をさらに深めてほしい。そのうち1冊について感想文を手書きで原稿用紙又はレポート用紙に5枚書き授業最終日までに提出すること。

《備考》
テキスト以外にも必要な資料を多く配布するので、Ａ４ファイルを用意して毎回ファイルして下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学とは何か
2	フロイトの発見	無意識をめぐって
3	フロイトの精神分析①	防衛機制等の用語の理解
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いての学習
5	精神分析学からみた乳幼児期①	赤ちゃんの不安の源泉
6	精神分析学からみた乳幼児期②	母子発達理論
7	精神分析学からみた乳幼児期③	分離・個体化過程
8	ウィニコットの対象関係理論①	ホールディング（抱っこ）について
9	ウィニコットの対象関係理論②	描画療法（スクウィグル）
10	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法について
11	ユングの臨床心理学	ユング自身の人生とその心理学
12	箱庭療法	箱庭療法の実際
13	行動療法	行動を客観的にみて治療する行動療法について
14	認知行動療法	考え方・思考のクセに気づき、治療する認知行動療法について
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認

科目名	ストレス科学論				
担当者氏名	古賀愛人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》

ストレスに関する基礎知識としての、ストレス状況、ストレスの生体反応とその対処法を学ぶことにより、現代社会におけるストレスへの対処法を身につけ、精神的健康の増進に役立つ方法の獲得を目ざす。

このため、ストレス概念に関する研究の流れを概観し、ストレスとホメオスタシス、ストレスが及ぼす生理機能への影響、ストレスの測定と評価、ストレス対処法等を講義する。

《授業の到達目標》

① ストレスとは何かを説明できる。
② ストレスと生理的反応を説明できる。
③ ストレスと生体反応を説明できる。
④ ストレス対処法を学び､ストレスへの対処が出来る。

《成績評価の方法》

授業における討論への参加度（20%）、及び筆記試験（80%）による総合評価

《テキスト》

『ストレスと健康』久住眞理（監著）、紀伊国屋書店､2008

《参考文献》

『新・脳の探検 上下』中村克樹他（監訳）、講談社、2004
『ストレス・マネジメント入門』中野敬子、金剛出版

《授業時間外学習》

ストレスの生体反応に関しては､近年、大脳生理学的研究の進歩がめざましい。このため、ストレスの生理・生体反応を正しく理解するためには､大脳生理学の基礎知識が必要であり、この面の授業時間外学習が望まれる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会とストレス	現代社会はストレス社会と言われるが、ストレスとは何か、ストレッサー、ストレス反応について理解する。
2	ストレスの概念と研究の流れ（1）	キャノン、セリエに始まるストレス研究の流れを概観し､ストレスとホメオスタシスについて理解する。
3	ストレスの概念と研究の流れ（2）	セリエの全身適応症候群、視床下部ー下垂体前葉ー副腎皮質系反応について理解する。
4	ストレスの概念と研究の流れ（3）	キャノンの緊急反応と交感神経ー副腎髄質系反応を理解する。
5	ストレスの生理学的基礎	ストレスの脳内処理機構、体制神経系、自律神経系、内分泌系、免疫系の生体反応を理解する。
6	ストレスと体温ホメオスタシス	体温調節の仕組み、体温調節反応、それに及ぼすストレスの影響について理解する。
7	ストレスと血糖値ホメオスタシス	血糖調節の仕組みとストレスの影響を理解する。
8	ストレスと血圧ホメオスタシス	血圧と血液量調節の仕組みとストレスの影響について理解する。
9	ストレスと呼吸ホメオスタシス	呼吸調節の仕組み、酸塩基平衡の仕組みとストレスの影響について理解する。
10	ストレスの各種生理機能に及ぼす影響	胃、免疫系、成長に及ぼすストレスの影響を理解する。
11	ストレスの脳機能への影響（1）	鬱状態の脳内機能とストレスの影響について理解する。
12	ストレスの脳機能への影響（2）	不眠、痛み、脳の発達とストレスの影響を理解する。
13	ストレスとメンタルヘルス（1）	ストレス認知、心理学的ストレスモデル、ストレス対処について理解する。
14	ストレスとメンタルヘルス（2）	睡眠とストレス、ストレス耐性、性格特性、ストレス性健康障害について理解する。
15	まとめ	ストレスに対する生理生体反応についての全体をまとめ、健康への発展を理解する。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	人間関係論				
担当者氏名	森田　義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ◎　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《授業の到達目標》
＊人間関係に関する専門用語について説明できる。＊自分を取り巻く人間関係について把握できる。＊自分の対人関係の在り方を理解できる。＊人間関係に起因する問題に向きあい、対処できうスキルを身につける。

《成績評価の方法》
試験１００％

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中随時紹介する

《授業時間外学習》
身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト　ヤマアラシのジレンマ　個室化・個人化　私事化
2	人間関係論の始まり	科学的管理　ホーソン研究　照明実験　能率の論理・心情の論理
3	集団とリーダーシップ１	集団の分類　集団の機能　集団決定　向社会性　リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ２	オハイオ研究　リーダーシップ行動論　状況理論　成熟理論
5	対人関係と自己理解１	ジョーハリーの窓　自己概念　自己概念の形成　公的自己意識　私的自己意識
6	対人関係と自己理解２	自己評価と他者評価　客観的自己理解　パーソナリティ　価値観　パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解３	印象形成　対人魅力　ソシオメトリー　愛他的行動
8	対人関係の類型	共感性　恋愛類型　対人類型　内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション１	コミュニケーションプロセス　文脈　ノイズ　ことばの意味論　外延　内包
10	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル１	アドバイス　ガイダンス　カウンセリング　セラピー　ロジャースの人間観　自己概念・現実　カウンセラーの条件
11	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル２	カウンセリングの過程　ラポート　受容　積極的傾聴　共感的理解　沈黙　感情の反射　問題への気づき　洞察
12	対人関係の分析１	交流分析　自我機能　自我防衛機制　構造分析　３つの心　エゴグラム
13	対人関係の分析２	交流分析　交流パターン　平行的（相補）交流　交叉的交流　仮面的交流　ゲーム分析
14	対人関係の分析３	交流分析　ストローク　ストローク論　脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル１	lazalus & Folkmanモデル　対人ストレスイベント　ストレスコーピング　バーンアウト　アサーション　ソーシャルスキル

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	外書講読I				
担当者氏名	平本　幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　　（専門的知識）				

《授業の概要》
最新の健康科学に関する英語論説文を講読し解説します。英語論説文から情報を収集し、知識として活用する練習をおこないます。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
将来の研究や職場で遭遇する英語による健康科学に関する情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけ、特に健康科学の英語の用語に習熟することを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
『Global Health & Environment』安浪誠祐他（松柏社）

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Is Salt That Bad For You?	塩分と健康の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	The Goal is Development	開発途上国の現状に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Sleep: a Genetic Link?	睡眠時間と遺伝子の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	Saving the World's Most Holy River	聖ヨルダン川を汚染から救うことに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	The Healthiest Countries in the World?	死亡率の低い国はどこかに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	How Can We Reduce Agricultural Emissions?	農業における温室効果ガスの排出に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Lonliness and Social Networks	孤独感と社会ネットワークに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Crop Insurance for Small Farmers	小規模農家向け作物保険に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Understanding Language and Brain	言語処理の最新研究結果に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Too Many People, Not Enough Water	水不足を解消する新技術に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	How to Live Healthier	喫煙と肥満の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	Gelotophobia Is No Laughing Matter	ゲロトフォビアに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Genetic Engineering and Environment	遺伝子組み換え作物と環境に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Protecting Children Against Pneumonia	肺炎から子供を守る方法に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	外書講読II				
担当者氏名	平本　幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　　（知識・理解） ○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　　（専門的知識）				

《授業の概要》
「外書講読I」よりも、より高度な最新の多様な国々の健康科学に関する英語論説文を講読し解説します。英語論説文から情報を収集し、知識として活用する練習をおこないます。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
将来の研究や職場で遭遇する英語による健康科学に関する情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけ、特に健康科学の英語の用語に習熟することを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
『The Picture of Health』小笠原真司他（南雲堂）

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Huge Ocean Tuna Farm	世界的な寿司人気でマグロ激減、ハワイ沖で進む養殖計画（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	Low-Fat Diet	人気のオポッサム、治療のためにダイエット（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Dutch Ban on Eel Fishing	激減したウナギの保護へ魚規制始まる（オランダ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	’Fat’ Nightclub	肥満者のための開かれたナイトクラブ誕生（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	World’s Next Healthy Superfood	アンデス山脈の穀物「キヌア」、健康食として人気上昇中（ボリビア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Commuting through Berlin by Bike	温暖化対策とエクササイズを兼ねて自転車通勤がブーム（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Bottled Water	ボトル詰め飲料水の販売を禁止した町（オーストラリア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Swine Flue Shots	サンタに新型インフルエンザワクチンを（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Asian Obesity	アジアで肥満増加、健康食品の拡販狙う食品業界（台湾）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Threat of Swine Flue	新型インフルエンザの影響でメッカ巡礼者が激減（サウジアラビア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	Key to Battling Diabetes	がんも糖尿病も発病しない人々、治療法の鍵にぎる可能性も（エクアドル）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	Deng Fever	デング熱の撲滅目指し、「遺伝子組み換え蚊」の野外放出実験、事前通告なしで非難も（マレーシア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Save Cancer-Devastated Tasmanian Devils	「謎のがん」で絶滅危機のタスマニアデビル、ゲノム解析で治療に光明（オーストラリア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Chess Boxing	知力と体力をラウンドごとに競う究極のスポーツ、チェスボクシング（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	教育特論Ⅰ				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
キャリア（生涯にわたっての仕事や社会とのかかわり方）への明確な課題意識を持ち、進路の実現に向けて自ら能力を開発することは、社会的・職業的に自立するために重要である。
そこで、教員採用試験の一般教養相当の知識や問題解答能力の習得を通じて、自己のキャリア実現への目標と課題を明確にし、その課題に取り組む力を養うことを目指す。
授業はオムニバス形式（専任教員が入れ替わり担当）である。

《授業の到達目標》
○自分の進路に対する具体的な目標を持ち、その実現に向けての課題を具体的に説明できる。
○自分の進路を実現するための計画を練り、それを行動に移すことができる。
○自分の進路に必要となる基礎的な知識を主体的かつ継続的に学習する態度が身についている。

《成績評価の方法》
○ワークシートやレポート等の提出物（80%）、グループワークでの参加態度（20%）で評価する。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合、単位は与えない。

《テキスト》
オムニバス形式の授業であるため、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考文献》
オムニバス形式の授業であるため、参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》
あらかじめ、自分の進路に必要となる学習内容をチェックして、自主的に学習を進めておくこと。
授業後には、配布された資料等をもとに学習内容をよく理解しておくこと。とくに、問題解答能力を養うには、受講生同士の協力から得るものが多い。学習成果や疑問点を授業に持ち寄って情報交換できるように整理をしておくこと。

《備考》
オムニバス形式の授業であるため、授業計画は目安です。担当教員の都合により進行が異なることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、スケジュールの説明など
2	キャリアとは	キャリアとは何か、社会人基礎力とは何かについて考える。
3	自分のキャリアデザイン	自分のこれまでをふり返り、将来のキャリアについて考える。
4	健康システム学科生のキャリアデザイン	健康システム学科の学生のキャリアを設計する。
5	採用試験の概要	教員・公務員・民間等に、進路ごとの採用試験に向けた取り組みについて考える。
6	一般教養の実力チェック	教員採用試験の一般教養の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
7	一般教養の傾向と対策(1)	一般教養の人文科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
8	一般教養の傾向と対策(2)	一般教養の社会科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
9	一般教養の傾向と対策(3)	一般教養の自然科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
10	一般教養のまとめ	ここまでに取り組んだ問題にあらためて取り組む。
11	一般知能の実力チェック	公務員採用試験の一般知能の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
12	一般知能の傾向と対策(1)	一般知能の数的推理・判断推理の練習問題・過去問に取り組む。
13	一般知能の傾向と対策(2)	一般知能の空間把握・資料解釈の練習問題・過去問に取り組む。
14	一般知能のまとめ	ここまでに取り組んだ問題にあらためて取り組む。
15	将来の進路の実現に向けて／まとめ	授業全体についてふり返り、将来のキャリア実現に向けた課題を考える。

科目名	教育特論II				
担当者氏名	平本　幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ◎　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
自己の表現能力開発の一環として、文章表現をはじめ、グループ・ディスカッションやディベートなどを通じて個人的課題を明確にするとともに、ティームの一員として活動する上で必要な事項を学びます。授業は学科専任教員が交代で担当するオムニバス形式で進め、専門分野の特性も加味しつつ指導・助言を行います。受講者が相互に協力し合い、学びとる態度が必要になります。

《授業の到達目標》
自己の進路に必要な知識・能力を主体的かつ継続的に獲得する姿勢・態度が身についている。グループ・ディスカッションの進行などに精通し、自己の役割を果たすことができる。自己及びティームの課題を把握・分析し、解決に向けて計画的に取り組み、評価することができる。

《成績評価の方法》
レポートと課題などの提出物（１００％）で評価します。授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の場合、単位を供与しません。

《テキスト》
適宜プリントを配布します。

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
自己の進路に必要な事項について計画的に学習を進めてください。進路に関連する情報の収集を積極的に行い、相互に有益な情報交換が可能になるように整理しておいてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の方法、到達目標などを説明します。
2	学科の専門性	健康システム学科の学習領域を説明します。
3	キャリア形成のタイム・スケジュール	各自の就職活動に向けて幅広い立場・観点から、具体例をあげながら説明します。
4	論理的思考と文章表現①	文章理解の練習をし、読解力・理解力を高める指導を行います。
5	論理的思考と文章表現②	文章表現、特に、就職活動における自己アピールの練習を行います。
6	面接①	個人面接の受け方の基本を説明し、実際に練習します。
7	面接②	実際に受講者個々人が教室の前で自己紹介、自己アピールをし、実例を示しながら面接の指導を行います。
8	面接③	グループ面接の方法を説明し、実際に面接の練習を試み具体的に指導します。
9	面接のまとめ	個人やグループでの面接に関する基本を再確認し、さらに進展させます。
10	グループ・ディスカッション①	グループ・ワークの技能の習得を目指し、練習を行います。
11	グループ・ディスカッション②	グループ・ディスカッションの技能の習得の練習を行います。
12	ディベート①	ディベートの基本を説明します。例として三つ論題を掲げ、賛成・反対を理由を述べながら明確に発表する練習を行います。
13	ディベート②	グループに分かれて実際にディベートの練習をし、解説します。
14	グループ・ワークのまとめ	グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、ディベートに関して再確認し、技能をさらに進展させます。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ史				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
古代から現代にいたるスポーツと教育の関係を、社会的・文化的・技術的・理論的視点から学習する。

《授業の到達目標》
運動・スポーツの歴史的研究の意義と方法を通じて、体育・スポーツの成り立ちや歩みを理解することができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
特に指定はしない。講義中に参考資料の配布および参考図書の紹介をする。

《参考文献》
必要に応じて参考資料を配布する。

《授業時間外学習》
スポーツ史に登場する遺跡や人物等の展示会があれば見学することまたテレビ等で取り上げられる番組があれば視聴するようにする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	人類文明と身体的技能職の成立	資料・文献を通じて学習していく、文化としてのスポーツについて学ぶ
3	古代文明のスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
4	中世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
5	近世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
6	近代体育理論の成立と展開	資料・文献を通じて学習していく
7	近代スポーツの展開	資料・文献を通じて学習していく
8	近代オリンピリズムの成立過程	資料・文献を通じて学習していく
9	学校体育の制度化とスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
10	体育の科学的発展	資料・文献を通じて学習していく
11	生涯スポーツの歴史的展望	資料・文献を通じて学習していく
12	スポーツの概念	スポーツの概念と歴史について学ぶ
13	ディスカッション	各グループ別によるディスカッション（課題提供）
14	レポート	レポートによる小テスト
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	地域活動演習Ⅰ				
担当者氏名	徳田　泰伸・河野　稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。
実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》
○地域の活動現場において、現場にいる人々と協同して行動できる。
○大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
○現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》
実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

《テキスト》
授業中に資料を配布する。

《参考文献》
ヘルス＆フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内○秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》
予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》
原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、２週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第１回目　挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第２回目　仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第３回目　仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第４回目　第３回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第５回目　第４回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第６回目　第５回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に客との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第７回目　第６回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第８回目　第７回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第９回目　第８回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確かめる）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学Ⅰ				
担当者氏名	矢野琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
トレーニング指導において、運動生理学、解剖学、トレーニング理論等の科学的な基礎知識無しでは効果的な結果は得られません。よって、これらを競技力向上を目的としたトレーニングを対象に学びます。1ー3年生までに学んだ基礎知識をもとにその応用を学びます。数回のレポート課題による理解力、プレゼンテーション能力の習得も行います。

《授業の到達目標》
トレーニング指導者として必要な基礎知識の獲得を目標とします。また、「聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く」といった作業を徹底して行い、指導者として必要な資質の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。レポート等の提出物は期限厳守です。原則遅れは受理しません。また欠席回数が５回以上の者は単位認定をしません。

《テキスト》
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》
「ストレングストレーニング＆コンディショニング」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「トレーニングの科学的基礎」ブックハウスHD、「入門運動生理学第３版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》
シラバスで授業内容を確認して予習をするように。また、各自が実際に運動やトレーニングを行い、理論の確認や疑問点の発見を行うことを強く希望します。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《備考》
トレーニング指導者養成のための授業を行いますので、その強い意思のある者の履修を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等の説明をします。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原理原則について学ぶ。
3	筋の構造とメカニズム	筋の構造とメカニズムについて学ぶ。
4	筋活動におけるエネルギー系や神経系	筋活動におけるエネルギー系や神経系のメカニズムについて学ぶ。
5	筋組成（遅筋）の特徴	筋組成（遅筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
6	筋組成（速筋）の特徴	筋組成（速筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
7	AT、LT、VT、OBLA	AT、LT、VT、OBLAについて理解する。
8	パワー	パワーに関する基礎知識を習得する。
9	筋持久力	筋持久力に関する基礎知識を習得する。
10	有酸素性持久力トレーニング	有酸素性持久力トレーニングに関する基礎知識を習得する。
11	エネルギー補給と代謝	エネルギー補給と代謝に関する基礎知識を習得する。
12	ジュニアアスリートにおけるトレーニング	ジュニアアスリートにおけるトレーニングについて障害防止の視点から学ぶ。
13	高齢者を対象としたトレーニング	高齢者を対象としたトレーニングとその効果について理解する。
14	ディ・トレーニング	ディ・トレーニングについて学ぶ。
15	まとめ	まとめ＆補足を行う。

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学Ⅱ				
担当者氏名	矢野琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
スポーツ科学Ⅰの応用編です。実技と講義を併用します。競技力向上を目的とした持久的トレーニングの基本を学びます。実際にHRモニターで心拍数の計測や乳酸値の計測を行い、理論の確認を行います。トレーニング科学を実際に活用するために必要な知識や技術の獲得を狙います。

《授業の到達目標》
競技力向上を目的とした指導者養成を目標とし、持久的トレーニングの基本的な理論の習得ならびにメニューの作成ができることを目指します。実際にHRモニターや乳酸測定機器を用いて計測やデータの分析が行えることを目指します。

《成績評価の方法》
数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。提出物の期限は厳守です。原則遅れは受け取りません。欠席回数が５回以上の者は単位認定をしません。

《テキスト》
「長距離選手の生理科学」杏林書院　¥2,400＋税

《参考文献》
「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第３版」杏林書院、「トレーニング科学ハンドブック」朝倉書店、「中長距離ランナーの科学的トレーニング」大修館書店、「高所トレーニングの科学」杏林書院、「運動生理・生化学事典」大修館書店、「スポーツ医科学」杏林書院、「乳酸をどう活かすか」杏林書院、「持久力の科学」杏林書院

《授業時間外学習》
シラバスを確認の上、予習をすること。また、各自でHRモニターの使用方法の習得のための時間を確保するように（実際に走って記録を取る）。

《備考》
トレーニング指導者を目指す学生の受講を求めます。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず参加すること。
2	呼吸機能について	長距離走者の呼吸機能の特性
3	循環機能について	長距離走者の循環機能の特性
4	骨格筋について	長距離走者の骨格筋の特性
5	無酸素性、有酸素性能力について	長距離走者の無酸素性、有酸素性の能力の特性
6	内分泌系、血液成分について	長距離走者の内分泌系や血液成分の特性
7	水分補給、体温調整	長距離走者の体温調節機能と水分補給
8	身体組成について	長距離走者の身体組成の特徴
9	持久的トレーニング	長距離走のトレーニングと効果
10	トレーニング計画	トレーニング計画の作成（ピリオダイゼーションを含む）
11	ウォーミングアップ＆クーリングダウン	ウォーミングアップ＆クーリングダウンの必要性や方法
12	エネルギー補給	競技力向上のためのエネルギー補給
13	障害	長距離走者を対象とした障害の発生とその原因、防止-1
14	障害	長距離走者を対象とした障害の発生とその原因、防止-2
15	まとめ	全体のまとめ＆補足

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法Ｉ				
担当者氏名	三宅　一郎・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ◎　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。１、２年次に履修した「ｽﾎﾟｰﾂ実践Ｉ・Ⅱ」「健康体力づくりＩ・Ⅱ」においてスポーツや学校体育における正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、様々なスポーツや学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》
授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、基本的に個人で各種目における指導計画を作成し実際に指導経験をする。さらに反省・評価を繰り返し行うことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。
さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については定期時間外に集中講義を実施する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ．ボーレット著
『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》
予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。
復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。

《備考》
健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	スポーツ実践の方法と指導計画の立て方	指導実習（指導計画書の作成と実施）
3	スポーツ活動と安全管理	指導実習（指導計画書の作成と実施）
4	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（１）
5	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（２）
6	球技	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と指導法
7	球技	バレーボールにおける特性・ルールの理解と指導法
8	球技	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
9	陸上競技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
10	陸上競技	短距離における種目特性の理解と指導法
11	陸上競技	リレーにおける種目特性の理解と指導法
12	陸上競技	走り幅跳びにおける種目特性の理解と指導法
13	格技	剣道における特性の理解と指導法（１）
14	格技	剣道における特性の理解と指導法（２）
15	まとめ	

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法Ⅱ				
担当者氏名	三宅　一郎・樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ◎　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
スポーツ指導法Ｉと同様に主として運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールや学校体育における種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》
授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、個人で各種目における指導計画を作成し指導経験をする。さらに反省・評価→指導を繰り返すことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。　さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については時間外に実施する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院)
『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ．ボーレット著
『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》
予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。
復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。

《備考》
健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の指導者としてふさわしい能力を体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	
2	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（１）
3	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（２）
4	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（１）
5	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（２）
6	球技	バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法（１）
7	球技	バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法（２）
8	陸上競技	走り高跳びにおける種目特性の理解と指導法
9	陸上競技	砲丸投げにおける種目特性の理解と指導法
10	陸上競技	長距離走における種目特性の理解と指導法
11	球技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法（１）
12	球技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法（２）
13	格技	柔道における特性の理解と指導法（１）
14	格技	柔道における特性の理解と指導法（２）
15	まとめ	

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり指導法Ⅰ				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ◎　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
運動を効果的に指導するためには、目的のほか質や量について検討しなければならない。生活習慣病の予防や治療における運動プログラムは様々であり、個別に対応した運動プログラムを開発しなければならない。目的に応じた運動プログラムを提供していくためには、個人の生理的・心理的特性も考慮しなければならない。演習では、様々な条件下で、安全かつ効果的な健康運動プログラムの作成するための手段を学んでいく。

《授業の到達目標》
この演習では、健康づくりや生活習慣病の治療や予防に関わる運動のあり方について説明でき、日常生活や運動での健康づくり、ライフスタイルや各年代に応じた安全で効果的な運動プログラムを作成することが出来る。

《成績評価の方法》
演習中に毎回行う確認テスト(30%)とレポート(10%)、実技テスト(20%)、確認まとめテスト(40%)により総合的に判断する。ただし、演習への出席率が全体の90%以下の場合は、単位を取得することはできません。

《テキスト》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団（南江堂）2009年
「健康運動指導士養成講習会テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団

《参考文献》
「メタボリックシンドロームに効果的な運動・スポーツ」坂本静男著（ナップ）2011年
「ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価―その有意義な活用を目ざして」アメリカスポーツ医学会編（市村出版）2010年
「エビデンスと実践事例から学ぶ運動指導」金川克子（監修）（中央法規出版）2009年
「メタボリックシンドローム解消ハンドブック」田畑泉著（杏

《授業時間外学習》
毎時間、テキストの各章について確認テストを行いますので事前に目を通しておくこと。確認テスト不合格の場合は再テストを実施する（レポート課題を課す場合もある）。テキストの専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》
定期の授業時間以外に学外実習（水中運動）を行う（日時未定）。健康運動実践指導者・健康運動指導士の認定試験を受験する予定の人は必ずテキストを購入しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	健康づくり運動と運動プログラム作成の理論	ライフスタイルにあった運動プログラムの作成意義や考え方について理解する
3	個別健康支援プログラムについて	国保ヘルスアップモデル事業（個別健康支援プログラム）について理解する
4	ライフスタイルに応じた運動プログラムの作成	健康づくりのための運動プログラム作成について理解する(1)
5	ライフスタイルに応じた運動プログラム	健康づくりのための運動プログラム作成について理解する(2)
6	ライフスタイルに応じた運動プログラム	各ライフスタイルに応じた運動プログラムの実際と評価(1)
7	ライフスタイルに応じた運動プログラム	各ライフスタイルに応じた運動プログラムの実際と評価(2)
8	高齢者の健康増進プログラムの作成と評価	介護予防運動の実際について理解する
9	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（1）（肥満症）
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（2）（糖尿症）
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（3）（高血圧症）
12	健康づくり運動の理論と実際(1)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(1)水中運動のプログラム作成と評価
13	健康づくり運動の理論と実際(2)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(2)アクアビクスプログラムの作成
14	健康づくり運動の理論と実際(3)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(3)水中ウォーキングプログラムの作成
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり指導法Ⅱ				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ） ◎　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
各種の有酸素性運動を実際に行うことによって、それぞれの運動の特性や効果について理解を深めるとともに、指導上の留意点、問題点を挙げながら講述していく。また、健康づくり運動だけでなく、生活習慣病に対する運動療法としての理論を講述するとともに、それぞれの目的にかなった運動プログラムの作成・実践していくための手段について検討していく。

《授業の到達目標》
健康体力づくりのための運動指導を行うためには、運動の特性や理論を理解することに加えて、専門能力・知識やその遂行能力だけでなく、人間関係の指導力または社交的な能力も有し、指導者としての自覚をもって行動する必要がある。「健康体力づくり指導法Ⅰ」に引き続いて本演習では、健康を維持増進するための適切な運動の在り方・方法論を説明でき、健康増進のほか疾病治療に必要な運動プログラムを実演できる。

《成績評価の方法》
毎演習時に行う章テスト（80%）と課題レポート（20%）により総合的に判断する。ただし、演習への出席率が全体の90%以下の場合は、単位を取得することはできません。

《テキスト》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団（南江堂）2009年
「健康運動指導士養成講習会テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団

《参考文献》
必要があれば適宜紹介していく。

《授業時間外学習》
毎時間、テキストの各章について章テストを行いますので事前に目を通しておくこと。章テスト不合格の場合は、指定された課題を提出するようにしてください。また、運動指導プログラムが実演できるように各自で練習しておくこと。

《備考》
時間以外に学外実習を行う予定である。この演習は健康運動実践指導者の認定試験を受験する学生を対象としている。健康体力づくり指導法Ⅰを受講しておくことが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	有酸素性運動の理論と実際（1）	エアロビックダンスの特性と理論について理解する
3	有酸素性運動の理論と実際（2）	エアロビックダンスの指導の要点と実際(1)
4	有酸素性運動の理論と実際（3）	エアロビックダンスの指導の要点と実際(2)
5	有酸素性運動の理論と実際（4）	水泳・水中運動の特性と理論について理解する
6	有酸素性運動の理論と実際（5）	水泳・水中運動の指導の要点と実際(1)
7	有酸素性運動の理論と実際（6）	水泳・水中運動の指導の要点と実際(2)
8	有酸素性運動の理論と実際（7）	ウォーキング・ジョッギングの特性と理論について理解する
9	有酸素性運動の理論と実際（8）	ウォーキング・ジョッギングの指導の要点と実際
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（1）（虚血性心疾患）
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（2）（腰痛症および変形性関節症）
12	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（3）（腰痛症および変形性関節症）
13	健康づくり運動の実際	ストレッチングの理論と実際について理解する
14	運動プログラム作成の理論	運動プログラム作成上の原則について説明することが出来る
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方論				
担当者氏名	矢野琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
運動は生活習慣病の予防や改善、高齢者が健康で豊かな生活を送るための重要な事項となっています。よって、指導者は安全かつ効果的に運動を行うために必要な事項を学ぶ必要があります。授業は、運動処方の目的、方法を運動生理学の面から学びます。基本的な内容に関しては「運動処方の指針第8版　南光堂」に準拠します。

《授業の到達目標》
運動やトレーニングの指導者養成のための基礎知識の習得を目標とします。
運動処方論の目的および方法を学ぶことで、運動の重要性や必要性を学びます。運動生理学の重要性を理解することもその目標の１つとします。

《成績評価の方法》
数回のレポート（50%）ならびに期末テスト（50%）の結果のみで評価します。提出期日は厳守です。

《テキスト》
特に指定しません。必要に応じて資料を必配布します。

《参考文献》
「運動処方の指針　第8版」南光堂、「運動処方」朝倉書店、「入門運動生理学第３版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、
「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学、「発達運動論」放送大学

《授業時間外学習》
３年生対象の選択科目授業ですので、これまでに学んだ基本知識の応用として授業展開します。これまで学んだ運動生理学や解剖学、運動栄養学、運動の基礎等の知識を事前に確認しておいてください。積極的に参加してください。

《備考》
パワーポイントやビデオ等の映像資料を積極的に用いて授業展開します。より多くのことが学べるよう積極的に授業を展開しますので、みなさんの積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等を説明します。また運動処方に関する情報の紹介を行います
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原則について理解する。中高年者とスポーツ実施における注意点等についても理解する。
3	運動処方の概要	運動処方の概要について理解する。
4	トレーニングの概要	トレーニングの概要について理解する。
5	心肺機能の運動処方	心肺系の運動処方について理解する。
6	運動とエネルギー	エネルギーの消費に関して理解する。
7	プログラムの進行	プログラムの進行についてその注意点等を理解する。
8	特異性	トレーニングの特異性について理解する。
9	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングの処方について理解する。
10	柔軟性	柔軟性に関して理解する。
11	トレーニング効果の継続	トレーニング効果の持続について理解する。
12	プログラムの監視	プログラムの監視について理解する。
13	エクササイズ習性変容	エクササイズ習性変容の方法について理解する。
14	運動処方の在り方	運動処方の在り方について理解する。
15	まとめ＆補足	これまで学んだ運動処方の総まとめを行う。

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方演習				
担当者氏名	樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力）				

《授業の概要》
病気になれば病院に行き薬を処方してもらう。同様に運動をしたい人(しなければならない人）には運動処方の条件や原則を捉えた上でその人の状況にあった運動(トレーニング）を処方することが運動指導者の役割である。運動処方を行うためには、心拍数や血圧、乳酸値、心電図、最大酸素摂取量など測定するための知識や測定法を学び、その測定値を基に運動の種類や強度、頻度などを設定する。

《授業の到達目標》
(1)目標を設定する。(2)「走」に必要なテーマを挙げ、情報を収集できる。(3)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(4)トレーニング計画を立て実行できる。(4)協力して実験を行い、レポートを作成できる。(5)その成果をマラソン大会において発揮する。(6)トレーニングが計画通りいかず内容を修正することができる(7)本講義の内容を理解し、自らの生活において競技力向上や生活習慣病の改善に役立てることができる。

《成績評価の方法》
(1)(2)(4)(6)についてはレポート提出、(3)(5)(7)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の時は、評価対象外とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
「運動生理学20講　第2版」勝田　茂（朝倉書店）
「運動処方の指針　第7版」日本体力医学会体力科学編集委員会(南江堂)
「運動療法と運動処方」佐藤祐造（文光堂）

《授業時間外学習》
①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②毎回運動処方に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③2月に開催される「神戸バレンタインデー・ラブラン大会」に出場する。④授業以外でトレーニングを行うこと。

《備考》
遅刻(10分以上)2回で1回欠席とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	運動処方の基本	運動処方の基礎知識を理解する。自分の身体を理解する(体組成測定)
3	目標設定とトレーニング計画作成	身体活動量・運動量・減量等の目標設定と体力に応じたトレーニングプログラムの作成
4	運動と心拍数	運動をすることで心拍数がどのように変化するのか理解する
5	筋力トレーニングの効果	筋力トレーニングの必要性について理解する
6	エネルギー量について	運動とエネルギーとの関係を理解する
7	フォームの効果	トレーニングフォームについてビデオ撮影し効果的なフォームについて理解する
8	水分摂取と栄養補給の効果	運動と水分摂取・栄養補給について理解する
9	運動と乳酸の関係	乳酸について理解し自分に適したトレーニングを理解する
10	ケガについて	トレーニング時のケガについて理解し防止策等実践する
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解する
12	ピーキング	大会にピークを合わせるための方法を理解し、実際に20ｋｍを走行する
13	ストレスについて	運動時のストレスについて測定し、解消するためのトレーニングを理解する
14	発表	実行してきたトレーニング内容やその成果、大会での自分のパフォーマンスについて発表する
15	大会出場	大会に出場(21.0975ｋｍ）する

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	レクリエーション(野外活動を含む)				
担当者氏名	樽本　つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ◎　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
レクリエーションの果たす役割について理解し、活動（イベント）を通して参加者の意欲を引き出し、魅力のある活動や運営の仕方を学びます。また、学外でのキャンプ実習では日常生活から離れて、自然の中で相互に協力し、自然に親しむ力を身につけ、指導者として野外活動の企画・立案・運営ができることを目指す。本講義は、保健体育免許必修科目である。

《授業の到達目標》
(1)レクリエーション支援が、子どもから高齢者まで多様な活動の機会を提供するための働きかけであることを理解する。(2)ニュースポーツを中心に実践方法を習得する。(3)オリジナリティのあるレクリエーションを考え、実践する。(4)キャンプ実習では共同生活を行うための必要な知識と技能、自然に親しむ心を養う。(5)実習後のレポートを作成し、発表する。

《成績評価の方法》
(1)(4)(5)についてはレポート提出、(2)(3)(4)は発表の内容、キャンプ実習の様子で評価する。評価の割合は、レポート30%、発表20%、キャンプ実習での活動50%とし100点満点で60点以上を合格とする。授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の時は、評価対象外とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
「やさしいレクリエーション実践」川村皓章（日本レクリエーション協会）
「野外活動テキスト」（日本野外教育研究会）

《授業時間外学習》
①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②毎回レクリエーションに関する課題について新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③学外でキャンプ実習（2泊3日）と集中講義でレクリエーション指導をする。

《備考》
遅刻(10分以上)2回で1回欠席とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明し、グループ分けを行う
2	レクリエーションの基礎理論と支援の理論	レクリエーションの基礎的な知識を理解する
3	ホスピタリティーとアイスブレーキング	ホスピタリティーとアイスブレーキングについて理解し、実践する
4	ニュースポーツ（1）	ニュースポーツについて理解し、実践する
5	ニュースポーツ（2）	ニュースポーツについて理解し、実践する
6	ニュースポーツ（3）	ニュースポーツについて理解し、実践する
7	キャンプ実習（1）	事前指導
8	キャンプ実習（2）	開講式、テント設営
9	キャンプ実習（3）	オリエンテーリング、自然観測
10	キャンプ実習（4）	野外調理
11	キャンプ実習（5）	登山
12	キャンプ実習（6）	野外活動、キャンプファイヤー
13	キャンプ実習（7）	テント撤去、閉講式
14	キャンプ実習（8）	事後指導
15	まとめ	実習発表会

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	薬理学				
担当者氏名	溝邊　雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
「からだ」と「こころ」の両面から健康のあり方を探究し、健康の維持・増進、病気予防、児童や障害者のケアなど、健康を科学的・総合的に理解するためには、薬物に関する知識は重要である。本授業では、薬物の種類、作用のしくみ、薬理効果と副作用、薬物体内動態などを基礎的に理解したのち、感染性疾患、神経系・内臓系疾患に用いられる薬物を各論的に学習し、健康管理に必要な薬理学的知識の習得を目指します。

《授業の到達目標》
① 薬物の体内動態や有効性と安全性の基本的ｈ考え方を説明できる。
② 主要な薬物について、基本的な作用機序を説明できる。
③ 主要な薬物について、適応疾患ごとに分類できる。
④ 病気予防や健康管理に対する薬物治療の重要性を主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》
定期試験７０％、平常評価３０％（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上になったものには単位を与えません。

《テキスト》
『薬理学－疾病のなりたちと回復の促進　２　』　大鹿　英世、吉岡　充弘　著　　医学書院

《参考文献》
『薬理学』　鈴木　正彦著　　医学芸術社
『やさしい薬理のメカニズム－薬のはたらきを知る』　中原　保裕著、学習研究社
『クスリのしくみ事典』　野口　實、岡島　重孝著　日本実業出版社
『くすりの地図帳』　伊賀　立二、小瀧　一、澤田　康文監修　講談社

《授業時間外学習》
教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実に行い講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》
能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬物の作用と薬物治療	薬物治療のめざすもの、薬物の作用・副作用のしくみ、薬物の投与経路など
2	薬物の体内動態と効果	薬物の体内のうごき、薬物耐性、薬物依存、薬効の影響因子など
3	有害作用と薬物の管理	薬物のもつ有益性と有害性、薬物管理など
4	感染症治療薬	抗菌薬各論、感染症治療の問題点など
5	抗がん薬	がん治療における問題点、抗がん薬各論など
6	免疫治療薬	免疫反応のしくみ、免疫治療薬、予防接種薬など
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬（１）	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬など
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬（２）	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
9	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、局所麻酔薬など
10	中枢神経に作用する薬（１）	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗うつ薬など
11	中枢神経に作用する薬（２）	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮痛薬など
12	物質代謝に作用する薬	ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン剤など
13	心臓・血管に作用する薬（１）	抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など
14	心臓・血管に作用する薬（２）	利尿薬､脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物など
15	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去たん薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康統計学				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》
統計学の基礎な考え方と手法を身につけることを目指す。具体的には、基本的な統計量（平均値、分散、標準偏差など）やデータの整理、相関と回帰、確率分布、区間推定や仮説検定（カイ2乗検定、t検定、F検定など）まで、統計学の基礎全般について学習する。
毎回の授業では、理解度確認のための小テストを実施する。また、表計算ソフトを利用した統計処理の演習も行う。

《授業の到達目標》
○データを代表する統計量を求めたりグラフを作成して、データ全体の特徴を把握できる。
○統計的手法を用いて、標本から母集団の特徴を推測したり、複数の母集団の特徴を比較できる。
○表計算ソフトなどを用いて、データを整理し分析できる。

《成績評価の方法》
○毎回の小テスト（20%）と課題などの提出物（20%）と中間および定期試験の結果（60%）で評価する。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えない。

《テキスト》
縣俊彦(2007)『やさしい保健統計学 改訂第4版』南江堂.

《参考文献》
○涌井良幸・涌井貞美(2010)『統計解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社.
○菅民郎・福島隆司(2009)『Excelで学ぶ統計解析入門 ー Excel2007対応版』オーム社.
○小島寛之(2006)『完全独習　統計学入門』ダイヤモンド社.

《授業時間外学習》
○予習について
教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、グラフ作成や関数の利用など、表計算ソフトの操作や手順を練習しておくこと。
○復習について
中間・定期試験に向けて、用語や統計的手法を覚えるだけでなく、データの整理や手法を扱えるように練習をしておくこと。

《備考》
授業での学習だけでなく、身の回りにある「データ」に関心を持ち、学習した成果を興味のある分野に生かそうという意欲を持って、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	データの尺度、統計資料の整理	尺度、度数分布表、ヒストグラム
3	代表値と散布度	平均値、中央値、最頻値、標準偏差、範囲、変異係数
4	相関と回帰	相関係数、順位相関係数、回帰直線
5	確率、順列と組み合わせ	確率、順列、組み合わせ
6	中間試験	中間試験の実施（ここまでの学習のふり返り）
7	確率変数と確率分布	中間試験の解説／確率変数、確率分布
8	確率分布	二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布など
9	母集団と標本、点推定と区間推定	母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母相関係数の推定
10	仮説検定(1)	1つの母集団の統計値の検定（母平均、母比率、母相関係数）
11	仮説検定(2)	2つの母集団の統計値の検定（z検定、t検定など）
12	仮説検定(3)	クロス表の検定（適合度の検定、独立性の検定など）
13	仮説検定(4)	その他のノンパラメトリックな検定
14	分散分析	一元配置分散分析、二元配置分散分析
15	まとめ	全体の学習のふり返り

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》

学校教育における健康相談活動の概念や特質を踏まえて、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学びます。

《授業の到達目標》

○健康相談活動の概念や役割について説明できる。
○健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。
○子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
○健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレーイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価　10%、課題の実践と提出　30%（実践参加せずに課題提出だけの場合、減点）、定期試験　60%とする。
授業実施回数の３分の１以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考文献》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。
課題レポートについては、文献にあたった上で作成する。
授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。
また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。 健康相談活動の養護教諭位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義、
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談活動に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際（1）	進め方の実際、保健室の機能、
9	健康相談活動の実際（2）	事例の学習、健康相談活動のプロセス 保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際（3）	ロールプレイの実際
11	健康相談活動の実際（4）	グループ学習（演習）
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談活動	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学Ⅲ				
担当者氏名	若井和子、齋藤智江、井上満代				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ◎　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
養護教諭に対する期待は、健康教育や健康相談活動などの新たな役割が加わり、一段と高まってきている。その期待に応じて養護教諭に必要な基礎看護知識を発達段階に沿って学び、理解する。また、高齢化に向かって健康意識の変化や科学的根拠についても考える。講義概要としては発達（母性・小児）看護学、成人・老年看護学が含まれている。

《授業の到達目標》
養護教諭に必要な基礎看護知識を発達段階に沿って理解できる。また、高齢化に向かって健康意識変化の重要性や科学的根拠について考えることができる。

《成績評価の方法》
母性看護20%、成人老年看護20%、小児60%筆記試験とする。

《テキスト》
「養護教諭のための看護学」藤井寿美子他編　大修館書房

《参考文献》
「総合思春期学」清水凡生編集　診断と治療社
「女性之看護学母性の健康から女性の健康へ」吉沢豊予子、鈴木幸子編著　メジカルフレンド社

《授業時間外学習》
課題レポート、授業内容の予習復習及び演習内容の準備

《備考》
筆記試験については後日知らせる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	母性看護の基礎知識１	思春期看護の基礎知識および思春期における健康障害と看護（若井）
2	母性看護の基礎知識２	母性の概念および母性看護の基礎知識（若井）
3	母性看護の基礎知識３	女性のライフサイクルと各期のヘルスケア（若井）
4	小児看護の基礎知識１	小児看護の基礎知識
5	小児看護の基礎知識２	小児期各期の発達
6	小児看護の基礎知識３	乳児期の健康障害と看護
7	小児看護の基礎知識４	学童期の健康障害と看護
8	小児看護の基礎知識５	思春期・青年期の健康障害と看護
9	小児看護の基礎知識６	心の傷へのケア
10	小児看護の基礎知識７	学校感染
11	小児看護の基礎知識８	小児のフィジカルアセスメント
12	小児看護の基礎知識９	小児のフィジカルアセスメント
13	成人・老年看護の基礎知識１	成人看護の基礎知識および成人期における健康障害と看護のポイント（援助技術を含む）、骨折、外傷、生活習慣病等を中心に（齋藤）
14	成人・老年看護の基礎知識２	老年看護の基礎知識および老年期における健康障害と看護のポイント（援助技術を含む）、心不全・呼吸不全・脳梗塞等を中心に（齋藤）
15	成人・老年看護の基礎知識３	病院実習に必要な基礎看護技術・救急処置等、自己分析ツールについて（齋藤）

《専門教育科目　Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学Ⅳ				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ◎　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
　看護学の基礎的知識や技術を再確認し、さらに実践の学としての症例学習を加えることで、科学的な見方で学校看護を理解します。
　受講者は、看護過程の進め方を理解し、養護教諭として看護にいかに位置づけるかについて学ぶことができます。続く、症例学習を含めた看護実習や養護実習の中で、学習し考えたことを実践の中で確認していくことができます。主体的な学習態度

《授業の到達目標》
○看護学の知識と技術における基礎的事項を説明できる。
○対象の健康問題全般を科学的・系統的には把握することができる。
○主な治療・処置に伴う看護が理解できる。
○臨床看護実習に向けて、各自の課題を見出し、課題解決に取り組むことができる。

《成績評価の方法》
小テスト（４０％）、定期試験（６０％）とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。
授業実施回数の３分の１以上欠席した受講者は評価対象者とは認めません。

《テキスト》
適宜プリントを配布する

《参考図書》
①『最新看護学』中桐・天野・岡田　編著　（東山書房）
②『実践基礎看護学』中西監修　（建帛社）
③『養護教諭のための看護学』藤井・山田・佐藤　（大修館書店）
④『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）　その他適宜紹介する

《授業時間外学習》
課題レポート作成には、必ず関係図書に目を通す。
復習をしっかりおこない、正確な数値の把握に努める。
常に養護教諭の専門性との関連で考える習慣をつくる。

《備考》　（全角84文字）
この授業の出席状況は、本教科の単位認定に関与するだけでなく、「臨床看護実習」の受講資格に関わってくることを認識しておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床看護実習との関わり
2	基礎看護学の復讐	看護学の概念の確認
3	病気と手当①	子どもに多い病気と手当－訴えや症状に対する理解と看護
4	看護過程	看護過程の実際、看護診断（判断）について　小テスト(第1回)の実施
5	病気と手当②	子どもに多い病気と手当－障害のある児童・生徒への理解と看護　小テスト(第2回)の実施
6	スクリーニングとは	スクリーニングの概念と方法
7	基礎技術	スクリーニングの技術、バイタルサインなどの基礎看護技術
8	治療と処置	治療・処置に伴う看護　小テスと(第3回)の実施
9	記録と報告	記録と報告について　意味と方法
10	安全と安楽	安全と安楽について　方法と技術
11	地域看護	地域看護とは　地域看護の推進と連携
12	看護倫理	看護倫理と教育職員の倫理観について　小テスト(第4回)の実施
13	実践とは何か	臨床看護実習の目的の確認と導入
14	記録の取り方と報告の仕方	臨床看護実習における記録と報告、内容と方法、
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、各自の課題を明らかにし説明することができる。

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床看護実習				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う （応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》

看護学の最終段階として、これまで学んできた知識や技術を確認すると共に、臨床での人間関係を通して、養護教諭に必要な看護的専門性を確認します。

受講者は、担当患者の看護ケアを通して看護過程の実際に触れることができます。高度医療や医療的ケアなど、現代的医療の現状や特別なケアの実際にも触れます。人間を深く理解し、科学的な視点で必要なケアを考えるなど、主体的に実習に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

○実習目標や内容を明確にし、その成果を報告することができる。
○対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。
○看護学の専門性を理解し、自らの専門(学校看護）への応用について考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、いっさいの欠席は原則として認めない。
実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。

《テキスト》

本学作成の『実習記録のノート』
配布プリント類

《参考文献》

『最新看護学』 中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
『養護教諭のための看護学』 藤井・山口・佐藤編（大修館書店）
『基礎看護技術Ⅰ』藤崎郁著、医学書院
その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。
実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。
実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで、本実習がある。
臨床基礎実習を修了していること。
実習の適否は、学科内委員会が判断する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導１ オリエンテーション	臨床(臨地）実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導２	実習の内容を確認し、各自の目標を決める。
3	事前指導３	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習 1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。
5	実習 2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
6	実習 3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
7	実習 4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
8	実習 5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
9	実習 6日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
10	実習 7日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
11	実習 8日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
12	実習 9日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
13	実習 10日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。 指導者を交えた、最終カンファレンス。
14	事後指導１	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備、
15	事後指導２	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	救急看護(救急処置を含む)				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代、他				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する　（専門的技術力） ◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識）				

《授業の概要》

教育活動やスポーツ活動においては、予期せぬ発病や事故や外傷が起こります。その初期対応や処置の仕方、対応の良否はその後の経過に影響するとも言われます。

授業は複数の担当者によるオムニバス形式で進めていきます。受講者は、救急処置に必要な知識と技術を習得します。また、具体的な場面を想定した救急処置の実践的能力を身につけ、教師としての専門性に生かせるよう主体的に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

○救急看護の概念と基礎知識を理解し、説明できる。
○災害救護活動について理解し、災害時の健康障害について解説できる。
○基本的な救急処置ができる(救急処置の範囲がわかる)。
○救急蘇生法について指導できる。
○傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

各担当者出題による最終試験(60%)、演習後のレポート（40%）。１００点満点で６０点以上を合格とする。
授業実施回数の３分の１以上欠席した受講者は評価対象者とは認めません。

《テキスト》

適宜プリント等を配布する

《参考文献》

① 『救急看護論』山勢博彰編著、ヌーヴェルヒロカワ
② 『初心者のためのフィジカルアセスメントー救急保健管理と保健指導ー』第2版　荒木田美香子他、東山書店
③ 『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害　改訂第2版』、南江堂
④ 『災害現場でのトリアージと応急処置』山﨑達枝、日本看護協会出版会

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。
復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。
医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。
技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。2コマ連続開講で11回＋45分の授業となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について、救急看護の考え方、 年齢別に起こりやすい事故と病気。フィジカルアセスメントの知識
2	小児救急①	子どもに多い事故と傷病、小児救急の実際と処置の基礎知識①
3	整形外科的障害	整形外科的障害（突き指、骨折、捻挫、頭部外傷など）の救急処置の基本
4	小児救急②	子どもに多い事故と傷病、小児救急の実際と処置の基礎知識　②
5	内科的障害	内科的障害（胸痛、腹痛、熱中症、過換気症候群など）の救急処置の基本
6	災害看護とトリアージ	災害の定義、災害発生の現代的課題、災害看護とトリアージ
7	救急蘇生法の理論と実習①	救急蘇生法の理論と実習１（人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、AED)
8	基本的応急処置	傷病者の観察と基本的応急処置法（止血法、包帯法、搬送方法)
9	救急蘇生法の理論と実習②	救急蘇生法の理論と実習２（異物除去、RICE、）
10	学校救急①	学校救急看護
11	学校救急②	学校救急看護
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	教育史				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では,「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく,子どもの遊び,子育て,大人と子どもの関係,海外留学など,広くとらえ,みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には,受講生は日ごろ読んでいる本の中から,教育史的内容を含むものを1冊以上選び,その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は,文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと,無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では,みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ,それについて発表することにより,教育史を身近に感じてもらうことが,本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と,発表への評価(70%)による。ただし, 大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき, 変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考文献》

妹尾河童『少年H』,さくらももこ『まる子だった』,黒柳徹子『窓際のトットちゃん』,司馬遼太郎『竜馬がゆく』,ヘッセ『車輪の下』,サンテグジュペリ『星の王子さま』,童門冬二『上杉鷹山』,乙武洋匡『五体不満足』,ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが,その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）				
担当者氏名	植田誠治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
保健科教育について，学習指導要領の検討，保健科教育研究の動向分析を通して考察し，その目標，方法，評価等についての発展的な理解を深める。

《テキスト》
中学校教科書「中学保健体育」学習研究社，高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店，中学校学習指導要領解説「保健体育」，高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考文献》
森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店

《授業の到達目標》
保健科教育の目標，内容，方法，評価についての今日的課題を分析・説明できる。保健科教育の目標，内容，方法，評価について，学習指導要領や保健科教育研究の動向を分析検討できるとともに，今日の考え方とその背景について考察できる

《授業時間外学習》
授業中に指示したプリントや教科書の箇所を事前に予習しておくこと。なお授業は集中講義で行われる。

《成績評価の方法》
（１）授業への参加（40%），小課題への取り組み（20%），最終試験（40%）（なお，試験はテキスト等「持ち込み不可」で行われる。）

《備考》
プリントを多く配布するので，それを綴じるファイルを準備すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健科教育の歴史と現状	保健科教育の発展，各自の保健授業経験の検討
2	保健学力の現状と保健科教育	保健学力テストの分析
3	保健科教育内容の検討（１）	中学校学習指導要領解説の検討
4	保健科教育内容の検討（２）	高等学校学習指導要領解説の検討
5	保健科教育の教授 - 学習過程の検討	保健科教育の教授 - 学習過程の具体例の分析
6	保健教科書の分析（１）	中学校保健教科書内容の分析
7	保健教科書の分析（２）	高等学校保健教科書の分析（現代社会と健康）
8	保健教科書の分析（３）	高等学校保健教科書の分析（生涯を通じる健康，社会生活と健康）
9	保健科教育の教材論	保健科教育教材の具体例の分析
10	保健科教育教材づくり（１）	保健科教育教材づくり体験
11	保健科教育教材づくり（２）	保健科教育教材づくり体験
12	保健科教育の評価論	今日の保健科教育の評価の課題
13	「思考・判断」を評価する問題づくり（１）	「思考・判断」を評価する問題づくり体験
14	「思考・判断」を評価する問題づくり（２）	「思考・判断」を評価する問題づくり体験
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見の再確認

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）				
担当者氏名	植田誠治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
今日の保健授業では，健康に関する基礎的な内容の理解のみならず，現代的健康課題への対応，実践力の育成，学習方法の工夫等が求められている。それらをふまえて教材研究をし，15分の模擬授業計画を作成し，実施し，カンファレンスを行い，保健教材を検討するとともに保健授業づくりの力量を高める。

《テキスト》
中学校教科書「中学保健体育」学習研究社，高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店

《参考文献》
森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店

《授業の到達目標》
保健の授業計画を立て，指導案を作成することができる。学生を児童・生徒にみたて，15分間の模擬授業を行うことができる。模擬授業を批評し，そのよかった点，改善すべき点に意見をのべることができる。

《授業時間外学習》
授業時間以外も使い各自じゅうぶんな検討をしてから模擬授業を行うこと。また修正案の作成にも取り組むこと。

《成績評価の方法》
（１）模擬授業の作成とカンファレンスの積極的参加（70%），（２）レポート（30%）

《備考》
この授業は集中講義で行われる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション，グルーピング，評価観点・評価方法の確認
2	テーマの決定と教材研究	テーマの決定，授業過程の構想
3	模擬授業計画立案	指導案の作成
4	模擬授業計画の精査	指導案の完成
5	模擬授業の実施とカンファレンス	第5週～第14週　各自による模擬授業の実施とカンファレンス
6	模擬授業の実施とカンファレンス	各自による模擬授業の実施とカンファレンスは次の手順で行う。
7	模擬授業の実施とカンファレンス	①模擬授業の実施（15分）
8	模擬授業の実施とカンファレンス	②模擬授業の評価（授業評価表による評価と質的評価）（10分）
9	模擬授業の実施とカンファレンス	③授業者の指導案にもとづく解説と実際に行った感想（10分）
10	模擬授業の実施とカンファレンス	④カンファレンス（15分）
11	模擬授業の実施とカンファレンス	⑤まとめ（5分）
12	模擬授業の実施とカンファレンス	⑥修正案の作成
13	模擬授業の実施とカンファレンス	⑦修正案の検討
14	模擬授業の実施とカンファレンス	⑧修正後の模擬授業の実施
15	まとめ	各自の力量の評価と課題の整理

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）				
担当者氏名	後藤　幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
「学習指導要領（保健体育編）」を理解するとともに、学校現場で生徒に運動、スポーツの技術を学習させる意義と教科内容（体育分野）を理解する。その上で、「球技」を中心に教育内容を押さえた「的確な判断に基づく行動力の育成」のできる先生になる力を習得する。換言すれば、高い専門性に基づき教育現場での教科指導法について創意工夫できる力を養う。

《授業の到達目標》
保健体育科教育法Ⅰに引き続き、保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。

《成績評価の方法》
･出席を重視します。欠席が開講時数の1/４を超えた場合は欠格対象者となる。
･授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。

《テキスト》
文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
文部科学省「高等学校習指導要領解説（保健体育編）」
教科書・実技書（高校のとき使用のもので可）

《参考文献》
高橋健夫　他編、「体育科教育学入門」大修館書店
日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業時間外学習》
・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義資料を読んでおく。

《備考》
・講義資料は適宜配布する。
・質問・連絡等があればメールでも受け付けます
（ygoto@gaia.eonet.ne.jp）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保健体育科について
2	体育授業の構造	【教師、教育内容（教材）、学習者】について
3	目標と学力	体育科の目標の変遷と考え方・体育の学力について
4	運動領域	運動領域の考え方と教育内容について
5	教育内容	普遍的教育内容について（技術、戦術、ルール、マナー、学びとり方の能力、他）
6	技術	技術について（運動技能の捉え方）
7	ルール・戦術	ルールと競争・戦術について
8	球技分類論	球技のゲーム形式に基づく分類論と教育内容について
9	球技の指導法①	球技（攻防相乱型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
10	球技の指導法②	球技（攻防分離型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
11	武道の指導	武道（相撲、柔道）の学習指導について
12	体づくり運動	腕立て伏臥腕屈伸運動の負荷量を考える
13	評価	指導と評価の一体化、学習課題が明確になる評価について
14	学習のまとめ	試験問題の作成を通して
15	試験問題の検討	作成した試験問題の検討

《教職に関する科目》

科目名	教育方法論				
担当者氏名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
受講生は数名ずつのチームに分かれ,それぞれに割り当てられたキーワード(「アルコール」,「煙草」,「麻薬・覚醒剤」等)に関して,図書やインターネット等を使って調べたうえで,ポスターや紙芝居,冊子を作ったり,マイクロソフト・パワーポイント等を用いて模擬授業を行う。

《授業の到達目標》
本授業では，「教育と情報」と題して，教職を遂行するのに必要な情報を収集（受信），整理したうえで，子どもたちを前にしてプレゼンテーション（発信）を行うのに必要な知識と技術（情報機器の活用を含む）を学ぶ。

《成績評価の方法》
提出物(20%)と,発表への評価(80%)による。ただし，大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき，変更することがある。

《テキスト》
とくに定めない。

《参考文献》
・宅間紘一『学校図書館を活用する学び方の指導』（全国学校図書館協議会)2002年
・鈴木義幸『熱いビジネスチームをつくる4つのタイプ―コーチングから生まれた―』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)2002年

《授業時間外学習》
模擬授業づくりのためのチームでの作業。その他は必要に応じて指示する。

《備考》
本授業では,模擬授業を行う単位であるチームを,「チーム学習研究会」(指導者:西之園晴夫・佛教大学教授)での教育工学研究成果に基づいて編成する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	心理テストを用いたチーム分け
2	チームごとに分かれての作業(1)	授業の構想づくり
3	チームごとに分かれての作業(2)	情報機器の活用プラン作成等
4	模擬授業(1)	テーマ例:骨粗鬆症/運動
5	模擬授業(2)	テーマ例:栄養素/休養
6	模擬授業(3)	生活習慣病と栄養/麻薬・覚せい剤
7	模擬授業(4)	テーマ例:地産地消/アルコール
8	模擬授業(5)	テーマ例:おやつのとり方/ガン
9	模擬授業(6)	テーマ例:咀嚼力/循環器疾患
10	模擬授業(7)	テーマ例:食物ピラミッド/ストレス対処法
11	模擬授業(8)	テーマ例:子どもの食事/むし歯
12	模擬授業(9)	テーマ例:発育と発達/カゼ
13	模擬授業(10)	テーマ例:朝食欠食/タバコ
14	模擬授業(11)	テーマ例:行政のとりくみ
15	本授業の総括	講義「授業と情報の受発信」

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅　一郎、大平　曜子、木下　幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに，その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》
教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに，教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では，教育実習を通して学んだことを，教育実習前の自己の教育観，学校観，生徒観等と対比させながら，適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》
基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。
教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」（20%）教育実習記録(実習ノート)（40%）事前事後指導での活動（40%）

《テキスト》
兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」
その他、適宜紹介する

《参考文献》
文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》
＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時よってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》
履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅　一郎、大平　曜子、木下　幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに，その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》
教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに，教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では，教育実習を通して学んだことを，教育実習前の自己の教育観，学校観，生徒観等と対比させながら，適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》
基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。
教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」（20%）教育実習記録(実習ノート)（40%）事前事後指導での活動（40%）

《テキスト》
兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」
その他、適宜紹介する

《参考文献》
文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》
＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時よってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》
履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習(事前事後指導を含む)				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定めたうえで、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時）から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

○養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
○養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
○定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
○実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。
実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む）(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考文献》

「新養護概説」　　采女智津江編　　少年写真新聞社
「児童・生徒の健康診断マニュアル」日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。
基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。
実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位）の内の1単位分に相当することを認識し、また、実習本番に向けて、各自が出来る限りの準備を行う。主体的参加と、自主的学習を要する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習に向けて、心構えと注意点、 勉強の進む方、実習と採用試験
2	養護実習内容について	教育職員に関すること、学校教育に関すること、学校保健の考え方、進め方に関すること、
3	養護教諭について	養護教諭とは、保健室とは、保健室経営の仕方、 保健室における対応の仕方、記録の方法、
4	学校環境衛生	日常学校環境衛生検査、測定の実際
5	健康診断	定期健康診断の考え方、進め方、測定・検査の実際
6	保健指導	保健学習と保健指導、保健指導の指導案作成（課題の提示）
7	保健だより	保健だよりの意味と役割、校種別保健だよりの作成
8	学校事故の対応	学校事故と対応の仕方、記録の仕方、
9	模擬授業	保健指導の実際（6週目の課題報告）
10	実習要項の確認	実習の手引きと日誌の配布、実習要項の確認と実習日誌の記入方法
11	実習手続き	実習手続きの確認、関係文書の作成
12	(実習の事後指導にあてる)	(実習の成果報告①)
13	(実習の事後指導にあてる)	(実習の成果報告②)
14	(実習の事後指導にあてる)	(実習の成果報告③)
15	(実習の事後指導にあてる)	養護実習のまとめ

平成 21（2009）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	演習	2						2									
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2								
		健康科学序論	講義	2							2								
		健康科学	講義	2		◇						2							
		情報科学	講義		2						2								
		基礎生物学	講義		2						2								
		解剖学	講義		2	◇	○		□	2									
		生理学	講義		2		○	△	□		2								
		微生物学	講義		2		○		□				2						
		生化学（分子生物学を含む）	講義		2							2							
		分子生物学演習	演習		2								2						
		栄養学	講義		2		○		□		2								
		食品学	講義		2		○			2									
		栄養指導論	講義		2								2						
		衛生学	講義		2		○	△	□		2								
		公衆衛生学	講義		2			△	□				2						
		医学概論	講義		2		○							2					
		ライフステージと健康	講義		2									2					
		心理学研究法	講義		2							2							
		心理測定法	演習		2							2							
		心理学基礎実験	実験		2										4				
		心理学応用実験	実験		2											4		（北島 律之）	221
		認知心理学	講義		2							2							
		健康心理学	講義		2	◇						2							
		臨床健康心理学演習	演習		2								2						
		生涯発達心理学	講義		2									2					
		臨床心理学(含カウンセリング)	講義		2									2					
		教育心理学	講義		2		○	△	□				2						
		発達心理学	講義		2			▲	■			2							
		ストレス科学論	講義		2										2				
		人間関係論	講義		2										2				
		教育特論Ⅰ	講義		2									2					
		教育特論Ⅱ	講義		2										2				
		教育特論Ⅲ	講義		2											2		矢野 琢也	222

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 「スポーツ実践Ⅰ」、「スポーツ実践Ⅱ」、「健康・体力づくり実践Ⅰ」、「健康・体力づくり実践Ⅱ」、「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

※ 「レクリエーション（野外活動を含む）」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

※ 健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年Ⅰ期に、「運動の基礎」の中で「発育･発達と老化」を履修する。

※ 認定心理士養成科目として、表中の科目以外に3年Ⅱ期に「行動分析論」と「社会心理学」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）	体育原理	講義		2			△		2									
		運動の基礎	講義		2	◇		△			2								
		運動生理学	講義		2	◇		△	□			2							
		運動生理学演習	演習		2								2						
		運動栄養学	講義		2	◇		△				2							
		子ども運動学	講義		2			△			2								
		子ども運動学演習	演習		2			▲				2							
		スポーツ医学概論	講義		2								2						
		スポーツ心理学	講義		2			▲					2						
		障害者スポーツ論	講義		2											2		［増田 和茂］	223
		スポーツ史	講義		2										2				
		スポーツ科学Ⅰ	演習		2									2					
		スポーツ科学Ⅱ	演習		2										2				
		トレーニング科学Ⅰ	演習		2							2							
		トレーニング科学Ⅱ	演習		2								2						
		体力測定と評価	講義		2	◇		▲		2									
		スポーツ実践Ⅰ	演習		3			△		3									
		スポーツ実践Ⅱ	演習		3			△			3								
		健康・体力づくり実践Ⅰ	演習		3			△				3							
		健康・体力づくり実践Ⅱ	演習		3	◇		▲					3						
		スポーツ指導法Ⅰ	演習		2			△						2					
		スポーツ指導法Ⅱ	演習		2			△							2				
		健康・体力づくり指導法Ⅰ	演習		2	◇								2					
		健康・体力づくり指導法Ⅱ	演習		2	◇									2				
		運動処方論	講義		2									2					
		運動処方演習	演習		2										2				
		専門施設実習	実習		2									④	④	④	④	徳田 泰伸・河野 稔	224, 225
		レクリエーション（野外活動を含む）	実習		2			△						4					
	Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）	病理学概論	講義		2								2						
		薬理学	講義		2		○								2				
		養護概説Ⅰ	講義		2		○			2									
		養護概説Ⅱ	講義		2		●				2								
		学校保健Ⅰ（小児保健・学校安全を含む）	講義		2		●	△	□		2								
		学校保健Ⅱ	講義		2		○	△	□			2							
		学校保健Ⅲ	講義		2		○	△	□				2						
		精神保健	講義		2		○	△	□			2							
		健康行動論	講義		2			△	□				2						
		健康統計学	講義		2			●	■					2					
		健康相談活動の理論と実践	講義		2		○								2				
		看護学概論	講義		2		○				2								
		看護学Ⅰ	演習		3		○					3							
		看護学Ⅱ（症状看護）	講義		2		○						2						
		看護学Ⅲ（疾患看護・介護を含む）	演習		3		○							3					
		看護学Ⅳ（ケーススタディ・治療法別看護）	演習		2		○								2				
		臨床基礎実習	実習		1		○					2							
		臨床看護実習	実習		2		○								4				
		救急看護（救急処置を含む）	演習		3		○	△	□					3					

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて登録、履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	運動実践指導者	教員免許関係 養護	教員免許関係 保健体育	教員免許関係 保健	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成24年度の担当者	ページ
専門教育科目	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3												3		三宅 一郎	226
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		大平 曜子	227
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		廣岡 義之	228
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		森田 義宏	229
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		多田 章夫	230
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		徳田 泰伸	231
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		木下 幸文	232
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		加藤 和代	233
		卒業研究Ⅰ	演習	3												3		河野 稔	234
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	三宅 一郎	235
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	大平 曜子	236
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	廣岡 義之	237
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	森田 義宏	238
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	多田 章夫	239
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	徳田 泰伸	240
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	木下 幸文	241
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	加藤 和代	242
		卒業研究Ⅱ	演習	3													3	河野 稔	243
教職に関する科目		教職概論	講義		2		○	△	□	2									
		教育原理	講義		2		○	△	□	2									
		教育史	講義		2		●	▲	■						2				
		教育制度論	講義		2		○	△	□		2								
		教育課程論	講義		2		○	△	□				2						
		保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）	講義		2			△	□			2							
		保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）	講義		2			△	□					2					
		保健科教育法Ⅰ（保健科教育教材研究）	講義		2				□				2						
		保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）	講義		2				□						2				
		保健体育科教育法Ⅰ（保健体育科教育研究）	講義		2			△					2						
		保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）	講義		2			△							2				
		道徳教育論	講義		2		○	△	□			2							
		特別活動論	講義		2		○	△	□				2						
		教育方法・技術論	講義		2		○	△	□				2						
		教育方法論	講義		2		●								2				
		生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2		○	△	□			2							
		教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2		○	△	□		2								
		総合演習	演習		2		○	△	□					2					
		中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5			△	□							5		三宅 一郎・大平 曜子・木下 幸文	244, 245
		高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3											3		三宅 一郎・大平 曜子・木下 幸文	246, 247
		養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5		○									5		大平 曜子・加藤 和代	248, 249

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

科目名	心理学応用実験				
担当者氏名	北島　律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 社会・文化・自然・健康を理解する　（知識・理解） ◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力）				

《授業の概要》
これまでに学んだ心理学の様々な知識を基に，自らが研究計画に関与し，その研究を実際に行える力を養成することが目的です．いくつかのテーマでは,受講生自身が基礎となる研究計画にアイディアを加えることや，研究のための準備を行うことが求められます．また，心理学基礎実験で身につけたレポート作成力を，より洗練されたものへと高めていきます．

《授業の到達目標》
○心理学の研究方法について，どのようなものがあり，それらがどういった特徴をもつか説明することができる．
○心理学の各領域における研究について，自らのアイディアを加えながら実際に行うことができる．
○洗練された研究レポートを作成することができる．

《成績評価の方法》
レポート80%　　受講態度10%　　発表10%

《テキスト》
なし(適宜，プリントを配布)

《参考文献》
『心理学実験法・レポートの書き方」　西口利文・松浦均(編)　ナカニシヤ出版　〈授業「心理学基礎実験」のテキスト〉
『認知心理学基礎実験入門』　兵藤宗吉・須藤智(編)　八千代出版
『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』　小塩真司　東京図書

《授業時間外学習》
授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください．レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください．送信先のメールアドレスは授業中に示します．レポートは添削し，次回の授業の前半で講評を行います．

《備考》
・本科目を受講するためには，前もって「心理学基礎実験」を修得しておくことが必要です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学基礎実験の復習，本科目における実験の概略の説明.
2	PCを刺激提示装置とした実験１：心的回転①	実験の説明，実験
3	PCを刺激提示装置とした実験１：心的回転②	実験のつづき，レポートの作成
4	PCを刺激提示装置とした実験２：意味記憶①	レポートの講評，実験の説明，実験
5	PCを刺激提示装置とした実験２：意味記憶②	実験のつづき，レポートの作成
6	PCを刺激提示装置とした実験３：IAT①	潜在的連合テストの体験，実験計画の検討
7	PCを刺激提示装置とした実験３：IAT②	実験準備
8	PCを刺激提示装置とした実験３：IAT③	実験，レポートの作成
9	質問紙を用いた調査1：性格	質問紙調査の説明　特性論に基づく性格検査の実施(BigFive)　レポートの作成
10	質問紙を用いた調査２：価値観①	調査の説明　調査計画の検討　質問紙の作成
11	質問紙を用いた調査２：価値観②	調査
12	質問紙を用いた調査２：価値観③	データの解析
13	質問紙を用いた調査２：価値観④	結果のまとめ，レポートの作成
14	プレゼンテーション	発表準備
15	プレゼンテーション	発表

科目名	教育特論Ⅲ				
担当者氏名	矢野琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する （総合的判断力・実践力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
スポーツの世界においても、体力や技術と同じくらい「考える力」や「表現力」「論理的思考能力」といった『知的能力』が重要となります。これらを身につける上で教養も大切になります。４年生での進路選択や社会で活躍するためにそれら基礎能力の養成は、各自の可能性を広げることにも繋がります。授業では、書籍を中心に幅広い知識の獲得およびディスカッション等を行います。

《授業の到達目標》
書籍等の内容を理解すること、ポイントをみつけること、その内容をまとめること、他者と意見交換できることを目標とします。それらを通して、社会人になるにあたっての基本的な考え方や教養の一部を身につけることも目標とします。

《成績評価の方法》
課題に対するレポート(70%)と発表(30%)で評価します。出席数が授業回数の2/3に満たない時は単位認定をしません。

《テキスト》
各授業ごとで事前に提示します。

《参考文献》
「わかりやすく伝える技術」講談社新書、「原稿用紙１０枚を書く力」大和書房、「言語技術が日本サッカーを変える」光文社新書、「日本経済新聞」、「マネーボール」ランダムハウス講談社

《授業時間外学習》
事前に資料等を入手し熟読しておくこと。その努力の過程が大切です。その上で、自分の考えをまとめ、発表できるように。あわせて新聞等の活字情報を積極的にチェックしておくこと。

《備考》
自ら積極的に授業に参加することを望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等を説明します。受講者は必ず出席すること。
2	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
3	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
4	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
5	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
6	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
7	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
8	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
9	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
10	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
11	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
12	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
13	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
14	テーマについての議論	指定されたテーマに関しての内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
15	全体のまとめ	これまでのまとめ＆補足。

《専門教育科目 Ⅱ群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	障害者スポーツ論				
担当者氏名	増田和茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する （知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識）				

《授業の概要》
スポーツは健常者だけが楽しみ豊かな生活と健康維持増進のために行うものではなく、障害がある者も同等に必要であり、権利として認められるものである。障害者が安心・安全にスポーツに取り組め、また、健康維持と社会参加への推進のために、障害を理解し、理論と実技の知識と実践指導力を身につける。

《テキスト》
障害者スポーツ指導教本（初級・中級）（株）ぎょうせい 1-4//
ئي ﷺ ﷺ ﷺ ﷺ ﷺ ﷺ ﷺ
ﷺ 0-4//

《参考文献》
アダプテッド・スポーツの科学ー障害者・高齢医者のスポーツ実践のための理論ー 市村出版 ￥3.990

《授業の到達目標》
スポーツの指導は年齢、性別、体力、技能と障害の有無など個々の対象に適応した運動の方法や運動量を指導することである。個人に応じた競技スポーツから健康維持増進のためのスポーツに対し、アダプテッドスポーツ（適応させる）の考え方で、幼児から高齢者、そして障害者への創意工夫の理論と実技指導ができる指導者を養成する。

《授業時間外学習》
別日程で障害者スポーツセンターで車いすバスケットボールや視覚障害者の卓球などを体験学習（実技）する。

《成績評価の方法》
１．出席率（20%）
２．レポートと小テスト（80%）
（１）障害者スポーツに関するテーマを提示し、その視点、内容を評価する。
（２）基本的な知識を4回の小テストで評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ	障害者の福祉施策と障害者のスポーツの基本的な知識を学び、現状と課題に触れる。
2	ボランティア論	障害者のスポーツ推進には、ボランティアの支援は欠かせない人財であり、その具体を学ぶ。
3	障害者スポーツの意義と理念	障害者がスポーツを行うことの意味と心身及び社会的な効果、具体的な事例から実際に対応できる知識を学ぶ。
4	日本障害者スポーツ協会資格認定制度	障害者スポーツの制度とその役割を知り、資格取得後の活動行動へ連動させる知識と情報を得る。
5	障害の理解とスポーツ（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
6	障害者に応じたスポーツの工夫（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）のスポーツ基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
7	障害の理解の理解とスポーツ（知的障害）	知的障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
8	障害者に応じたスポーツの工夫（知的障害）	知的障害のスポーツ基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
9	障害の理解の理解とスポーツ（精神障害）	精神障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
10	障害者に応じたスポーツの工夫（精神障害）	精神障害のスポーツ基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
11	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要、競技と種目、各競技規則を学び、予選ブロック大会やその選考大会となる各種大会を学ぶことで指導現場での情報を知る。
12	指導上の留意点と事例	障害、残存機能、性別、年齢、個人のスポーツ経験や目的の対応した指導上の留意点を学び事例報告から実践的な知識を身につける。
13	障害者との交流	障害意のある方から具体の生活、地域でのかかわりやスポーツに取り組むための現状と課題を聴き、社会や個人ができることを考究する。
14	安全管理と事例	スポーツの実施には、障害の有無に関わらず安全で効果的な運動が原則である。その中で障害者スポーツの事故事例などを学び、安全管理能力を習得する。
15	障害に応じた新たなスポーツの企画	障害者スポーツの指導や事業を計画するテーマから、プラン、実施、評価を踏まえてのシミュレーションをチームで企画する。

《専門教育科目　Ｉ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	専門施設実習				
担当者氏名	徳田　泰伸・河野　稔				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
民間・公共のスポーツ施設、病院・リハビリテーション等の医療施設、各種スポーツクラブ及びチーム、その他、指導教員が認めた施設・クラブ・チーム等において、社会人としての行動を身につけ、指導者としての心構え、指導法及び必要な技術的要策を理解する。

《授業の到達目標》
施設実習において、公共、民間、病院等の各種フィットネス施設における、スポーツ選手から生活習慣病予防改善に至る各種指導を実践することによって、その成果を確認すると共に、指導場面で発生する種々の問題の解決能力を養うことができる。

《成績評価の方法》
専門実習（６０％）、平常点（２０％）、小テスト（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
授業中に資料を配布する。

《参考文献》
ヘルス＆フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内○秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》
予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》
原則として、実習先の施設へは自らの意思で参加すること。
また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	概要、紹介、授業計画、当日スケジュール、評価、名簿確認作成 FC業界論・市場＝H・FCA民公企チーム、介病＝資格、能力[経.GSP]性格P可.将来
2	実習先の決定(1)	１：１面接・実習先の決定「補足・健僧法」希望近い、半期計画、当日、評価、名簿確認、就職のための（理論・実技・実務とジム・スタジオ・プール・エンターテイナー）
3	実習先の決定(2)	施設実習の依頼＝希望.調査. 面談、オーディション－評価－評価点（理論 総復習 Q&A）
4	実習先の決定(3)	施設実習の承諾＝写真－B （実技 総復習 Q&A） （案内＆W-up） １．オーディション実技テスト－採点 ２．面談＝病院、リハ、FC？
5	学外実習(1)	健康体力 管理システム（カルテ操作～プログラムデザイン）
6	学外実習(2)	事業計画の理解
7	学外実習(3)	施設、ハード面の習得
8	学外実習(4)	ソフトプログラム（ジム、スタジオ、プールの各種教室を指導する）
9	学外実習(5)	指導サービステクニックの習得（フロント～コーチ業）
10	学外実習(6)	安全管理の心得（CPR～施設管理、フロアー業務、メンテナンス）
11	学外実習(7)	施設利用、サインシステム、案内業務
12	学外実習(8)	年間イベント（企画と集客能力）
13	学外実習(9)	人事管理と業務評価
14	実習のまとめ	雑務（会議、機関誌、備品、文献等）
15	全体のまとめ	学習のまとめ

《専門教育科目　Ⅰ群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	専門施設実習				
担当者氏名	徳田　泰伸・河野　稔				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する　（総合的判断力・実践力） ○　2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う　（応用力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-2 効果的な意思疎通ができる　（コミュニケーション力） ○　3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる　（リーダーシップ）				

《授業の概要》
民間・公共のスポーツ施設、病院・リハビリテーション等の医療施設、各種スポーツクラブ及びチーム、その他、指導教員が認めた施設・クラブ・チーム等において、社会人としての行動を身につけ、指導者としての心構え、指導法及び必要な技術的要策を理解する。

《授業の到達目標》
施設実習において、公共、民間、病院等の各種フィットネス施設における、スポーツ選手から生活習慣病予防改善に至る各種指導を実践することによって、その成果を確認すると共に、指導場面で発生する種々の問題の解決能力を養うことができる。Ⅱ期においては学外での実習を重きを置いて指導力を高めていく。

《成績評価の方法》
専門実習（６０％）、平常点（２０％）、小テスト（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
授業中に資料を配布する。

《参考文献》
ヘルス＆フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内〇秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》
予習としては、配布資料をよく読み、実習先ごとの注意事項を確認しておくこと。
復習としては、最後に報告してもらうので、実習内容を記録しまとめておくこと。

《備考》
原則として、実習先の施設へは自らの意思で参加すること。
また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、２週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第１回目　挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第２回目　仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第３回目　仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第４回目　第３回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第５回目　第４回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第６回目　第５回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に客との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第７回目　第６回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第８回目　第７回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第９回目　第８回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確かめる）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
（1）卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
（2）インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
（3）個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》
自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。
統計分析の基礎が身につく。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
研究態度・分析力等（60%）
中間発表・中間報告書（40%）

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
「健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）
「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中　潔（共立出版株式会社）
「Excelによる健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学のためのﾃﾞｰﾀ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
　与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。
＜復習方法＞
　学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》
各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション、卒業研究の進め方	今後の卒業研究の進め方についてオリエンテーション。
2	テーマと研究計画について話し合う。	各自で興味を持ったテーマと研究計画を考える。
3	各自が決めた研究テーマについて	指導教官と具体的な計画を含めて考える。
4	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
5	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
6	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
7	各自で研究を進める	各自文献研究を参考に具体的に研究計画をまとめる。
8	研究の途中経過発表（1）	各自の研究計画についてまとめ発表する。
9	各自で研究を進める	研究計画をより具体的にする為、資料集めや予備実験をする。
10	各自で研究を進める	研究計画をより具体的にする為、資料集めや予備実験をする。
11	各自で研究を進める	研究計画をより具体的にする為、資料集めや予備実験をする。
12	各自で研究を進める	研究計画をより具体的にする為、資料集めや予備実験をする。
13	各自で研究を進める	資料や予備実験を参考にし、研究計画を具体的にまとめる。
14	各自で研究を進める	各自の研究計画についてプレゼンテーションを行なう。
15	研究の途中経過発表（2）	各自の研究計画についてまとめ提出する。

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》

健康科学の基礎理論をもとに、日常見過ごしている事柄を研究の視点で見直し、明らかにしたいことは何かを考えます。主に、人間を対象とする実証的研究を行うことになりますが、基本的方法や取り組み方は心理学の研究手法を参考にします。必須科目として健康科学の集大成と位置づけ、これまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、研究テーマや課題への接近方法には独自性も加え、自主的に研究に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

○研究テーマにそって、研究計画をたてることができる。
○研究方法を学び、科学的な調査･実験等の実施と結果の分析ができる。
○研究の目的や研究方法を説明できる。
○中間報告のレジュメを作成できる。

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告（６０％）、終了時に研究の中間発表（４０％）
１００点満点で６０点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

自分の興味関心の対象を明確にするため、関連の文献を検索し、読んでおく。
研究内容をノートに整理し、研究状況の報告書を作成する。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方、研究室の使い方などの説明と確認。 研究テーマの決定方法と手順について
2	問題意識と研究方法	研究のための基本的知識とスキルの確認。文献、先行研究検索の方法
3	研究テーマを見つける	先行研究検索
4	データ収集の方法	図書館において、文献検索、論文検索、入手方法などの研修
5	統計処理の方法（1）	統計手法の種類
6	統計処理の方法（2）	統計手法を用いて実際の統計処理を体験的に実習
7	結果の出力	グラフの書き方　グラフの種類
8	出力結果を読み取る	既存のデータを参考に、結果の読み方を学ぶ
9	研究計画の再考	各自の研究計画書の作成と提出
10	実験・調査の方法	各自の研究計画書に基づいて、実験や調査の計画作成、内容の決定及び作成。
11	実験・調査の実際	実験や調査の依頼にあたり、文書作成
12	レジュメの作成方法	レジュメの作成例をもとに中間報告のための各自のレジュメを作成する
13	実験・調査の結果	実験や調査の途中経過、結果の入力状況の確認、報告内容の決定。
14	発表	現在までの結果から分かったこと今後の進め方等について発表する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	廣岡義之				
授業方法	演習	単位・必選	7 7 7 7 3	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
教育人間学的手法の基礎を学ぶために、教育学の文献を解説する。さらに各人のテーマをゼミで発表することを通じて、卒業論文の準備の一環とする。

《テキスト》
適宜指示する。

《参考文献》
授業で紹介する。

《授業の到達目標》
幅広い教育学的テーマあるいは焦眉の教育問題のなかから、各人が興味・関心をひく題材を選び、主として文献研究を進めつつ、自ら探究し問題を解決することができる。

《授業時間外学習》
毎時間、授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》
口頭発表（50%）。
中間報告のレポート（50%）。

《備考》
研究テーマの決定や研究の進捗については日常的に打ち合わせをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 研究の進め方。	卒論のテーマ設定、方向性を議論する。
2	論文の書き方、文献の検索の仕方について。	具体的に先行論文等を提示して、書き方、文献の探し方を教授する。
3	論文の書き方、文献検索の仕方について。	実際に、自分のテーマを選び、論文を書き始める。
4	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
5	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
6	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
7	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
8	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
9	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
10	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
11	各自の研究を計画的に進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
12	研究成果の中間発表。	ある程度まとまった内容を中間的に発表する。
13	研究成果の中間発表。	ある程度まとまった内容を中間的に発表する。
14	今後の研究計画の作成。	Ⅱ期に向けて、本格的な卒論のための章立てを行う。
15	今後の研究計画の作成。	Ⅱ期に向けて、本格的な卒論のための章立てを行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	森田　義宏				
授業方法	講義	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	7 7 7 7 4 ＋ 3
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
これまで学んできた専門領域の知識をもとに、自ら興味関心あるテーマを決め、卒業論文作成の可能性を探査する。テーマ確定後、研究計画を作成し、必要な文献・資料を収集する。

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》
＊そのテーマを選定した理由について、正確な文章で表現できる。
＊テーマについて、専門的な用語を用いて表すことができる。
＊テーマに関して、図書館やコンピュータで、文献や必要な情報を検索し、収集できる。
＊収集した資料や情報を整理し、テーマに沿ってまとめ、プレゼンテーションできる。

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》
研究計画を作成するための努力、着想に基づいて、提出された研究計画書で評価。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒論作成へのスケジューリング　文献資料の探し方　Ｃｉｎｉｉの検索　アイディアのまとめ方（ＫＪ法）
2	論文の書き方	論文と感想文の相違
3	研究テーマの絞り込み１	情報の探索と収集　情報整理学　ｋｊ法
4	研究テーマの絞り込み２	情報の探索と収集　情報整理学　ｋｊ法
5	論文の書き方１	論文の構成　章立て
6	論文の書き方２	論文の構成　章立て
7	研究テーマの絞り込み１	資料収集　まとめ　構成　個別指導
8	研究テーマの絞り込み２	資料収集　まとめ　構成　個別指導
9	研究テーマの絞り込み３	資料収集　まとめ　構成　個別指導
10	研究計画の作成１	個別指導　データ処理と統計
11	研究計画の作成２	個別指導　データ処理と統計
12	研究計画の作成３	個別指導　データ処理と統計
13	報告会	研究計画の報告
14	研究計画の実施に向けて１	個別指導　質問紙・調査票作成
15	研究計画の実施に向けて２	個別指導　質問紙・調査票作成

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 3				
担当者氏名	多田章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
研究とはいかなるものか、どのように進めていくかを理解するとともに、実践していく力を養う。研究テーマを決定し、研究目的を明らかにし、研究の円滑な推進に必要な準備を行っていく。

《テキスト》
指定しない。

《参考文献》
必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》
1　疫学の概念を理解する
2　研究の手法を理解し実践できるようになる
3　研究に必要な文献を渉猟し、その内容を理解する

《授業時間外学習》
1　研究に必要な文献、資料等を積極に渉猟する
2　常に、自分の研究の論理、仮説等を考える

《成績評価の方法》
1　平常点（研究意欲、進捗状況、）50%
2　中間報告50%

《備考》
卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×２）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・研究の進め方の説明	疫学的研究とはどのように行うものなのか、今後、卒業研究で何を行っていくのかを理解する。
2	研究テーマの決定	今年度行っていく卒業研究のテーマを決定し、研究の方向性の概略を示す。
3	研究目的の決定・研究の設計	研究の目的を明確にし、目的達成のために必要な研究手法を理解する。
4	研究の設計（対象者・分析内容の決定）	疫学的なデータを入手するにあたり、対象者をどのような集団に設定するか、主な調査項目は何かを考える。
5	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
6	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
7	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
8	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
9	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
10	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
11	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
12	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
13	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
14	研究の設計・資料収集	調査用紙を完成させるとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
15	中間報告レポートのまとめ	第１-14週にかけて行ってきたこと（目的、対象、方法、参考文献）を中間報告としてまとめる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	徳田　泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》
その都度指示する

《参考文献》
授業で紹介する

《授業の到達目標》
自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。
統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》
話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》
研究態度・分析力等（６０％）、中間発表・中間報告書（４０％）　授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（１）	研究の途中経過発表（１）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究	各自で研究を進める
15	研究の途中経過発表（２）	研究の途中経過発表（２）

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
研究実施計画・方法等の立案
研究実施準備（課題に関連する分野の文献調査・予備研究等）
関連する研究論文の輪読
予備実験の実施
研究の中間報告

《テキスト》
特に指定しない

《参考文献》
その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》
卒業研究では、これまで学んできた知識をもとに、運動やスポーツに関する研究活動を通じて、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し，実際にその効果を確認するために実験を行いながら基本的研究能力と問題解決能力を培うことが出来る。

《授業時間外学習》
研究内容について日々精査すること。

《成績評価の方法》
日々の研究に望む姿勢(40%)と中間報告会（発表・抄録）の内容(60%)から総合的に判断する。

《備考》
研究の内容や進捗状況によっては時間割外に勉強会を行う。時間割に設定された時間だけ行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究仮説の設定	研究の進め方について
2	研究仮説の設定	研究テーマの設定
3	研究仮説の設定	研究テーマの設定
4	研究仮説の設定	研究テーマの設定
5	研究仮説の設定	研究テーマの設定
6	研究仮説の設定	研究テーマの設定
7	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
8	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
9	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
10	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
11	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
12	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
13	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
14	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
15	研究成果報告	研究報告会（中間報告会）の実施

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	加藤和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する （情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる （コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる （リーダーシップ）				

《授業の概要》
これまでに学んだ心とからだの健康科学の基礎理論をもとに、自分が関心を持つ社会や教育の事象に目を向け、テーマに沿った研究方法を学び、計画的に自ら探求していく態度を養う。

《テキスト》
適宜指示する

《参考文献》
適宜指示する

《授業の到達目標》
○研究に関する資料を作成し、研究計画を立てることができる
○問題意識にもとづいて、明らかにしたいことを明確に表現できる
○テーマに関する参考文献、先行研究、統計資料などから意味や問題を読み取ることができる

《授業時間外学習》
研究の進捗状況を毎授業日に提出すること

《成績評価の方法》
研究姿勢、進捗状況 （５０％）中間発表（５０％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方
2	研究の理解	先行研究、文献等検索
3	研究の理解	研究方法、研究目的、研究計画
4	研究の理解	情報収集：データ収集の方法、質問紙の作成の仕方
5	研究計画の作成	経過報告、検討
6	研究計画の作成	経過報告、検討
7	各自で研究を進める	経過報告、検討
8	各自で研究を進める	経過報告、検討
9	各自で研究を進める	経過報告、検討
10	各自で研究を進める	経過報告、検討
11	各自で研究を進める	経過報告、検討
12	各自で研究を進める	経過報告、検討
13	各自で研究を進める	経過報告、検討
14	中間報告書の作成	研究目的、研究概要、研究計画
15	中間報告会	研究目的、研究概要、研究計画

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する　（情報収集力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で基盤となる、研究手法の基礎について学ぶ。
具体的には、各自のテーマに沿って、ICT（情報通信技術）を活用した研究活動、さまざまなデータの統計的分析の基礎を実践的に習得する。

《授業の到達目標》
○研究テーマに沿って、先行研究や各種資料を効率的に収集できる。
○統計的手法を用いて、各種の調査・実験を実施し、結果を分析できる。
○ICTを活用して、資料や調査・実験結果をまとめ、効果的に説明できる。

《成績評価の方法》
授業時間の提出物（50%）とレジュメ等の課題（50%）で評価する。

《テキスト》
使用しない。

《参考文献》
参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》
各自のテーマについて、先行・関連研究を読み込み、その研究内容や手法について理解し、疑問点などを整理しておくこと。学習内容をノートなどに記録し、自らのテーマに活用できるよう、実践的を通して習得しておくこと。

《備考》
専門分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明
2	文献・資料の調査(1)	アイデアの発散・収束・整理、テーマの絞り込み
3	文献・資料の調査(2)	図書館を活用した文献・資料の調査
4	文献・資料の調査(3)	学術情報データベースを活用した文献・資料の調査
5	文献・資料の調査(4)	調査した文献・資料の整理とその活用
6	統計的手法の利用(1)	記述統計（代表値と分散値）
7	統計的手法の利用(2)	記述統計（相関と回帰）
8	統計的手法の利用(3)	推測統計（区間推定、仮説検定の基礎）
9	統計的手法の利用(4)	推測統計（パラメトリックな検定手法）
10	統計的手法の利用(5)	推測統計（ノンパラメトリックな検定手法）
11	レジュメの作成(1)	レジュメ作成上の注意事項、レジュメに必要な情報の整理
12	レジュメの作成(2)	レジュメの作成
13	レジュメの作成(3)	レジュメの作成と自己添削
14	レジュメの作成(4)	レジュメの完成
15	まとめ	全体の学習のふり返り

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
（1）卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
（2）インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
（3）個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》
自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。
統計分析の基礎が身につく。発表能力を身につける。報告書作成方法を習得する。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
研究態度・分析力等（60%）
論文作成・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ能力（40%）

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
「健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）
「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中　潔（共立出版株式会社）
「Excelによる健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学のためのﾃﾞｰﾀ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
　与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。
＜復習方法＞
　学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》
各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の問題点について話し合い	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
2	各自で研究を進める	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
3	各自で研究を進める	指導教官と具体的な研究計画を最終確認する。
4	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
5	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
6	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
7	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
8	中間発表（1）、各自で研究を進める	これまでの調査、実験、集計、分析、結果を報告する。
9	中間発表（2）、各自で卒論の作成をおこなう	卒業論文を具体的にまとめる。
10	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
11	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
12	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
13	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
14	卒業研究発表会の準備と事前発表会	卒業論文発表資料作成。
15	卒業研究の発表会	卒業論文を発表する。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 3-1 [illegible] ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-4 [illegible])				

《授業の概要》

これまで収集した文献や資料を有効に利用し、仮説・分析・考察といった、知的活動を通じて、テーマの流れを学びます。ゼミ内での意見交換は研究を客観的にみるうえで有効です。

心理学では一般的に実験や調査などの実証的方法を用いますが、統計的データ分析を行うとともに、科学性、公共性、倫理性など研究として成立するための諸条件について理解したうえで、論文を完成させていきます。

《授業の到達目標》

○研究計画にそって、研究を進めることができる。
○科学的な研究方法をとり、調査･実験等の結果を有効に利用できる。
○研究の目的や研究方法を説明できる。
○最終報告のレジュメを作成する。
○研究の概要をプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告（２０％）、論文の提出（４０％）、最終の卒業研究発表会で発表する（４０％）
１００点満点で６０点以上を合格とする。

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

文献検索や調査･実験など各自の研究方法に基づく研究の推進。
研究内容をノートに整理し、論文にまとめていく。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業研究Ⅰの内容のまとめ 夏季休暇中の進捗状況の確認と今後の計画の修正
2	データの入力	データ集約
3	結果の出力	論文掲載のための結果出力
4	データの分析	論文完成までの間、データ分析は継続。
5	論文作成　はじめに	今回から5回にわたり、論文の各章を作成し、毎回提出する。
6	論文作成　１章	はじめにの修正、１章の草稿提出
7	論文作成　２章	１章の修正、２章の草稿提出
8	論文作成　３章	２章の修正、３章の草稿提出
9	論文作成　４章　まとめ	３章の修正、４章とまとめの草稿提出（３章までの場合は、まとめのみ）
10	論文草稿提出	目次や参考文献、資料等を添付し、体裁を整える。
11	論文校正 レジュメ作成	レジュメを作成し、同時に発表原稿を作成する。
12	発表用スライド作成	パワーポイントの操作に習熟する。
13	発表(1)	プレゼンテーションの実際を体験する。
14	発表(2)	健康科学領域の研究を、他者の論文発表を通じて学び、プレゼンテーションの仕方を学習する。
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	廣岡　義之				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
教育人間学的手法の基礎を学ぶために、教育学の文献を解説する。さらに各人のテーマをゼミで発表することを通じて、卒業論文の準備の一環とする。また学びあうために、他者との意見交換を頻繁におこなう。

《授業の到達目標》
幅広い教育学的テーマあるいは焦眉の教育問題のなかから、各人が興味・関心をひく題材を選び、主として文献研究を進めつつ、自ら探究し問題を解決することができるようにする。

《成績評価の方法》
口頭発表（50%）。
論文の完成（50%）。

《テキスト》
適宜指示する。

《参考文献》
適宜指示する。

《授業時間外学習》
自分で取り組むテーマについて毎週、ゼミで報告するための学習が求められる。

《備考》
自己研鑽と持続性が要求される。研究テーマの決定や研究の進捗については日常的に打ち合わせをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究経過の報告　および オリエンテーション	Ⅰ期で進めた研究経過を報告する。
2	各自の研究計画の作成	卒論完成までの計画を作成する。
3	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
4	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
5	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
6	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
7	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
8	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
9	論文の作成	全体的に完成されるために、論の統一、註の統一等、詳細をつめる。
10	論文の作成	全体的に完成されるために、論の統一、註の統一等、詳細をつめる。
11	論文の作成	全体的に完成されるために、論の統一、註の統一等、詳細をつめる。
12	研究成果の発表の準備	まとめたものを10分程度のレジュメに要約する。
13	研究成果の発表の準備	まとめたものを10分程度のレジュメに要約する。
14	卒業研究の発表会	プレゼンテーションの具体的準備をする。
15	卒業論文の提出と反省会	印字して期限内に提出。反省会を持つ。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	森田　義宏				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
らが決めたテーマに沿って、必要な文献・資料を収集し、読み解き、必要に応じて調査もおこない、資料・データを分析し、それらを総合して卒業論文へとまとめ上げる。
授業では、研究計画に沿って、必要な文献や資料やデータを収集し、それらを分析し、関連づけ、論文としてまとめあげる。

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》
テーマにそって集めた資料を取捨選択し、必要な情報を取り出すことができる。
自分の考えや理論の正しさについて、データや資料を使って証明していくことができる。そのようにして調べたことを論文としてまとめることができる。

《成績評価の方法》
論文内容８０％（構想、構成、分析、表現）、発表２０％

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中に随時紹介する

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Ⅱ期までの卒業研究の進捗状況の報告	プレゼンテーション
2	調査票・質問紙の作成、予備調査	調査対象の選定　質問項目の選定
3	予備調査・予備実験の整理	調査対象の見直し　質問項目の見直し　実験方法・手続きの見直し
4	本調査・本実験の実施１	調査実施　実験実施　データ入力
5	本調査・本実験の実施２	調査実施　実験実施　データ入力
6	本調査・本実験の結果整理１論文作成	データ入力　グラフ化　統計処理　個別指導
7	本調査・本実験の結果整理２論文作成	データ入力　グラフ化　統計処理　個別指導
8	論文作成	章立てにもとずいて論文作成　序論　目的　方法　結果　考察　個別指導
9	論文作成	章立てにもとずいて論文作成　序論　目的　方法　結果　考察　個別指導
10	論文作成	章立てにもとずいて論文作成　序論　目的　方法　結果　考察　個別指導
11	論文レジメ作成	レジメ作成　パワーポイントでのスライド作成・説明準備　個別指導
12	論文レジメ作成	レジメ作成　パワーポイントでのスライド作成・説明準備　個別指導
13	卒論プレゼンテーション準備	プレゼン練習
14	卒論プレゼンテーション準備	プレゼン練習
15	卒論プレゼンテーション準備	プレゼン反省

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	多田章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	、、、、3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
研究を行う上で必須である基本的な手技を身につける。研究により得られたデータを分析し、その内容からどのような所見が導き出せるか、先行研究等と比較してどのような状況にあるか等を考察し結論を導き出す。

《テキスト》
指定しない。

《参考文献》
必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》
1 研究データを正確に分析する能力を身につける
2 分析データと先行研究との比較を行う能力を身につける
3 分析データから正しい結論を導き出す能力を身につける

《授業時間外学習》
1 研究に必要な文献、資料等を積極に渉猟する
2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える

《成績評価の方法》
1 平常点（研究意欲、進捗状況、）40%
2 作成論文60%

《備考》
卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×２）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究結果の解析	アンケート調査等により得られたデータをコンピューター（excelシート）に入力する。
2	研究結果の解析	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。
3	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
4	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
5	研究結果の解析	SPSSを用いてカテゴリー間の頻度の差に関する有意差検定を行う
6	研究論文作成	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
7	研究論文作成	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
8	研究論文作成	どのような対象者を用いたか、どのようにしてデータを入手し解析したかを記載する。
9	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
10	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
11	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
12	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
13	卒業論文提出	卒業論文を完成させて提出する。
14	卒業研究発表の準備	卒業論文発表用の要旨を完成させるとともに、発表媒体（パワーポイント等）を完成させる。
15	卒業研究の発表	卒業論文発表用の原稿を完成させ、その内容の概要を把握する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	徳田　泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
(1)卒業研究は毎週、パソコンを利用して統計資料の入力と統計分析を行う。
(2)論文の書き方について学ぶ。
(3)インターネットを利用し、統計資料の収集を行う。
(4)個人指導を行う。

《テキスト》
その都度指示する

《参考文献》
授業で紹介する

《授業の到達目標》
自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。
統計分析の基礎が身につく。発表能力を身につける。報告書作成方法を習得できる。

《授業時間外学習》
話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》
研究態度・分析力等（２０％）、卒業研究論文（２０％）、研究発表（６０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の問題点	卒業研究の問題点について話し合い
2	研究	各自で研究を進める
3	研究	各自で研究を進める
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	中間発表（1）	中間発表（1）、各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究	各自で研究を進める
9	研究	各自で研究を進める
10	中間発表（2）	中間発表（2）、各自で研究を進める
11	卒論の作成	各自で研究を進める
12	卒論の作成	各自で研究を進める
13	卒論の作成	各自で研究を進める
14	準備と事前発表会	卒業研究発表会の準備と事前発表会
15	発表	卒業研究の発表会

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	木下　幸文				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
実験の実施と各指標の測定及び分析
卒業研究論文の作成
最終成果報告として卒業論文発表会の実施

《テキスト》
特に指定しない

《参考文献》
その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》
卒業研究では、これまで学んできた知識をもとに、運動やスポーツに関する研究活動を通じて、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し，実際にその効果を確認するために実験を行いながら基本的研究能力と問題解決能力を培うことが出来る。

《授業時間外学習》
研究内容について日々精査すること。

《成績評価の方法》
卒業論文と卒業研究発表会(80%)、日々の研究に望む姿勢(20%)から総合的に判断する。

《備考》
研究の内容や進捗状況によっては時間割外に勉強会を実施する。時間割に設定された時間だけ行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験（研究）の実行	各自で研究を進める
2	実験（研究）の実行	各自で研究を進める
3	実験（研究）の実行	各自で研究を進める
4	実験（研究）の実行	各自で研究を進める
5	実験（研究）の実行	各自で研究を進める
6	実験（研究）の実行	各自で研究を進める
7	実験の検証	各自で研究を進める
8	実験の検証	各自で研究を進める
9	実験の検証	各自で研究を進める
10	実験の検証	各自で研究を進める
11	実験の検証	各自で研究を進める
12	実験の検証	各自で研究を進める
13	実験の検証	各自で研究を進める
14	実験の検証	各自で研究を進める
15	総括	卒業論文発表会

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	加藤和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる （情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく （知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 （生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる （専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する （統合的技術力）				

《授業の概要》
自らテーマを設定し、取り組み方を見出し、検証していくなどの研究過程は、柔軟な発想と積極性があれば面白味も生まれる。研究論文を書き上げ、研究発表を行うことは、大学4年間の集大成であり、最も自分を成長させる場とすることができる。論文執筆、研究発表をとおして卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の要請も目指す。

《授業の到達目標》
○研究の成果を論理的多面的に「卒業論文」としてまとめることができる
○研究の成果を『研究発表会』でわかりやすく適切に表現し伝えることができる。

《成績評価の方法》
研究姿勢、進捗状況（３０％）研究論文（４０％）
研究発表（３０％）

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
各自のテーマに合わせて、必要な文献をその都度紹介する

《授業時間外学習》
研究の進捗状況を毎授業日に提出すること

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究経過報告、研究計画確認
2	研究のまとめ方	論文の構成　章立てと内容
3	研究の分析	経過報告、検討
4	研究の分析	経過報告、検討
5	研究の分析	経過報告、検討
6	研究のまとめ	経過報告、検討
7	研究のまとめ	経過報告、検討
8	論文の作成と添削	経過報告、検討
9	論文の作成と添削	経過報告、検討
10	論文の作成と添削	経過報告、検討
11	卒業論文の提出	経過報告、検討
12	研究発表の準備	抄録作成、検討
13	研究発表の準備	パワーポイントスライド作成
14	研究発表会	研究発表の振り返り、論文の修正
15	まとめ	研究発表の振り返り、論文の修正

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	河野　稔				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる　（情報発信力） ○　2-2 複合的に絡み合う問題に気づく　（知識の統合） ○　2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度　（生涯学習力） ○　3-1 人間を理解し、適切な指導ができる　（専門的知識） ○　3-4 課題解決のためのプログラムを構築する　（統合的技術力）				

《授業の概要》
これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で必要となる、研究手法の活用について学ぶ。
具体的には、各自のテーマに沿って、さまざまな統計的手法とICT（情報通信技術）を適切に活用し、卒業論文をまとめ上げるための知識や技能を、実践を通じて習得する。

《授業の到達目標》
○研究テーマに沿って、必要な文献や各種資料を収集できる。
○統計的手法とICTを用いて、調査・実験を計画・実施し、適切に分析できる。
○ICTを活用して、論文や口頭発表の資料をまとめることができる。

《成績評価の方法》
レポートなどの提出（20%）と卒業論文の提出（40%）と口頭発表の内容（40%）で評価する。

《テキスト》
使用しない。

《参考文献》
参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》
先行・関連研究で用いられた情報や手法などへの理解を進め、自らの研究にどのように適用するかを検討しておくこと。
研究計画に基づいて、研究活動を自主的に進め、その状況や調査・実験の結果を逐一を記録し整理しておくこと。

《備考》
専門分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明、研究経過の報告
2	調査・実験結果の活用(1)	表計算ソフトを利用した結果データの整理
3	調査・実験結果の活用(2)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
4	調査・実験結果の活用(3)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
5	調査・実験結果の活用(4)	分析結果のワープロやプレゼンテーションソフトでの利用
6	卒業論文の作成(1)	ワープロを利用した論文作成
7	卒業論文の作成(2)	卒業論文の作成
8	卒業論文の作成(3)	卒業論文の作成と添削
9	卒業論文の作成(4)	卒業論文の作成と添削
10	卒業論文の作成(5)	卒業論文の仕上げ、卒業論文の提出
11	研究成果の発表の準備(1)	抄録（レジュメ）の作成と添削
12	研究成果の発表の準備(2)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
13	研究成果の発表の準備(3)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
14	卒業研究の発表会	卒業研究の口頭発表
15	まとめ	全体のふり返り

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅　一郎、大平　曜子、木下　幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに，その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》
教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに，教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では，教育実習を通して学んだことを，教育実習前の自己の教育観，学校観，生徒観等と対比させながら，適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》
基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。
教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」（20%）教育実習記録(実習ノート)（40%）事前事後指導での活動（40%）

《テキスト》
兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」
その他、適宜紹介する

《参考文献》
文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》
＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時よってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》
履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅　一郎、大平　曜子、木下　幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに，その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》
教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに，教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では，教育実習を通して学んだことを，教育実習前の自己の教育観，学校観，生徒観等と対比させながら，適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》
基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。
教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」（20%）教育実習記録(実習ノート)（40%）事前事後指導での活動（40%）

《テキスト》
兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」
その他、適宜紹介する

《参考文献》
文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》
＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時よってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》
履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅　一郎、大平　曜子、木下　幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに，その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》
教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに，教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では，教育実習を通して学んだことを，教育実習前の自己の教育観，学校観，生徒観等と対比させながら，適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》
基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。
教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」（20%）教育実習記録(実習ノート)（40%）事前事後指導での活動（40%）

《テキスト》
兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」
その他、適宜紹介する

《参考文献》
文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》
＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時よってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》
履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅　一郎、大平　曜子、木下　幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに，その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》
教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに，教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では，教育実習を通して学んだことを，教育実習前の自己の教育観，学校観，生徒観等と対比させながら，適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》
基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。
教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」（20%）教育実習記録(実習ノート)（40%）事前事後指導での活動（40%）

《テキスト》
兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」
その他、適宜紹介する

《参考文献》
文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局
文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》
＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時よってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》
履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習(事前事後指導を含む)				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定めたうえで、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時）から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

○養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
○養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
○定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
○実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。
実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む）(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考文献》

「新養護概説」　　采女智津江編　　少年写真新聞社
「児童・生徒の健康診断マニュアル」日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。
基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。
実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位）の4単位分に相当する本実習を含む。免許取得の意志を明確にし、主体的に参加する。学生気分を退け、児童生徒の範となる言動をこころがける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習直前指導、
2	保健指導の模擬	模擬授業、相互評価、
3	保健室での実習	養護教諭の仕事内容
4	定期健康診断	進め方、
5	目標に沿った事前準備	各自の目標の確認、実習校との打ち合わせ内容の確認
6	各学校の事前指導	保健指導、保健行事、担当クラス、保健室業務内容など
7	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
8	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
9	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
10	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
11	実習終了後の処置	礼状作成、実習内容の整理、異なる校種間での報告
12	実習終了後の処置	実習報告会に向けて内容の確認
13	実習成果のまとめ	法的根拠の確認
14	実習成果のまとめ	(グループ討議)
15	実習成果のまとめ	(グループ討議)

《教職に関する科目》

科目名	養護実習(事前事後指導を含む)				
担当者氏名	大平曜子、加藤和代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定めたうえで、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時）から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

○養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
○養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
○定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
○実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。
実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む）(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考文献》

「新養護概説」　　采女智津江編　　少年写真新聞社
「児童・生徒の健康診断マニュアル」日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。
基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。
実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位）の事後指導１単位分に相当する。実習報告会に向けて4週間の内容を整理し、学校勤務の今後に備える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習終了の処理	成果の共有のため、グループで報告
2	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
3	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
4	実習報告会の準備	スライドの作成、レジュメの作成、会の運営についての話し合い
5	実習報告会の準備	各自の発表原稿の作成
6	実習報告会のでの発表	会の運営、各自の発表、質疑応答、
7	実習の総括	成果のまとめ
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		